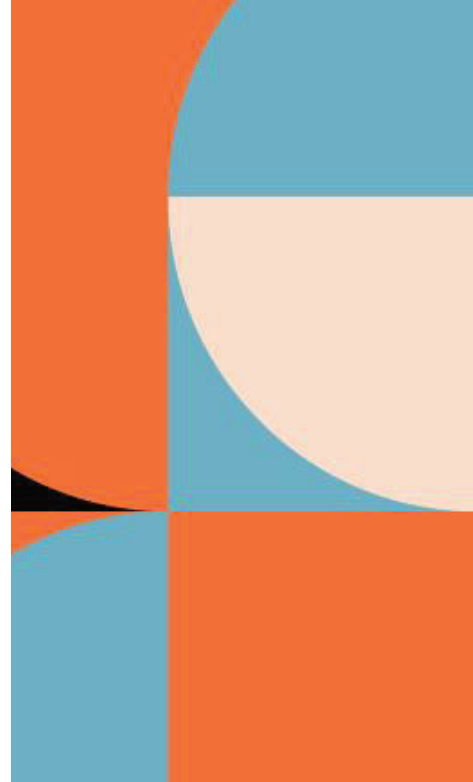


経済産業省 令和5年度 「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」 中間報告会

2023年11月22日 朝日広告社

※本資料は2023年11月22日に開催した経済産業省令和5年度フェムテック等サポートサービス実証事業中間報告会の発表資料を一部まとめたものであり、内容は同日時点のものとなります。



中間報告

株式会社MamaWell



パーソナル助産師によるデータに基づいた母子の健康伴走サポートサービス
—確かな信頼と安心を届け、母子のwell-beingを実現—

◆ 目的：正常経過から逸脱する妊婦を減らすこと

- (1) 妊娠合併症・妊娠中のマイナートラブルの発生率の低下
- (2) 妊娠に伴う離職率の低下・労働パフォーマンス維持
- (3) 妊娠期・産褥うつの発生率の低下

【パーソナル助産師によるデータに基づいた母子の健康伴走サポートサービス】



ウェアラブル端末で
健康モニタリング



データに基づく
生活プランニング



不安や悩みに寄り添う
定期面談

就労妊婦一人一人に
専属の助産師が
健康を伴走サポート

ウェアラブルデバイスを
貸与・常時装着・
弊社開発アプリで記録

週に1度個別相談実施

いつでもチャットで
専属の助産師に相談

実施計画に基づき実施したこと

- ・チラシ作成、協力機関で配布開始 → チラシ内容の見直し、修正
- ・ランディングページ作成、実装
- ・アンケート（事前・事後・産後）設計
- ・協力企業との利用開始に関する打ち合わせ
- ・企業セミナー作成
- ・企業セミナー事後アンケート設計
- ・協力企業でのセミナー開催、事後アンケート実施
- ・協力企業での周知開始
- ・協力医療機関での周知開始：対象者にチラシ配布
- ・利用申込受付を開始、サービス開始
- ・プレスリリース作成・発出
- ・ポスティング実施
- ・協力企業・機関の追加開拓



チラシ



利用者確保に向け、利用者の声の掲載や
実証事業中は無料で利用可能な旨を強調



サービス内容を詳しく紹介する
ランディングページを新規開設
(<https://personaljosanshi.mamawell.jp/>)

プレスリリース発出・セミナー開催

SocioFuture株式会社の社員を対象に、「働く妊婦の身体の変化と適切なサポート」について株式会社MamaWellがセミナーを開催

株式会社MamaWell

© 2023年10月31日 13時03分



パーソナル助産師によるヘルスデータに基づいた妊婦伴走サポートサービスを提供する株式会社MamaWell（本社：茨城県つくば市／代表取締役 岡まりか）は、経済産業省の令和5年度「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」事業の一端として、SocioFuture株式会社（本社：東京都港区／代表取締役 社長執行役員COO 首原彰彦）の社員を対象に、「働く妊婦の身体の変化と適切なサポート ～妊婦さんと管理者の二つの目線から～」をテーマとしたセミナーを10月11日に開催しました。



経済産業省 令和5年「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」の無料トライアル企業を募集しています。

（詳細はこちら： <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000116438.html>）

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000116438.html>

協力企業の社員を対象とした セミナーの反響

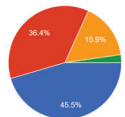
満足度

…81.9%

理解のしやすさ

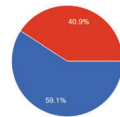
…100%

今回のセミナー内容はいかがでしたか？
44件の回答



- 非常に満足
- 満足
- やや満足
- やや不満足
- 非常に不満足

セミナーの内容は理解しやすかったですか？
44件の回答



- 非常に理解しやすい
- 理解しやすい
- やや理解しやすい
- やや理解しにくい
- 非常に理解しにくい

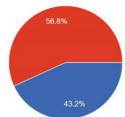
参加者のうち
管理職割合

…43.2%

実際の職場で役に立つ
と感じた

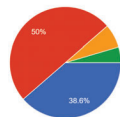
…88.6%

社員区分を選択ください。
44件の回答



- 管理職
- 一般職

提供された情報やノウハウは、実際の職場で役に立つと感じましたか？
44件の回答



- 非常に役に立つと感じる
- 役に立つと感じる
- やや役に立つと感じる
- 役に立たないと感じる
- 全く役に立たないと感じる

分かってきたこと・課題

セミナーは全従業員を対象に開催したところ、参加者の半数が管理者層であり、管理者層の関心の高さがうかがえた。「妊婦は一律に業務負担軽減を望んでいると思い込んでいたが、人によって就業意欲が異なることが分かった」という新たな気付きや、「自社がこのような取り組み（妊婦のサポート）を行っていることが嬉しい」という肯定的な感想が多く見られた。

【課題】

- ・ 予定している実証協力企業社数の確保が遅延
- ・ 導入企業内の就労妊婦が僅少



予定している利用者数確保が遅延

対応策

- ・ 外部機関による企業打診の依頼継続
- ・ 医療機関での周知協力依頼
- ・ 自治体協力のもと、個人利用者獲得のための周知
- ・ 新たなビジネスモデルとしての実証先開拓販路の拡大

今後の成果の見通し・展望

リクルーティング施策の見直し

企業内の就労妊婦が僅少

→導入企業のみでのユーザー確保の限界



開拓販路の拡充

マーケティング施策の強化

to C向けのリクルーティングを開始

今後の予定

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

導入先企業リクルート

チラシ作成

セミナー開催

チラシ内容
の見直し

導入企業にて
セミナー開催
事後アンケート
実施

導入企業にて
セミナー開催
事後アンケート
実施

サービス社内周知

利用者リクルート開始
事前アンケート実施

事後アンケート
インタビュー

to C 向けマーケティング及びリクルーティング

分析
報告

トライアル利用者 募集中！



実証にご参加いただける

企業様、自治体様、医療機関様、個人の妊婦様を
募集しております。

ぜひお気軽に以下までお問い合わせください。

お問い合わせ先：info@mamawell.jp



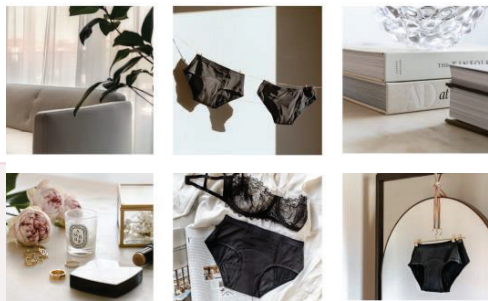
こちらから
お問い合わせフォームに
アクセスいただけます。

中間報告

株式会社Period.

就業女性の月経に関する健康課題についての自己理解
管理者と従業員及び従業員同士の相互理解促進事業

～吸水ショーツをきっかけとした教育プログラムの開発～



事業について

●目的

吸水ショーツをきっかけに、女性自身、管理者、従業員というそれぞれの立場から月経に関して理解することが女性活躍を推進し働きやすい職場づくりに繋がることを知ってもらう。

●目標

- ①女性自身が月経に関してこれまでとは異なるケア方法があることを知り、その効果を実感することで月経に対する負担感や考え方が変容し仕事のパフォーマンスを向上させる。
- ②吸水ショーツによる効果検証の結果を客観的に示すことで、男女問わず、月経に関する意識を向上させる。

●事業の背景

吸水ショーツが心身の変化をもたらすツールになりうる商品であることを顧客コミュニケーションから感じていました。また、月経の不調は女性の健康に関する知識を当事者と周囲の人々で等しく持つことが解決の糸口でもあると考えられるため、吸水ショーツを通じて女性が身体に関心を持つ機会を提案し、さらに女性だけでなく同僚や管理職の理解が得られるようなコミュニケーションと相互理解の鍵となるきっかけを探求する必要があり実証に挑戦しました。

実施事業

STEP1：実証研究「就業女性の月経に関する課題と仕事のパフォーマンスに対する吸水ショーツの効果」

「吸水ショーツ」という日本ではまだ馴染の薄いフェムテック製品を用いた効果検証を行うことは、その自体を知ることになり、さらに吸水ショーツや月経ごとの調査に参加することで、自らの月経に関心を向ける機会になると想定。

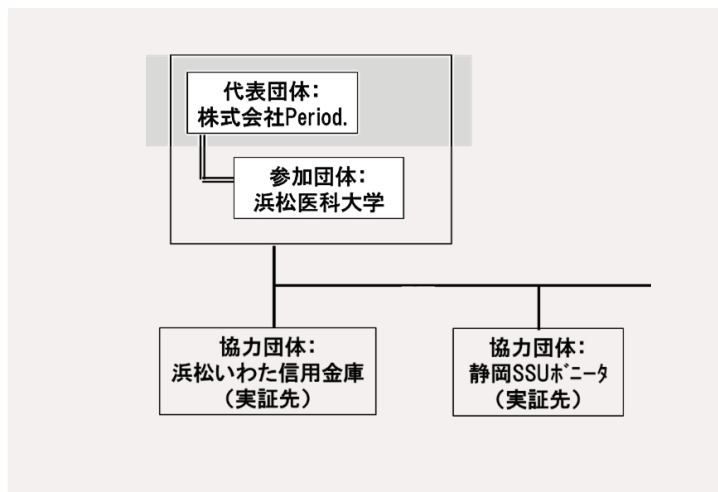
吸水ショーツを日常に取り入れた組(介入群)と吸水ショーツを使用しない組(非介入群)に分けて仕事のパフォーマンスに変化が生じるかを調査。吸水ショーツがもたらす有効性についてを研究。

STEP2：企業向けのオンラインセミナー

効果検証の結果という客観的データを示すことで、男性にも女性にも月経に対する関心をより高め、個人情報に触れることなく、月経に関するリテラシーを高める契機となると想定。

吸水ショーツの研究データを元に月経のケアをすることで生じる社会的な影響を踏まえながらその必要性和自分の体を知ることの大切さを知ってもらう機会とする。

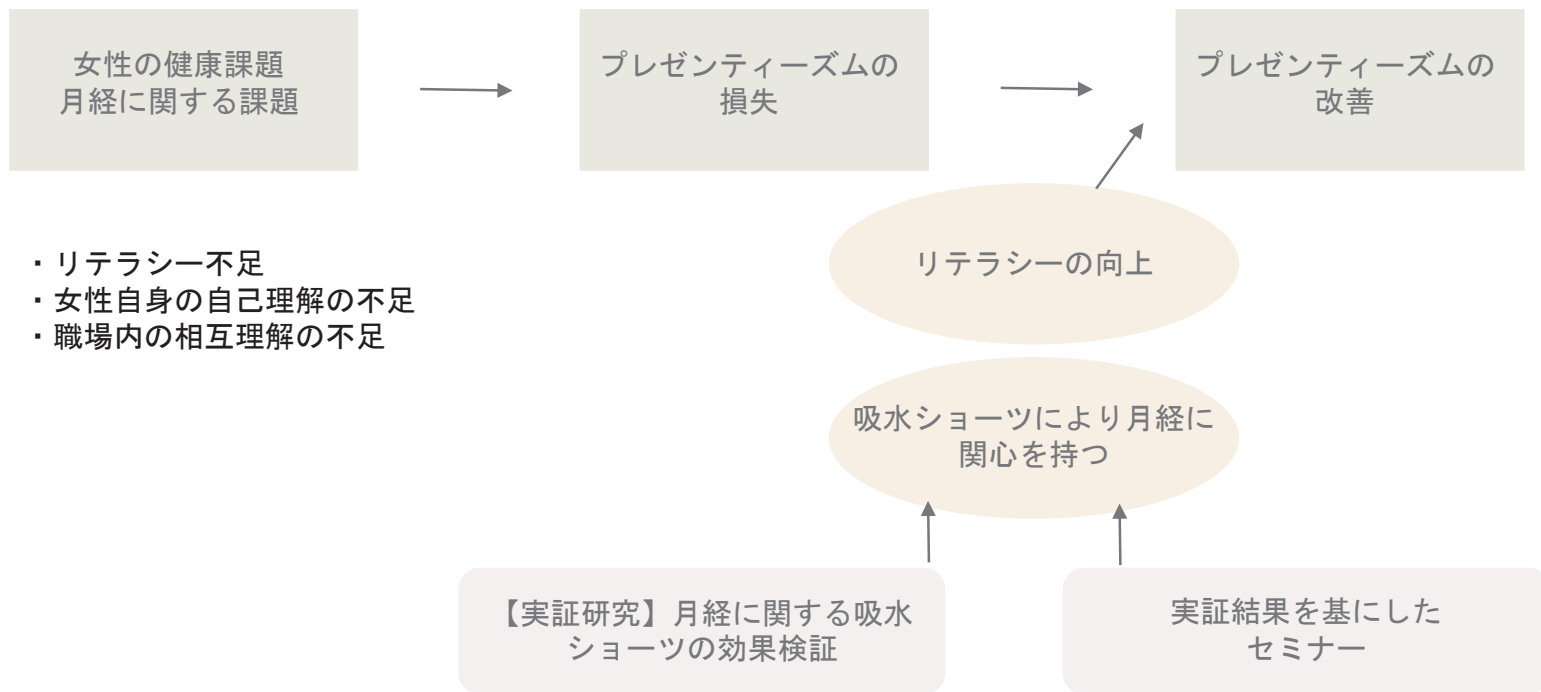
実施体制



Period. × 浜松医科大学との取り組み

- ・ 共同研究
- ・ 研究を基にしたセミナーの開発

事業の実施フロー



事業のスケジュール

実証事業			6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1.実証研究	1.1 研究対象者の公募	対象者の定格性の確認			完了							
		対象者のリスト作成			完了							
	1.2 吸水ショーツによる介入とFitbit装着	同意書の送付				完了						
		Fitbitと吸水ショーツの送付					完了					
	1.3 効果測定	週ごとの状況把握									進行中	
		週ごとのデータ管理									進行中	
		介入群事前事後アンケート			完了						進行中	
		データ分析									進行中	
	2.企業向けオンラインセミナーの開催	2.1 オンラインセミナーの実施	実証研究結果を基に内容検討								進行中	
			セミナー動画制作								進行中	
セミナーの周知											進行中	
セミナーの実施											進行中	
2.2 効果測定		事前事後アンケート										進行中
		アンケート分析とまとめ										進行中

研究データのシェア

研究参加者：44名

対象者：月経があり就労している方、吸水ショーツの着用をこれまでしたことがない方、
研究期間内の約3ヶ月間Fitbitの着用ができる方、調査への回答が可能な方、
婦人科疾患がなくピルの服用がない方

現時点での分析の結果

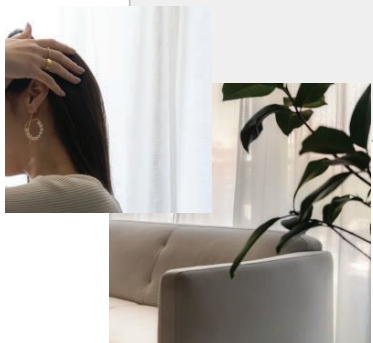
介入群(吸水ショーツの着用がある)の方が月経時の不快症状から解放され、
就業でのパフォーマンスが向上したと回答

研究参加者のコメント※一部抜粋

- ・生理に関する自分の体調を考えるいいきっかけとなりました。
- ・基礎体温を測り始め日々の体調をメモするようになりとても良い変化が起きた。
- ・生理があることについて改めて考える良い機会となりました。
- ・生理があることで集中できなかったり、着るものに制限ができることにストレスを感じていたんだなと気付かされました。

課題について

- ・ セミナー実施の際のアンケート回収率を向上させる施策
アンケート入力とセミナー動画を織り交ぜて一貫してできるような構成
アンケート回答後に続きを視聴できるような導線を検討中
- ・ 本事業終了後にセミナーを継続的に実施してくれる企業や団体の開拓



今後のスケジュール

11月

研究▶2期の研究終了
セミナー▶構成の完成

12月

研究▶全期終了
研究の分析
セミナー▶動画制作

1月

研究▶分析期間
セミナー▶実施

2月

セミナー▶実施
実証のまとめ




“ The only thing holding you back is you.
Change yourself to change the world.”

自分を制限する壁は自分の中にある
当たり前を変えれば世界も変わる

中間報告

国立大学法人

政策研究大学院大学



女性・企業・社会にシナジー効果をもたらす
医師が開発した性差医療アプリ
「**WaiSE**」を活用した
健康経営促進サービスの構築と実証

経済産業省
令和5年度フェムテック等実証事業補助金
中間報告会 2023.11.22 via Zoom

総括事業代表者
国立大学法人
政策研究大学院大学保健管理センター
所長・教授 片井 みゆき

WaiSE
性差医学に基づく
女性のための新しいヘルスケア
ジェンダード・イノベーション
女性も男性も誰もが
一人ひとりに適した医療を
受けられる世界へ
WaiSE
WaiSE

事業背景・1 本事業のコア技術 **WaiSE** (ワイズ) とは？

月経随伴症状(PMS)・更年期・不定愁訴等の原因を解析し、 女性特有の健康課題を解決する性差医療アプリ「**WaiSE**」

- 女性専門外来 **10年分の臨床データ**とエビデンスに基づき、女性に対する問診スキル、女性に特化した診断アルゴリズムを実装した、これまでにない画期的なジェンダード・イノベーション(フェムテック)。
- 日本医療研究開発機構(AMED) 女性の健康の包括的支援実用化研究事業に採択され、片井みゆき医師(日本性差医学・医療学会副理事長)を研究開発代表とし、女性内科・内分泌内科・産婦人科・心身医学の医師達、生物統計専門家、ICT専門家、看護師、非医療者女性らの**研究班が5年をかけて研究開発**。

更年期や月経の多彩な症状

更年期女性が適切な診断を受けるまでの重複検査

年間 **434** 億円

プレゼンティズムによる経済損失(NHK, 2022)

年間 **4,200** 億円

LINEアプリ WaiSE

WaiSE
体の部位から探す

WaiSE
症状・現病歴・既往症などのまとめ

WaiSE
可能性が考えられる病気

病気の発症率や症状は男女で異なり、治療法や薬の効果・副作用にも性差があります。
性差医療アプリ**WaiSE**は、女性の各ライフステージに伴う健康課題を解決に導きます。

事業背景・2 健康経営のために、性差医療アプリWaiSEが必要な訳

社会的問題

働く女性の「プレゼンティズム」

～女性は月経や更年期の不調をかかえながらも、我慢して働き続けている～

「働く女性の約半数が、月経や更年期による症状が強い時は、仕事のパフォーマンスが普段の半分以下と自覚

団塊ジュニア世代女性が更年期に入り、心身不調に伴う社会全体の労働力低下が懸念されている

従来の診療では更年期等の症状と他の疾患の症状の見分けが困難、女性は男性と比べて正確な診断に至るのがより難しい

これらの問題解決には

- ✓ 女性の健康課題解決には、性差(男女差)を考慮したアプローチ「**性差医学・医療**」が必要
- ✓ 健康経営に性差医療アプリWaiSEを活用し、働く女性が日々の生活で使えるようカスタマイズ

- 性差医療アプリWaiSEに、日々の仕事のパフォーマンスと疾病予防に重要な食事、睡眠、運動のセルフチェックとセルフケアを促すレコメンド機能を追加し、女性が健康に、各ライフステージを通して、いきいきと働くことを実現させる。
- 性差医療アプリWaiSEで、女性の多彩な症状を容易かつ的確に把握、女性の健康管理とヘルスリテラシー向上を実現すると共に、可能性がある病気、検査、受診科を示して医療機関や健診への受診支援を行う。

本事業の目的・目標

【事業目的】

今回、WaiSEの健康経営版として、食事アドバイスをはじめ、日常生活習慣に取り入れられるセルフケア（食生活、運動習慣等）をレコメンドする機能を追加し、新たにカスタマイズしたWaiSE健康経営版 WaiSE Workを完成する。

これにより、働く女性のそれぞれの健康課題にきめ細やかに対応することで、ライフステージごとの健康課題（PMS、更年期症状・障害、生活習慣病等）を解決し、離職や休職を防ぎ、女性が生涯を通じてキャリア形成し、生き生きと力を発揮し続けられる、多様な人材が活躍する社会を実現する。

また、本事業で企画する「性差医学にもとづく健康経営促進セミナー(仮称)」は、フェムテックユーザの女性本人のみならず、職場の上司や同僚、周囲の人々も対象に企画し、性差医療、男女のライフステージに沿った心身の状況や変化、対策や予防法を知ることで、互いの心身の健康への気づき、思いやり、行動変容など、企業経営や社会活動へのシナジー効果が期待できる。

WaiSEによる医学的なエビデンスに基づき、働く女性のヘルスリテラシーを向上させ、希望するライフプランの実現、女性のライフステージに沿ったウェルビーイングの実現に向け、女性の健康を支援する事業を展開する。

【事業目標】

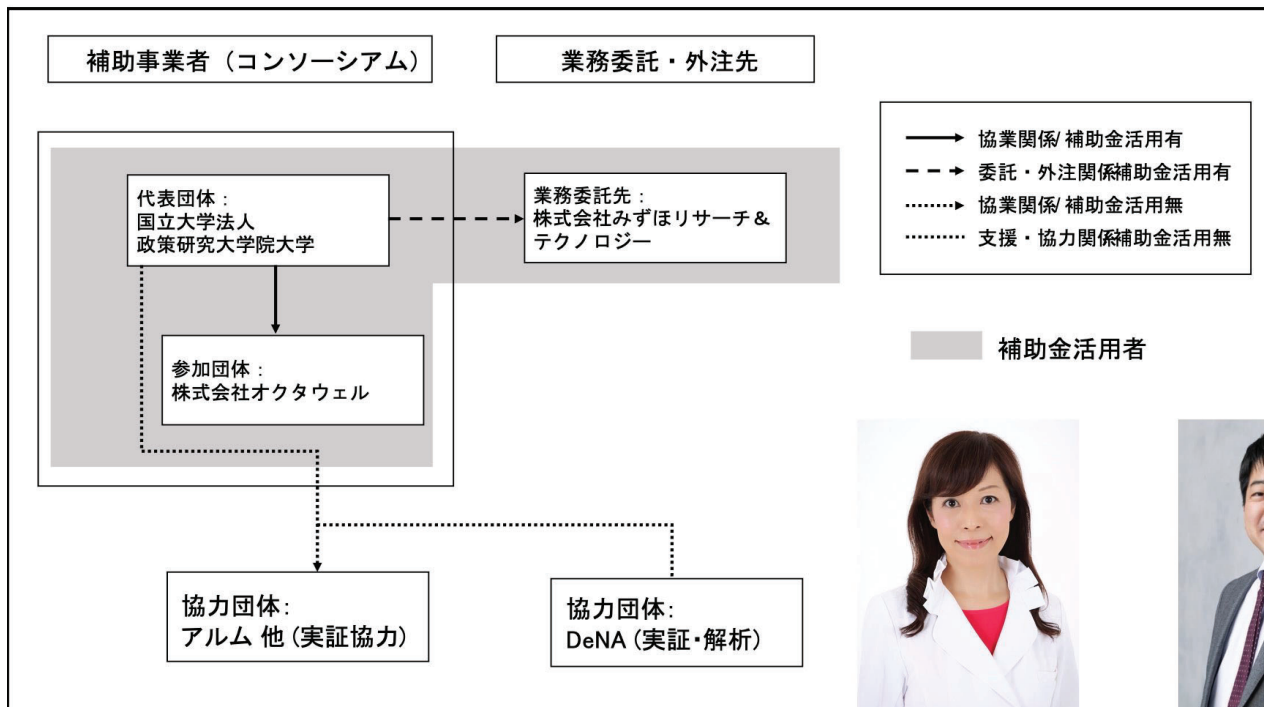
1：WaiSE健康経営トライアル版の作成：

無～軽症状者も含めて対象にしたウェルビーイングに資することを念頭に、WaiSEをカスタマイズし健康リスクチェック機能とケア&サービスレコメンド機能の実装も検討する。

2：開発したサービスの実証と検証

3：性差医学・医療に基づくジェンダード・イノベーション(GI)の概念、実証内容をイベントで啓発・普及および市場調査

実施体制図



Miyuki Katai, M.D., Ph.D.



Teppei Sakano, CEO, Ph.D.



Reiko Takaki, CEO



実施項目と現在の成果

1 : WaiSE健康経営トライアル版の作成:

無～軽症状者も含めて対象にしたウェルビーイングに資することを念頭に、WaiSEをカスタマイズし健康リスクチェック機能とケア&サービスレコメンド機能の実装も検討する。

「女性が健康に働くための頼れる存在、日々使いたくなる」をコンセプトに、WaiSEの健康経営版カスタマイズ(リスクチェック機能、レコメンド機能等のコンテンツ作成と実装)を、参加団体、外注企業と連携して進めている。

2 : 開発したサービスの実証と検証

OODA(ウーダ)ループを取り入れて開発したWaiSE for Workサービスの実証と検証をDeNAとアルムの協力で12月中旬開始予定

3 : 性差医学・医療に基づくジェンダード・イノベーション(GI)の概念、実証内容をイベントで啓発・普及および市場調査

- 「性差医学・医療に基づくジェンダード・イノベーション」の講演の際に調査を実施。
- 講演後アンケートで、回答者の83.3%が仕事中に心身の不調を感じていた(現時点の回答者は計48名:女性38名、男性10名)。
- 健康経営に性差医療の視点をいれることに対し回答者の98%が「大変良い」「良い」
- 来年2月参加予定の健康博覧会でもアンケート実施予定。

WaiSE Work と OODA LOOP

OODAウーダーループは、Observe 観察、Orient 分析、Decide 決める、Act 行動からなる、刻一刻と変化する状況で成果を得るために有効な手段として最近、多くのビジネスシーンに導入されている。女性は月経、妊娠、更年期、閉経という女性ホルモン分泌変化による大きなゆらぎの中で、コンスタントな仕事のパフォーマンスが求められる。そこで、健康経営版WaiSEでは、OODA Loopを採用した開発を行なうことにした。

WaiSE

女性に特化した

- ✓ 心身の自覚症状の把握
- ✓ 観察と分析
- ✓ セルフケアや受診を勧奨
- ✓ 受診支援(問診まとめ、可能性のある病気、検査や受診科の提示)
- ✓ 疾患の早期発見
- ✓ ヘルスリテラシーの向上



WaiSE Work

日々の睡眠、食事、運動、心身のコンディションの

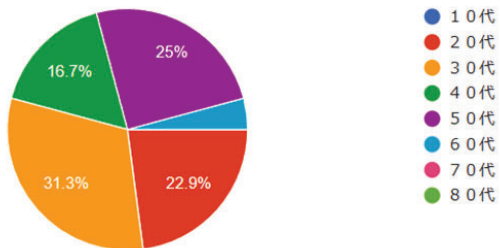
- ✓ 観察・分析
- ✓ セルフケア
- ✓ レコメンド機能
- ✓ 今日の仕事を乗り切るためのアドバイス
- ✓ 明日、将来へ向けて整える
- ✓ プレゼンティズムの改善

成果紹介「性差医学・医療に基づくジェンダード・イノベーション(GI)の概念の啓発・普及」

性差医学・医療に基づくGIセミナー後アンケート 集計結果を一部抜粋

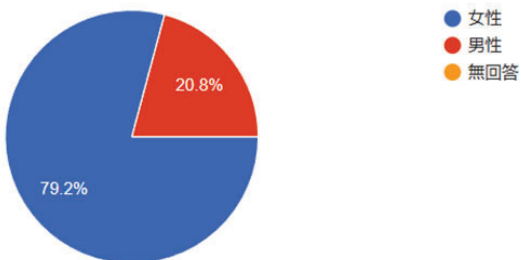
ご年代と性別を教えてください

48 件の回答



性別

48 件の回答



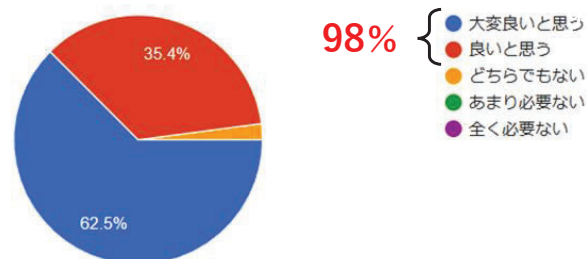
1. 仕事中に心身の不調を感じることはありますか？ (1つ選択)

48 件の回答



3. 質問2で示した選択肢はいずれも女性で多く、月経やライフステージに伴い出現しやすい症状です。こうした性差とライフステージを考慮した医療 (性差医療) の視点を健康経営や職場健診に取り入れることについて、どう思いますか？(1つ選択)

48 件の回答



現段階での課題・課題への対応策

- ▶ 計画通りに進捗できており、課題は特段なし。

今後の成果の見通し・展望

- ▶ セミナーでのアンケートでも、不調を抱えながら働いている現状と、健康経営に性差医療を求められていることが示唆され調査・解析を進める。
- ▶ 性差医療アプリWaiSEの健康経営版へのカスタマイズをさらに進める。
- ▶ 「健康経営版にカスタマイズした性差医療アプリWaiSE」(WaiSE Work)の実証試験を12-1月にかけて行う。実証終了後、導入に関心を示されている企業様にも実証期間に試用して頂く。
- ▶ 実証結果を踏まえたフィードバックを行い、WaiSE Workの実用化を目指す。
- ▶ 実証終了後に、導入候補となる各界の企業様に、企業様の実情に合わせたカスタマイズ希望の有無、導入価格プラン等についてのご意見をお伺いし、マネタイズを含めた検討を行う。
- ▶ 性差医学・医療に基づいたジェンダード・イノベーションの啓発・普及も継続して行う。



令和
5
年

健康経営
のために
プロフェッショナルの力を



国立大学法人政策研究大学院大学

医師が開発した性差医療アプリWaiSEを活用した
健康経営サービスの構築と実証



Copyright © フェムテック等サポートサービス実証事業

国内最大級

女性特有 / 男性特有の健康課題を解決する

ジェンダード
イノベーション EXPO

出展社募集中 東京ビックサイト 2024年2月 20・21・22



2024年2月20日-22日 健康博覧会 (於 東京ビックサイト)
ジェンダード・イノベーションEXPOに出展予定

実施内容

- 「性差医学・医療に基づいたジェンダード・イノベーション」の普及と啓発
- ブース展示による本事業で開発するサービスや本事業での成果を紹介
- ブース来場者へのアンケート調査、フィードバック
- ジェンダード・イノベーション及びフェムテックの市場調査
- 健康経営に関する展示・動向の視察
- 実用化に向けた人的交流

全体的なスケジュール

			2023年						2024年			
実施項目			6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. <small>WaiSE</small> のカスタマイズによる健康 レコメンド機能の実装	1.1 リスク チェックロジック 開発	ヘルスケア版入力情報の検討	■									
		診断結果の整合性検討	■									
	1.2 ケア情報 に関するコンテ ンツ作成	栄養・食事メニューの開発		■								
		運動メニューの開発		■								
	1.3 サービスと のマッチング機 能開発	ケアサービスメニューとのマッ チングロジック開発		■								
	1.4 画面開発	入力画面、結果画面の開発				■	■					
	2. 開発したサービスの実証と検証	2.1 評価指標 設計	評価指標の設定			■	■					
測定方法の設定					■	■						
2.2 トライアル 利用		モニター募集				■	■					
		事前アンケート						■				
		トライアル利用							■	■		
		事後アンケート									■	
2.3 評価検証		調査結果分析										■
		2.4 改善ポイ ントの抽出・改善	改善ポイントの抽出									
改善方向性の検討											■	
3. 実証結果をイベントで普及啓発 および市場調査	3.1 広報ツ ール作成・配布	版下作成・印刷								■		
		配布									▲	
	3.2 セミナー講 演による普及啓 発	セミナー講演									▲	
		3.3 ブース来 訪者へのアン ケート調査	調査設計								■	
	実施・回収										▲	
	分析											■

WaiSE

性差医学に基づく

女性のための新しいヘルスケア

ジェンダード・イノベーション

女性も 男性も 誰もが
一人ひとりに適した医療を
受けられる世界へ

WaiSE HP



健康経営のため
プロフェッショナル
の力を

女性診療医・産業医・看護師・管理栄養士・
医療ICT等のプロフェッショナルチームが
開発した健康経営版アプリ

“WaiSE Work”

Coming soon !

【総括事業代表者】

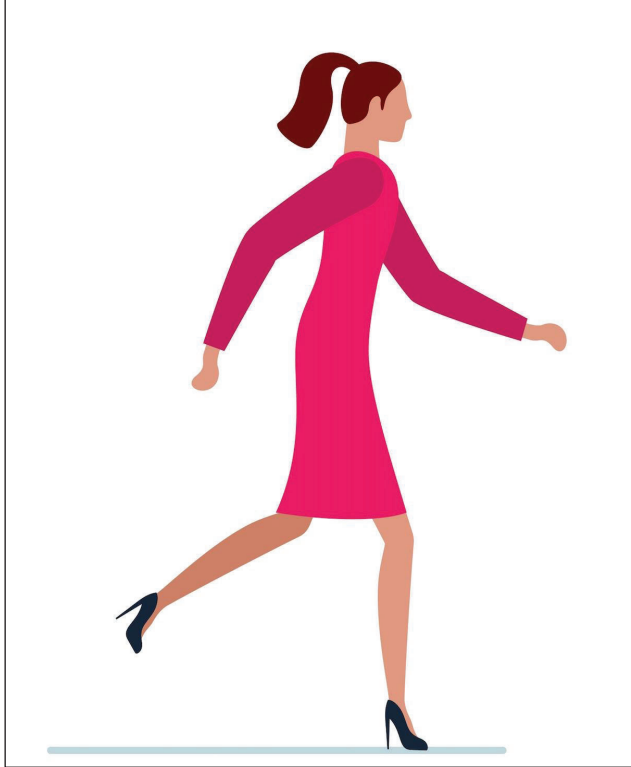
政策研究大学院大学保健管理センター

所長・教授 片井 みゆき (医師・医学博士)

〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1

TEL(代表) 03-6439-6000

E-mail: mkataimd@grips.ac.jp



WaiSE Work

始めましょう ジェンダー医学を活用した働き方

中間報告

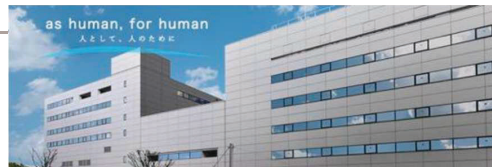
パラマウントベッド株式会社

働く更年期女性の不調改善と
職場での男性のサポート体制構築事業
中間報告

パラマウントベッド株式会社
株式会社陽と人

【参考】パラマウントベッド株式会社（代表団体）について

- ・創業 : 1947年
- ・本社 : 東京都江東区
- ・事業内容 : 医療・介護用ベッド等および什器備品の製造、販売
医療福祉機器および家具等の製造、販売
上記品目に関する輸出入、リース、レンタル、および保守・修理
- ・売上高（連結） : 903億円（2022年3月期）



1. 医療



2. 介護



3. 健康




【参考】パラマウントベッド睡眠研究所について

眠りを科学的視点で裏付ける、
パラマウントベッド睡眠研究所。

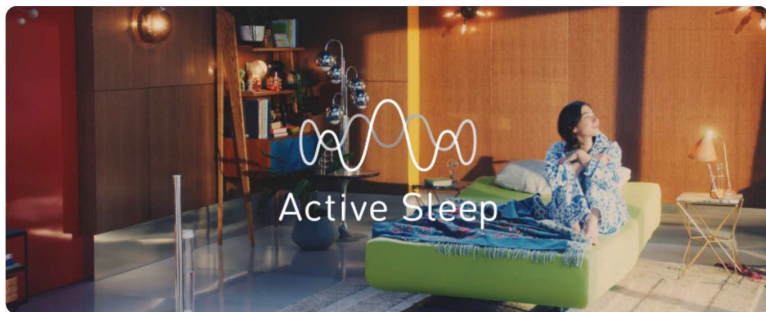
睡眠研究所

『パラマウントベッド睡眠研究所』は、
パラマウントベッド株式会社・開発部より独立し、
睡眠研究の専門部門として設立。

- 睡眠に関する研究、および要素技術の開発
 - 睡眠に関する製品の評価
 - 睡眠に関する情報の収集、発信
- 

【参考】Active Sleep について

- 入眠時や起床時に合わせて自動で動くベッド。
- マットレスや布団の下に敷くだけで、睡眠状況をモニタリングする睡眠計測センサー。
睡眠だけではなく、心拍・呼吸も測定する。
- 購入後に、好みに合わせて硬さを変更できるマットレス。



どう生きるかは、どう眠るかだ



Active Sleep BED



Active Sleep ANALYZER



Active Sleep MATTRESS

【参考】株式会社陽と人（参加団体）について

陽と人は、福島県で地域活性を推進する地域商社であり、2つの社会課題の解決を目指して事業を展開している。
1つ目は、福島県(特に国見町)の農業課題の解決。
2つ目は、女性が心と身体を壊さずに自分らしく働けるようにしたいという女性の健康課題の解決。



陽と人が解決を目指す課題



【参考】『明日 わたしは柿の木にのぼる』について

柿にまつわる古来の知恵に着目した、デリケートゾーンのケアブランド

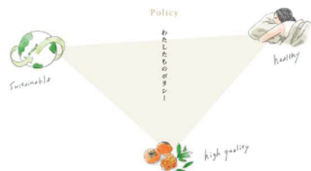


心づくしに育つ柿の味と香りは、古くから人々に愛されてきました。また、柿の皮には、殺菌作用や消臭作用など、デリケートゾーンケアに有効な成分が豊富に含まれています。『明日わたしは柿の木にのぼる』では、これらの成分に着目し、デリケートゾーンケアに特化した製品を開発しました。

あんば柿の生産過程で廃棄されていた資源（柿の皮）を製品の主原料に使用。

そして生き生きと輝く女性をエンパワメントする製品をつくることで、社会へ還元します。

循環する社会の実現へ向けた活動を止めません。



石油系界面活性剤をはじめ、防腐剤や鉱物油も無添加。

厳選した植物由来成分*を用いたシンプルな処方にごこだわり、国内工場で製造を行っています。

「明日わたしは柿の木にのぼる」は、取れんや消臭作用など柿にまつわる古来の知恵に着目したデリケートゾーンケアブランドです。

寝不足、不規則な食生活、疲労、免疫力の低下など、私たちの生活の乱れによって、デリケートゾーンの菌のバランスが崩れ、それがおりものの異常やかゆみなど、デリケートゾーンに症状としてあらわれます。

そのため、デリケートゾーンは「自分の心とカラダを知るバロメーター」になります。

1日10秒でもデリケートゾーンケアを通して、全ての女性をご自身をいたわるきっかけになりますように。

月経、妊娠、出産、更年期、閉経、そしてニオイや乾燥といったデリケートゾーンのトラブルなど、女性特有のさまざまな悩みに寄り添います。



明日わたしは柿の木にのぼる



【参考】令和3年度の実証事業について（一部抜粋）

【はたらく女性の心と身体FACT BOOK】

主な目次

- ・常にゆらぐ、女性のライフサイクル
 - ・生理と排卵のしくみって？
 - ・生理の負担を軽減するためにできること
 - ・生理前にイライラ。PMSかも？
- COLUMN：「未病」にアプローチする、漢方って？
- ・生理がづらい！月経困難症とは？
 - ・男女ともに他人事じゃない。不妊症って？
 - ・仕事との両立が困難な不妊治療
 - ・心身が変化する妊娠中の過ごし方
- COLUMN：妊娠中はがんばらなくていい。
- ・珍しくはない、流産・死産のはなし
 - ・どうなっているの？日本の出産
 - ・出産による会陰の傷を予防するために
- COLUMN：「オキシトシンで産む」とは？
- ・準備軍も多い。産後うつとは？
 - ・尿漏れが気になる……
 - ・予防はできる！子宮頸がんのこと
 - ・身近な病気、女性特有のがんを知る
 - ・誰にでもやってくる、更年期とは？
 - ・なかなか人に話せない、デリケートゾーンのこと



【企業・自治体での研修・講演】

講座対象者	講座内容（例）
役員向け講座 ※役員はほぼ男性だが従業員は女性が多いため、福利厚生の充実や企業価値向上、イノベーションの創出のために講座を実施	はたらく女性の心と身体のFACTを知って企業のあり方考える 女性活躍とイノベーション・企業経営上の必要性を説明した上で、女性特有の健康課題がなぜそこに関わるのかを理解するための講座
女性従業員向け講座 ※美容系の女性従業員が多い会社であり、女性特有の健康課題を踏まえたライフキャリアの支援が会社として求められるために講座を実施	働く女性のこころからだ講座～女性が自身の身体のしくみを知って、ライフキャリアを選択できるようになろう～ 女性特有の健康課題を深く知り、セルフケアやフェムテックの活用などでより快適なライフキャリアを送ることができるようになるための講座（女性の健康課題とセルフケアに特化）
顧客向け講座 ※女性の顧客が多いため、集客の一環として女性特有の健康課題に関する講座を開催	生理から更年期まで、はたらく女性の身体のこと 女性のライフサイクルや代表的な健康課題についての基本と「明日わたしは柿の木にのぼる」を使ったセルフケアについて理解する講座
地域住民や地元企業向けの女性活躍講座	女性活躍推進 ～自分らしく働くために～ 住民や地元企業が本当の女性活躍を考えるきっかけにするための講座

事業概要・概念枠組み

「更年期症状」や「GSMの症状」を抱える働く女性を対象に、具体的な症状や悩みを深掘りし、改善プログラムという形で介入を実施することで、当該症状の改善、当該症状によって影響を受ける睡眠の質の改善及び仕事のパフォーマンスの改善を当事者に対して実証するとともに、当該成果を踏まえて同僚等の周囲の関係者の意識・行動変容にいかにつながるかを実証する



ロジックモデル

アクティビティ	主なアウトプット	短期アウトカム①	短期アウトカム②	中期アウトカム	長期アウトカム
①更年期の悩み・ニーズ整理	<ul style="list-style-type: none"> ニーズ把握アンケート(300名回収) お悩みの分析、体系化 	<ul style="list-style-type: none"> 【当事者】更年期に関する知識の向上 【当事者】更年期の不調症状と仕事のパフォーマンスの関係性を認識 【当事者】更年期に関連する自身の心身の状態を自己認知 【当事者】更年期に関連する自身の心身の不調の主たる原因 (①身体特性、②気質・体質、③置かれた環境)に関する理解向上 【当事者】自身にあった更年期の不調の改善行動 【当事者】更年期の不調の改善行動の実施により不調症状が軽減 【当事者】睡眠の質の改善 【当事者】自身が健やかに働くための改善行動を行う上での自組織（職場）におけるボトルネックを明確化 【当事者】自組織（職場）のボトルネックを改善するための行動を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 【当事者】主体的プレゼンテーションの向上 (損失割合の減少) ※共通指標 【当事者】キャリア形成へのプラスの影響・キャリアに及ぼす影響度の認知・解決策の認知・他者、組織への相談先の認知 ※その他、共通指標として指定された指標を盛り込む 	<ul style="list-style-type: none"> 【当事者】意図的なセルフマネジメント行動を起こす 【当事者】自身の経験（自身の不調改善と他者からの理解の経験）から他者理解も深めることで他の健康課題や子育て、介護等それぞれの事情を踏まえた言動ができるようになる 【当事者・周囲】自己理解・他者理解による組織の心理的安全性の形成 	<ul style="list-style-type: none"> 女性の望むキャリア形成と職場活躍 (キャリア自律)
②更年期の不調改善プログラム構築	<ul style="list-style-type: none"> プログラム構築専門家会議 5回 オリジナルプログラム 1種 	<ul style="list-style-type: none"> 【周囲の関係者】更年期に関する知識の向上 【周囲の関係者】更年期特有の健康課題を抱える当事者の働きやすさに関する理解向上 		<ul style="list-style-type: none"> 【周囲】適切な支援行動ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 企業の人材多様化による企業価値の向上
③更年期の不調改善プログラム実証	<ul style="list-style-type: none"> 1か月間のプログラム実施 (介入群 20名、コントロール群 20名) 成果測定アンケート (40名回収) 成果測定デプスインタビュー (介入群 20名) 成果取りまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 【周囲の関係者】更年期に関する知識の向上 【周囲の関係者】更年期に関する知識の向上 【社会】更年期に関連する課題の認知向上 【社会】更年期に関連する知識の向上 【社会】更年期に関連する改善行動（当事者、家庭、職場等）をしようという意識の変化 		<ul style="list-style-type: none"> 【社会】経営課題として捉える企業の増加 	
④更年期の基礎知識が身に付くツール制作	<ul style="list-style-type: none"> 更年期ハンドブック1,000冊(実証のデータ、成果を盛り込んだもの) 				
⑤成果の認知拡大・啓発	<ul style="list-style-type: none"> パートナーや職場の同僚向け成果共有会 1回 (50名参加) パートナーや職場の同僚の変化を測定するアンケート (50名回収) 社会への認知拡大イベント 1回 (500名参加) 社会の認識変化等を測定するアンケート (300名回収) 成果プレスリリース メディア掲載 5媒体 				

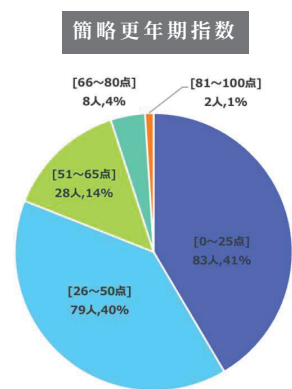
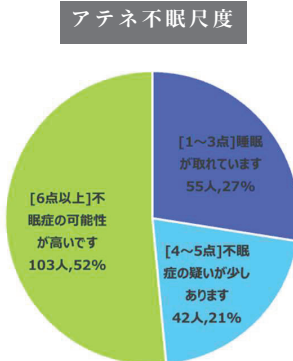
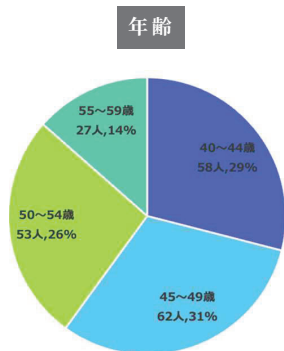
※本実証事業では「短期アウトカム」までを明らかにする

実施内容



STEP1 更年期の不調・悩みを顕在化するためのアンケート 実施概要・結果（一部抜粋）

アンケート回答者数：200名



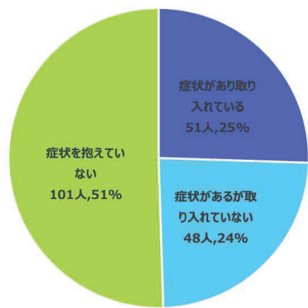
アテネ不眠尺度を測定すると、約7割が不眠症の可能性あり、簡略更年期指数を測定すると、約2割が医師の診断が必要という結果であった。

また、「アテネ不眠尺度」と「簡略更年期指数」は強い正の相関関係にあることが分かった。（相関係数：0.7）

- [0～25点]上手に更年期を過ごしています。これまでの生活態度を続けていましょう。
- [26～50点]食事、運動に注意を払い、生活様式などにも無理をしないようにしましょう
- [51～65点]医師の診察を受け、生活指導、カウンセリング、薬物療法を受けたほうが良いでしょう
- [66～80点]半年以上長期間の計画的な治療が必要でしょう
- [81～100点]各科の精密検査を受け、更年期障害のみである場合には専門医での長期的な対応が必要でしょう

STEP1 更年期の不調・悩みを顕在化するためのアンケート 実施概要・結果（一部抜粋）

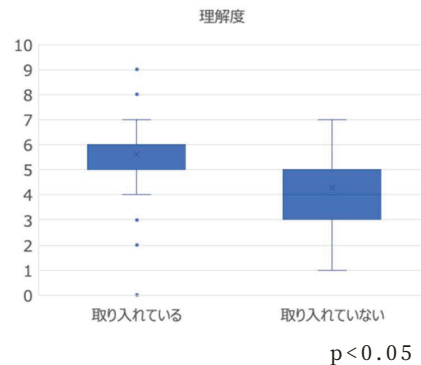
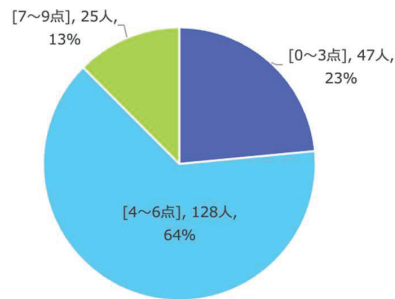
セルフケアを「継続的に（1カ月以上）」取り入れていますか。



理解度

※以下、3個の質問に対する回答を最大9点で数値化

- ・更年期の生物学的女性の身体の仕組みを理解していますか
- ・更年期の症状が現れた際の対処法を理解していますか
- ・更年期の症状が仕事にも影響を及ぼし得ることを理解していますか



「症状あり」のうち、セルフケアを取り入れていない人の割合は約半数であり、セルフケアを「取り入れている」人は、「取り入れていない」人に比べて、「理解度」が有意に高かった。理解度が上がれば、セルフケアを取り入れる人が増える可能性が考えられる。

STEP2 「更年期の不調改善プログラム」 概要

01

ベッド設置型睡眠計で 睡眠計測

約2ヵ月間計測

※計測中に以下2~4を実施
※介入群・コントロール群共通

02

基礎動画視聴

女性特有の健康課題やセルフケアに関する基礎動画（15分程度）の視聴

※介入群・コントロール群共通

03

オンラインカウンセリング 1回目/セルフケア

更年期カウンセラー40分と睡眠カウンセラー20分の合計60分カウンセリング

セルフケアは①寝室の「香り」と②デリケートゾーンケアに加え、その他個人に合わせて紹介

※介入群のみ



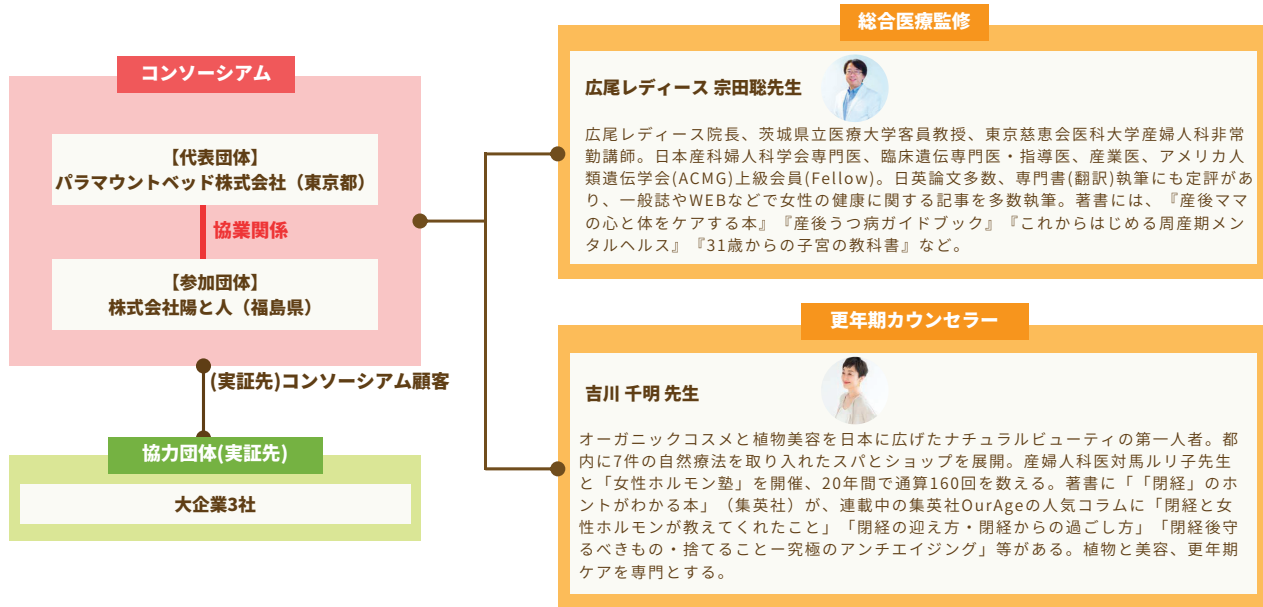
04

オンラインカウンセリング 2回目

更年期カウンセラー40分と睡眠カウンセラー20分の合計60分カウンセリング

※介入群のみ

実施体制



中間報告

株式会社TENGAヘルスケア

簡便な骨盤底筋の筋力測定デバイスおよび支援アプリケーションによる、
骨盤底筋トレーニングの継続率・体験向上に関する検証事業

株式会社TENGAヘルスケア

1. 事業概要
2. 課題と対応策
3. 今後の予定

<事業目的>

● 長期的に目指す姿

本事業の実施により、女性が骨盤底筋周りの悩みを抱えずに自分のキャリアに全うできる社会の実現

● 課題

骨盤底筋の衰えや損傷によって起こる尿失禁は女性が働く上での不安要素の一つとなります。尿失禁に対して骨盤底筋トレーニングが推奨されていますが、なかなかその成果は見えず継続が難しいという声があるのが現状です。

<事業目的>

● 実証の目的

今回の実証では下記2つを目的とし、弊社の商品やサービスが骨盤底筋トレーニング啓蒙の一助となれるかを検証します。

1. K-Gel CHECKER（骨盤底筋測定アイテム）は骨盤底筋トレーニングの継続に寄与するかどうかの検証
2. 本事業で開発するK-Gelサポートアプリ（仮称）によって骨盤底筋トレーニングの継続率は向上するかどうかの検証

<実施項目①>

ケーゲルチェッカーによる骨盤底筋トレーニング継続率の向上検証

実施項目	実施事項	計画
<p>ケーゲルチェッカーによる骨盤底筋トレーニング継続率の向上検証</p>	<p>モニターテストの実施</p>	<p>モニター対象： 女性医療クリニックLUNAグループ様の失禁患者様</p> <p>介入期間：3か月間</p> <p>介入内容： 下記3群に分けて骨盤底筋トレーニングの実施状況を把握</p> <p>①対照群（介入なし） ②ケーゲルチェッカー使用群 ③ケーゲルチェッカーと骨盤底筋トレーニング支援アプリ併用群</p>

<実施項目②>

ケーゲルサポートアプリによる骨盤底筋トレーニング継続率の向上検証

実施項目	実施事項	計画
ケーゲルサポートアプリによる骨盤底筋トレーニング継続率の向上検証	アプリ開発	初めはクローズ環境で開発 アプリコンテンツ例： ・トレーニングの実施記録 ・情報提供（骨盤底周りのコラム）
	モニターテストの実施 ※スライド4と同様	モニター対象： 女性医療クリニックLUNAグループ様の失禁患者様 介入期間：3か月間 介入内容： ケーゲルチェッカーと骨盤底筋トレーニング支援アプリを併用いただき、トレーニング状況を確認

<実施項目>

実施項目	実施事項	計画
ヘルスケア啓蒙活動	PRイベント	啓蒙イベントを企画中
	コラム執筆	コラム・動画を制作中

<実施目標>

● 定性面

1. 骨盤底筋トレーニングを続けやすいものにする【長期目標】
2. 骨盤底筋トレーニングの継続や尿失禁改善がメンタルヘルスに良い作用があることを実証【中期目標】

● 定量面

3. ケーゲルチェッカーまたはトレーニング支援アプリを使用したことによる骨盤底筋トレーニングの継続率の引き上げ【短期目標】

2023年度目標：3か月以上の継続率60%

2020年調査時：3か月以上の継続率44%*

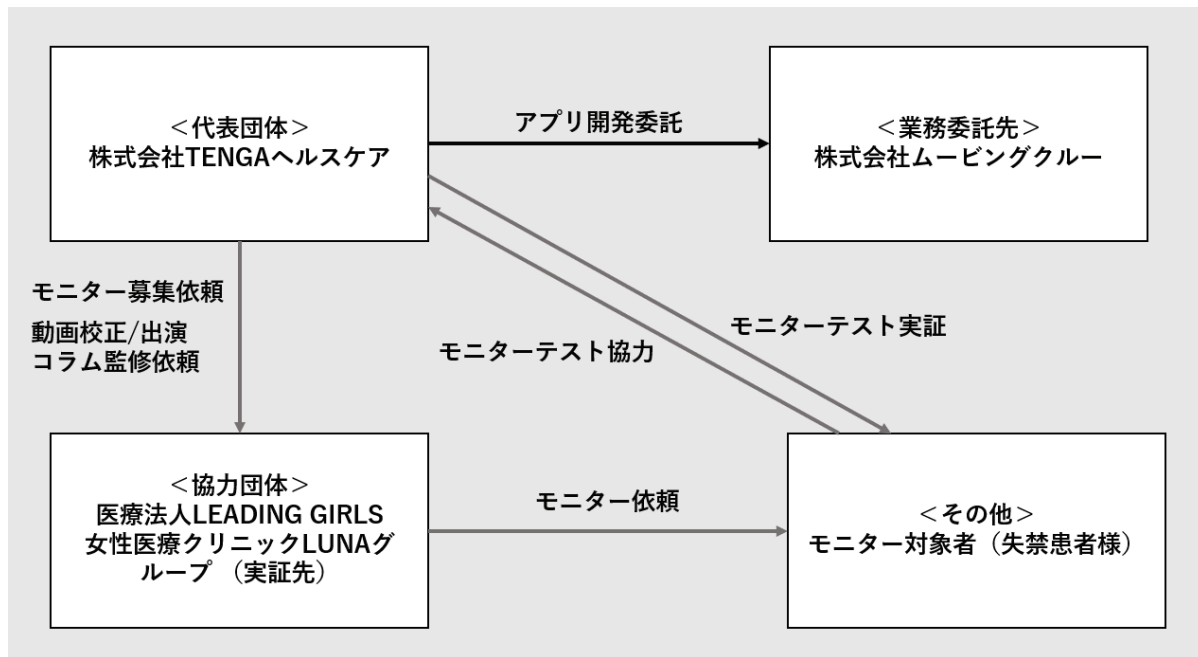
* 2020年7月、20-60代女性300人にインターネットリサーチにて当社より聴取

4. 骨盤底筋トレーニングの効果（尿失禁改善に効果があるのか、骨盤底筋数値向上）【短期目標】

・尿失禁改善率8割以上

・骨盤底筋の筋力及び可動性（ケーゲルチェッカーによって確認）

<実施体制>



<現状の進捗と成果>

実施項目	実施事項	現状の進捗と成果
ケーゲルチェッカーによる骨盤底筋トレーニング継続率の向上検証	モニターテストの実施	遅れ気味：11月中旬リクルート開始 (遅延理由：実証先との契約締結によるもの)
ケーゲルサポートアプリによる骨盤底筋トレーニング継続率の向上検証	アプリ開発	遅れ無しで開発中 (11月末に完成予定)
	モニターテストの実施	遅れ気味：11月中旬リクルート開始 (遅延理由：実証先との契約締結によるもの)
ヘルスケア啓蒙活動	PRイベント	遅れ無し：啓蒙イベントを企画中
	コラム執筆	遅れ気味：動画完成時期 (遅延理由：実証先との契約締結によるもの)

<今後の成果の見通し・展望>

- ・ **トレーニング支援アプリの開発による失禁を持つ女性への情報提供**

専門家による骨盤底筋トレーニングやトレーニング方法の説明等を発信するとともに、骨盤底周りの情報開発を進め女性に正しい情報を届けられるよう発信していきます。

- ・ **骨盤底筋トレーニングの啓蒙**

骨盤底筋トレーニングは未だ知れ渡っていない一方で、女性にとっていい影響があり啓蒙する必要があるため、PRイベントやコラムを使って啓蒙していきます。

<現段階での課題>

1. モニターテストのリクルート開始についてのスケジュール遅延
2. 動画完成のスケジュール遅延

<課題への対応策>

1. リクルート母数を増やす（先生2名にご協力いただくところを4名に）
2. 優先順位の高い動画からアプリへアップし、それ以外はコラムのみで説明し動画が完成次第アップしていく

<スケジュール>

2023年11月末

アプリ完成

2024年2月末

モニターテスト完了

2023年12月初め

モニターテスト開始



C O N T A C T

E-mail : contact@tengahealthcare.co.jp

中間報告

TOPPANエッジ株式会社

中間報告会

デバイス&アプリで月経随伴症状と上手く付き合う
『女性活躍サポート複合プログラム』

2023年11月22日

TOPPANエッジ株式会社
イノベーションセンター イノベーション推進部 健康ビジネスチーム 都成大輔

②本事業の目的

本実証を通し、企業における月経随伴症状
に伴う労働損失への影響を可視化



- ・ヘルスケアIoTサービス「わたしの温度」で
現状の自身の温度リズムを把握
- ・婦人科医師による「行動変容研修」や「オンライン医療
相談サービス」の複合プログラムを受講

➡労働パフォーマンスの分析・効果測定



女性従業員の労働パフォーマンス改善
「導入費用」 < 「労働損失削減効果額」
となるエビデンス獲得

(参考) わたしの温度®とは～ブランドコンセプト～

リズムと生きていく わたしの温度

人それぞれに「わたし」が存在し、誰もが自分らしさを探しています。

一人でも多くの女性に、自分にあった幸せをつかんでほしいから。

寝ている間に女性特有のリズムを自動計測する新習慣デバイス。

あなたの毎日に寄り添いながら、ココロとカラダのキレイを応援します。



「つけて寝るだけ」で、手間なく自分の温度リズムを把握できる

「わたしの温度」を使う場合



専用ナイトブラにデバイスを
セットして入眠

・つけて



寝ている間に自動で計測

・寝るだけ



翌朝アプリで確認するだけ

・定時に起床する必要なし

つけて寝るだけで「わたしの温度」が
自動で計測&記録してくれるから

手間なく、継続しやすい

一般的な基礎体温計を使う場合



枕元に基礎体温計を
準備して入眠



毎朝定時に起床後すぐに
寝たまま体温計を口に入れ
約5分計測



体温を確認



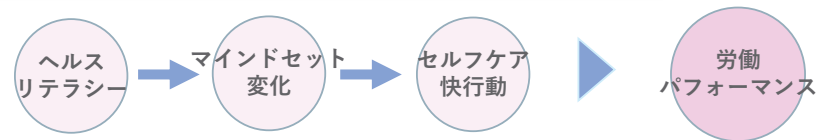
周期表に体温を記入する

毎日続けるのは、かなり面倒。
基礎体温計での測定自体がストレス…

提供価値イメージ

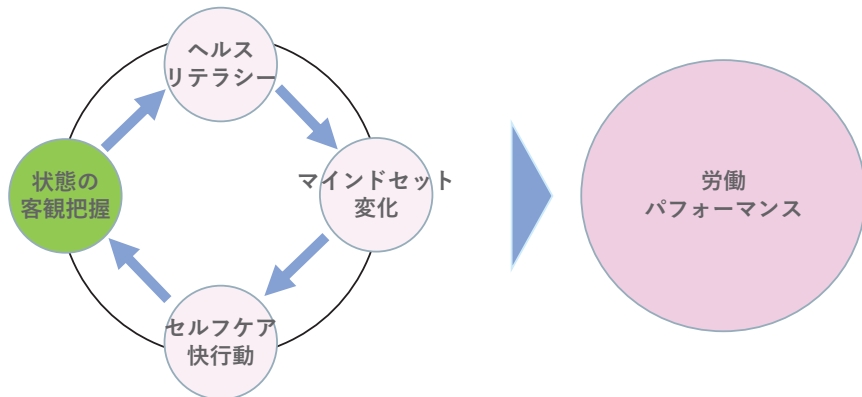


研修 + 医療相談のみ



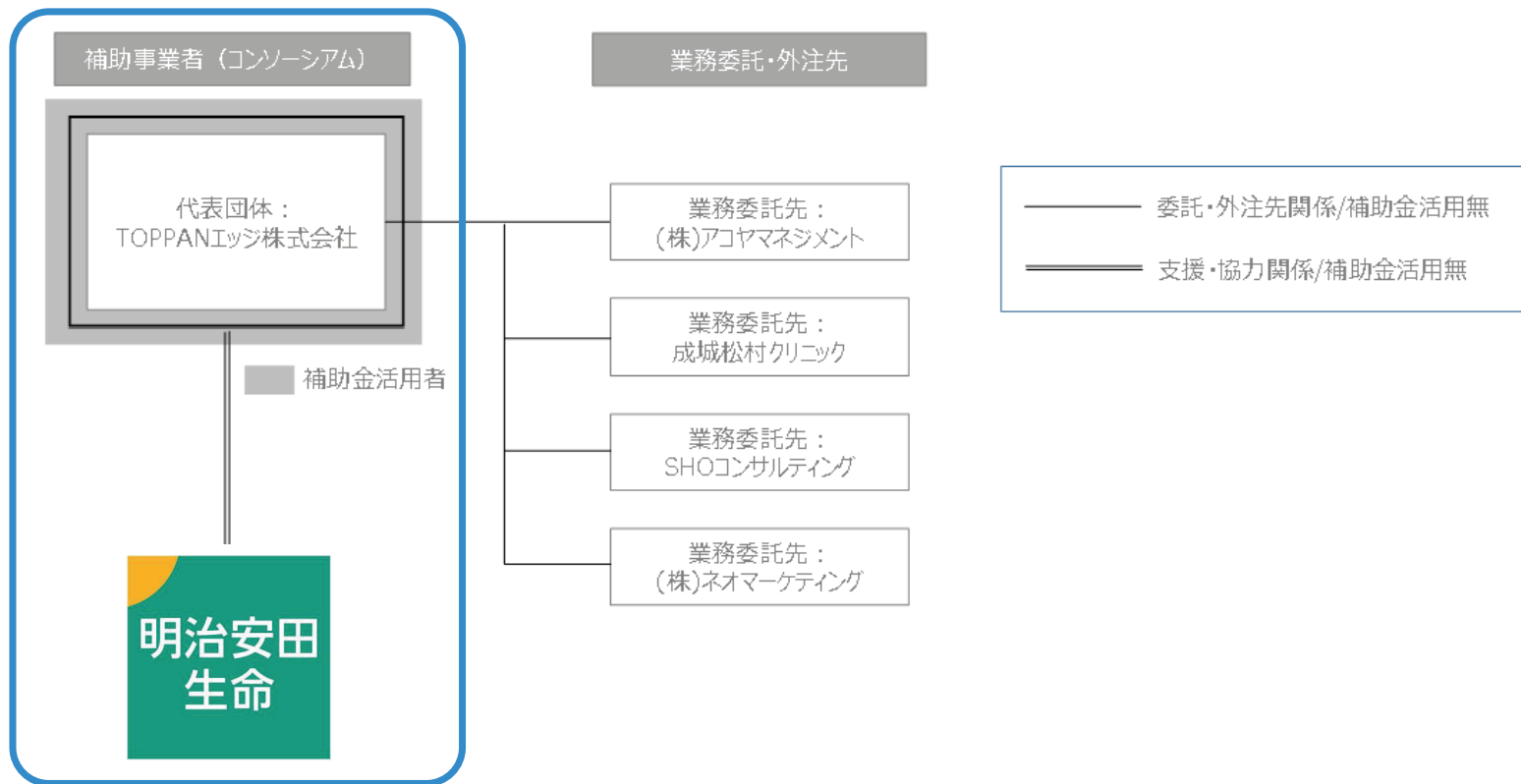
仮説：効果が一時的で継続性に課題

わたしの温度 + 研修 + 医療相談



ヘルスリテラシーの向上やマインドセットの持続性を高め、効果を最大化に。
 →フェムテックの企業導入が進み、人的資本経営の実現に寄与

実施体制図 (補助事業者提案書より参照)



明治安田生命様のフィールドにて検証実施中

③実施項目および達成状況/成果

(経産省事務局定例フォーマット参照)

実施事項	担当団体	ステータス		7月		8月				9月				10月				11月				12月				
		事業進捗	遅延有無	3-9	10-16	17-23	24-30	31-6	7-13	14-20	21-27	28-3	4-10	11-17	18-24	25-1	2-8	9-15	16-22	23-29	30-5	6-12	13-19	20-26	27-3	
実施項目1 事前準備																										
①倫理審査	TOPPANエッジ	完了	—																							
②モニター募集	明治安田生命	完了	—																							
③モニター選定	明治安田生命	完了	—																							
④測定器配布	TOPPANエッジ	完了	—																							
実施項目2 行動変容研修																										
①1回目セミナー構築	TOPPANエッジ	完了	—																							
②1回目セミナー実施	松村医師	完了	—																							
③2回目セミナー構築	TOPPANエッジ	完了	—																							
④2回目セミナー実施	松村医師	完了	—																							
実施項目3 記録																										
①リズム把握	モニター	実施中	予定通り																							
実施項目4 効果測定																										
①事前アンケート構築	TOPPANエッジ	完了	—																							
②事前アンケート実施	ネオマーケティング	完了	—																							
③事後アンケート構築	TOPPANエッジ	完了	—																							
④事後アンケート実施	ネオマーケティング	未実施	—																							
⑤アンケート分析	SHOコンサルティング	未実施	—																							
実施項目5 事業成果発信																										
①成果報告会	TOPPANエッジ	未実施	—																							
②実証先への成果報告	TOPPANエッジ	未実施	—																							
③企業への成果発信	TOPPANエッジ	未実施	—																							
④健保組合への成果発信	TOPPANエッジ	一部先行	—																							

5項目構成(①準備→②研修→③記録→④効果測定→⑤成果発信)、大筋進捗通り

成果抜粋（募集状況および行動変容研修について）

■募集状況

定員(300名)に対し、約400名募集
 →年齢層(20~40代)に分け、抽選実施

グループ分けして効果検証中

Aグループ(わたしの温度を使用)



専用ナイトブラ
セットして入眠

・つけて



寝ている間に自

・寝るだけ

Bグループ(基礎体温計を使用)



毎朝定時に起床後
寝たまま体温計を
約5分計測



体温を確認



周期表に体温を記

■行動変容研修



- ・明治安田生命/人事部様にご挨拶頂き研修開催
- ・当日視聴できない人の為にアーカイブ配信実施

④現状確認中の課題および対策

応募者の中で一部、記録を開始してない方を確認



【対策】

- ・リマインドメールの発信
- ・簡易アンケートの追加実施
(未使用者の特定試み、個別調整)



現状でも使用率は悪くないが、更なる向上を試みる

今後の成果の見通し・展望

「データ活用」「新ビジネス・商品企画」

- ◇目的：ヘルスケア情報の取得・活用、リズム/状態に合わせた新たなソリューション、データ連携で生まれる新たな価値の創出、未病・予防のソリューション提供

◇提携先様の例：

- ・食品メーカー様、サプライメーカ様
- ・ビューティ系商品ベンダー様
- ・生命保険会社様、損害保険会社様
- ・プライダ関連企業様
- ・フィットネスクラブ様
- ・医学系専門機関/研究機関様/大学様、等

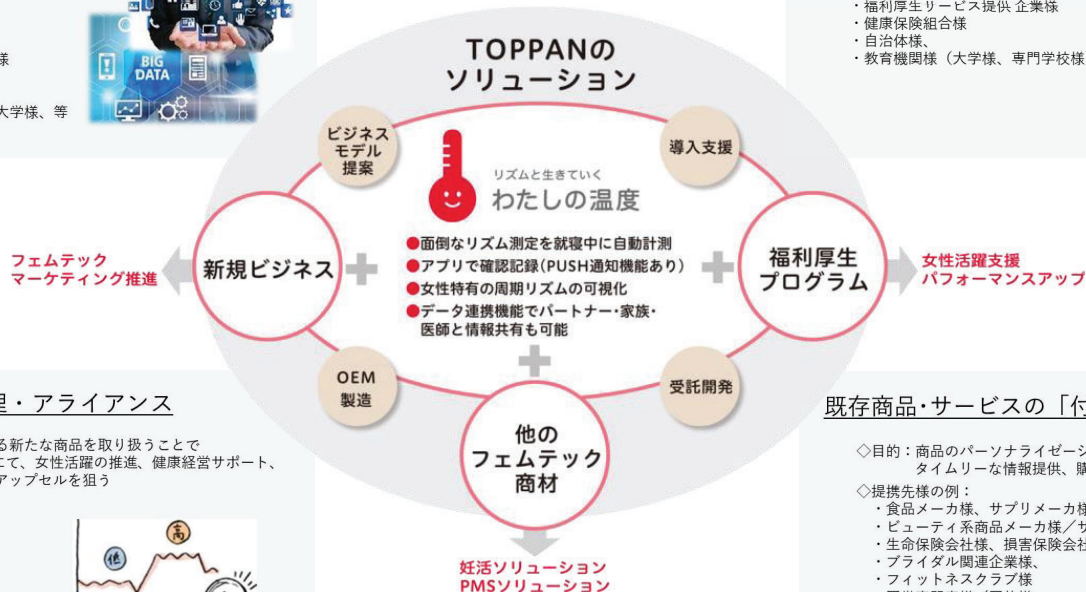


「健康経営」「女性活躍」へ向けた共創・PoC

- ◇目的：従業員・会員・住民の健康支援、婚活支援、エンゲージメントUP

◇提携先様の例：

- ・健康経営推進企業様（健康優良法人、ダイバーシティ…）
- ・女性活躍支援企業様（なでしこ、えるぼし、くるみん…）
- ・福利厚生リービズ提供企業様
- ・健康保険組合様
- ・自治体様、
- ・教育機関様（大学様、専門学校様）、等



わたしの温度の販売代理・アライアンス

- ◇目的：フェムテックの領域における新たな商品を取り扱うことで BtoB、BtoCの双方の領域にて、女性活躍の推進、健康経営サポート、自社商材とのクロスセル、アップセルを狙う

◇提携先様の例：

- ・ECチャネル保有企業様
- ・女性向け商材保有企業様、等



既存商品・サービスの「付加価値向上」

- ◇目的：商品のパーソナライゼーション、タイムリーな情報提供、購買促進、相互送客

◇提携先様の例：

- ・食品メーカー様、サプライメーカ様
- ・ビューティ系商品メーカー様/サービス様
- ・生命保険会社様、損害保険会社様、
- ・プライダ関連企業様、
- ・フィットネスクラブ様
- ・医学専門家様/団体様、
- ・予防医学等の研究機関様、等



⑤今後の予定（要所として下記2点を遂行予定）

（補助事業者提案書の内容より）

実施項目3 記録	
①リズム把握	モニター
実施項目4 効果測定	
①事前アンケート構築	TOPPANエッジ
②事前アンケート実施	ネオマーケティング
③事後アンケート構築	TOPPANエッジ
④事後アンケート実施	ネオマーケティング
⑤アンケート分析	SHOコンサルティング
実施項目5 事業成果発信	
①成果報告会	TOPPANエッジ
②実証先への成果報告	TOPPANエッジ
③企業への成果発信	TOPPANエッジ
④健保組合への成果発信	TOPPANエッジ

（経産省事務局定例フォーマット参照）

Before⇔Afterアンケートを通じて、
クロス分析/相関分析/多変量分析等
にて効果を検証。



→ 「自身状態の客観把握」、「ヘルスリテラシー」
「マインドセット」、「改善行動量」の4要素より
労働損失の構造を確立。

（補助事業者提案書に追加して実施予定）

直接企業に発信する以外に、
Web等にて広く推進予定。



- ・ 人事部サイト（年末予定）
- ・ 健保サイト（掲載済み）



TOPPAN

中間報告

NPO法人フォレシア



婦人科系疾患の早期発見と不妊症予防を 目指した職域健診実証事業

NPO法人フォレシア

企業の従業員に対し、生殖・不妊・月経に関連する研修と女性特有の健康に関するチェックを事業所健診で行える機会を創出。

妊娠・出産
に関連する
13項目

地域の医師に
よる結果通知

必要に応じて
オンライン
面談



事業目的

働く女性は妊娠・出産に関する定期的な健康チェックを行う機会が少なく、
婦人科系疾患の早期発見につながりにくい



事業所健診時に定期的な健康チェックと
地域の医師の助言が受けられる仕組みをつくる



1

疾患の早期発見

2

早期治療・予防

3

婦人科受診までの障壁を下げる

愛媛県をフィールドにモデル企業4社に対して実施。

01 生殖、不妊、月経などの健康に関する研修を提供

02 プレコン健診の説明会を実施

03 プレコン健診と産婦人科医による結果通知やオンライン面談を実施

04 PFS/SIB用の成果指標の作成

05 プレコン健診専用の受診システムの開発

【短期目標】

STEP.1

健診機会の提供

働く女性の健康チェックを職域から提供出来る機会の強化

STEP.2

早期発見・予防

早期介入で不妊症に関連する疾患の早期発見と予防の促進

STEP.3

受診障壁を軽減

婦人科への受診障壁を低減

【中長期目標】

STEP.1

不妊症の軽度化

不妊治療の軽度化や治療期間、
通院頻度の減少

STEP.2

離職率の低下

通院回数の減少から、仕事と
治療の両立の向上ストレス軽減、
離職率の低下、生産性の維持、
・医療費削減

STEP.3

通院環境の整備

オンラインだけに頼らず、
地域の医療機関に実際に通院
しやすい環境の構築

コンソーシアム

- NPO法人フォレシア
- 愛媛県
- 秋田大学医学部附属病院
- 梅ヶ丘産婦人科
- みずほ銀行

業務委託・外注

- vivola (株)
- みずほリサーチ&テクノロジーズ(株)
- 愛媛大学医学部附属病院
- 愛媛県総合保健協会

実施体制

愛媛県

実証フィールドの提供、
実施企業選定

みずほ銀行

PFS/SIB 事業へ向けた補助

梅ヶ丘産婦人科

vivola(株)

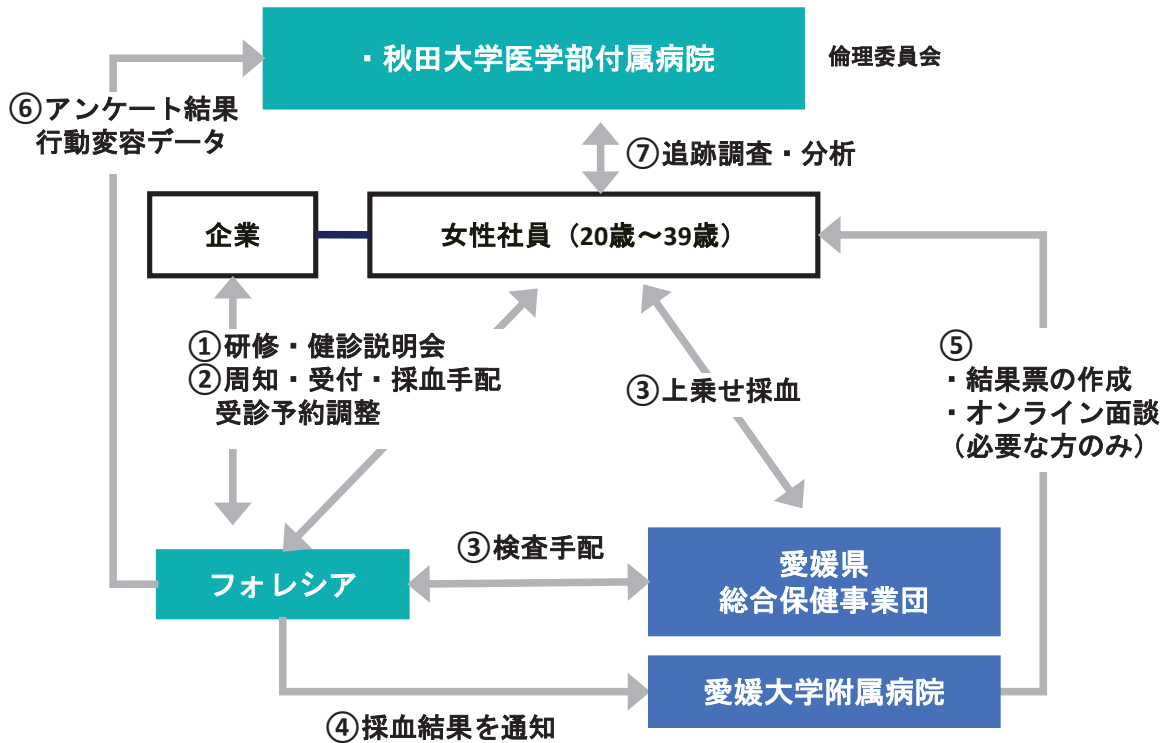
受付・結果通知システムの
開発

みずほリサーチ&
テクノジーズ(株)

成果測定補助、
PFS/SIB用成果指標の作成

コンソーシアム

業務委託・外注



達成状況と成果

		目標	達成	
01	生殖、不妊、月経などの健康に関する研修を提供。	参加 350人 アンケート回答 350人	189人 (54%) 94人 (27%)	生殖リテラシーの向上と健診への参加率を上げるための研修と説明会であったが、リアル参加が少なかった。 しかし、アーカイブ配信にて継続して募集をかけたところ事業最終目標である受診者数の目標値をクリアすることが出来た。 よって健診参加の為の研修は目標クリア 引き続きリテラシー向上を測定する研修は開催していく
02	プレコン健診の説明会を実施。	1回	1回 (100%)	
03	プレコン健診と産婦人科医による結果通知やオンライン面談を実施。	受診者50人	55人 (110%)	
04	PFS/SIB用の成果指標の作成		2024年 1月完了予定	
05	プレコン健診専用の受診システムの開発		2024年12月完成予定	

01

健診は1月までに全数を終える予定

企業によって健診時期が決まっているため、早めることは出来ない。

02

他の自治体からの問い合わせが増えている

本補助事業を次のステップへ繋げるための動きを平行して行っている。

課題と対応策

健診後の受診者からの
フィードバック率を向上させたい



結果通知後アンケートへの回答で
プレコンに関する資料等をダウンロード

リテラシー向上を測定するための
企業研修を行う企業について
リクルートと実施までに時間がかかる



地域の経済団体等を通じて一斉に
リクルートを行う

- 地方において、関心のある企業を探し出すのが難しい
- 企業毎に社内風土が異なるため、時間をかけて調整が必要

全体的なスケジュール

11月

12月

1月

2月

プレコン健診の実施

企業研修の実施

成果指標の策定

受診システムの開発

本補助事業を次のステップへ
繋げるための広報活動

募集する連携先

【全国】自治体様・健診を取り入れたい企業様・大学病院様・産婦人科クリニック様

私たちのプロジェクトにご賛同いただける組織の皆様からのご連絡をお待ちしております。

お問い合わせ先： info@forecia-jp.com

中間報告

株式会社ポーラ

アプリのダウンロード
はこちら（完全無料）



※2023年11月22日時点
iOSのみ対応

顔分析技術による
産後ケアアプリを用いた、
育休復帰に向けた
心身リカバリーの実証

(株)ポーラ



m a m a n i e r e

育休中の適切な産後ケア介入による、復職に向けた心身状態のリカバリーに向けたサポート事業 (オンライン・オフライン双方の適切な介入による産後ケア支援の効果測定)

実施体制



女性、特に産後ママの心身の不調・復職に向けた社会課題の解決を目指すため

育休復帰を見据え過ごす大事な産後の時期に、産後女性の大多数が心身の不調を訴えているにもかかわらず、心身リカバリーのケアや、サポート体制は依然として十分ではありません。産後は自分に使える時間が激減するため、自分のケアがほとんどできず、復職時期に向けリカバリーをしなければというプレッシャーや心身の不安など大きな課題を抱えていることも明らかになっています。私達は復職予定にある育児休業中の勤労女性への心身にわたる効果的な支援方法構築をしていくことで、産後のQOL向上とともに、復職に向けたキャリア支援をおこなっていきます。

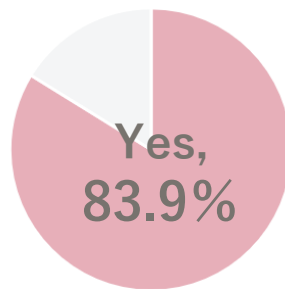
5人のうち4人が育休中



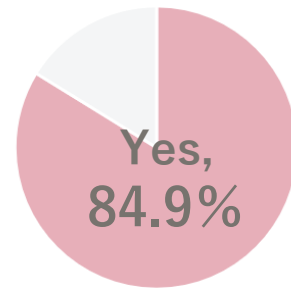
日本の産後女性は、育休中の方が85.1%

※厚生労働省の「2021年度雇用均等基本調査」

妊娠前に比べて、
大多数が心身の不調を訴えている



体の状態が不調



心の状態が不調

※弊社で実施した産後ママに対する独自調査の結果
N = 179

産後ケアアプリ「mamaniere（ママニエール）」概要

産後の今のあなたにぴったりのケアや情報を、顔分析から提案！
ママ1人1人「今のあなた」へ贈る、産後ケアアプリ

mamaniere



mamaniere とは

顔写真と簡単な質問で
産後ママの“今”の
心とからだの状態を分析

分析結果に基づいた
最適な情報をご提案！

限定クーポンももらえる！

POLA

Point

独自の顔分析技術を活用し、
産後の“今”のあなたの心とからだの状態を分析

数値化できるので
シェア可能！
→ヘルプも出しやすい！

STEP1 STEP2 STEP3

顔の生え際に合わせて
あごの先に合わせ

明るい場所で撮影してください
30秒間撮影します

撮影開始

あなたのアクティブパワーは **70%**
心身は穏やかな状態で、余力はややありますが、
不調の芽を見つけたら、ひとやすみ。

産後8カ月は赤ちゃんの成長も個体差があるなど、
育児や自身のごこと悩みも増える時期です。
ご自身の状態を把握し、
適切なケア方法を見つけましょう。

あなたのための
マッチング結果を見る

SNSで結果をシェア

からだの状態

今、現時点のあなたの体はややぐったりしている様子がみられます。
ケア方法をチェック

自律神経バランス

副交感神経優位 均衡 交感神経優位

自律神経バランスは交感神経・副交感神経が
均衡な状態です。
ケア方法をチェック

心拍数 **93 BPM**

客観的な
分析内容を
パパや家族に
シェア可能！

ケア方法をチェック

マークしていても
すっぴんでも
分析可能！

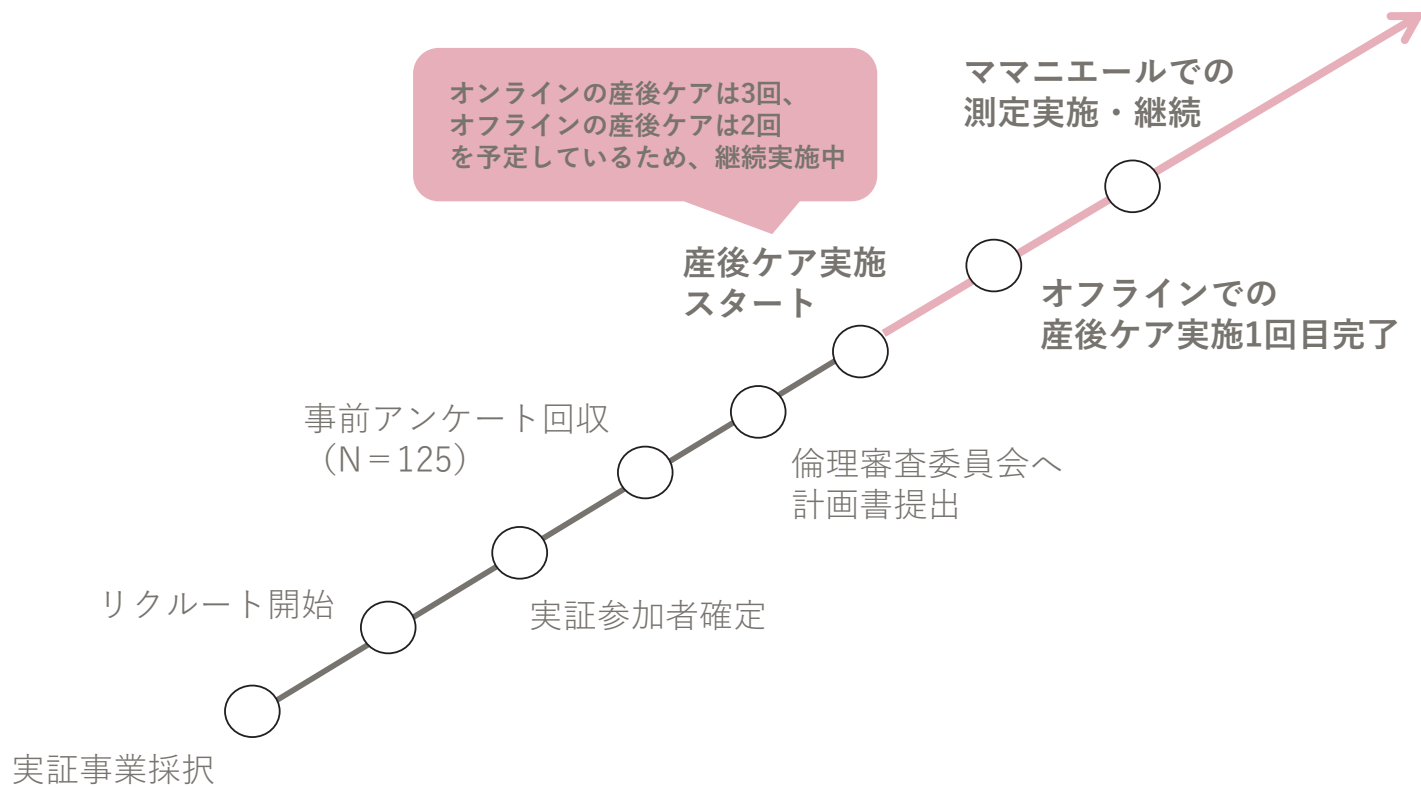
客観的な
分析内容を
パパや家族に
シェア可能！

実施項目・目標

ポーラ研究所の独自技術である「顔分析技術」を搭載したアプリ、ママニエールを中核に置き、外部パートナーと共にトータル的な産後ケアの実証実験を実施。

本検証を同志社女子大学 和泉准教授にサポートいただき、検証結果について学会発表を実施。

実施事項	対象ユーザー	実施項目	定量的指標(KPI)
オンラインでの産後ケアの実施、効果測定 (ポーラ・cotree)	・産後女性 (育休中)	・オンラインカウンセリング希望の育休中女性を100名リクルート ・ユーザーに対して、オンラインカウンセリングの実施 ・オンラインカウンセリングの前後でママニエールにて測定	・介入前後の比較でのストレス指標の軽減 ・オンラインカウンセリングでの実施前後のメンタルヘルス状態の向上 ・復職に向けた不安の改善
オフラインでの産後ケアの実施、効果測定 (ポーラ・一般社団法人クレイドル)	・産後女性 (育休中)	・産後ケア希望の育休中女性を25名リクルート ・ユーザーに対して、産後デイケアの実施 ・産後デイケア前後でママニエールにて測定	・介入前後の比較でのストレス指標の軽減 ・事前分析に基づく、デイケアプログラム実施において、実施前後のメンタルヘルス状態の向上、身体的不調の緩和 ・復職に向けた、心身リカバリーへの改善
効果測定の包括的分析 (ポーラ、同志社女子大)	・産後女性 (育休中)	・学会発表に向けた準備（倫理審査委員会へ計画書提出） ・効果測定の分析	・倫理審査委員会での審査通過 ・効果測定の分析結果から、示唆を出す



◆リクルート

このフェーズでの最大の課題：参加者を集めること

(産休中、かつ育休中というピンポイントな属性であり、産後という大変な時期での参加はハードルが高いため)



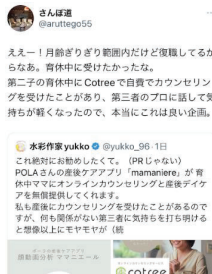
多くの方が興味を持ってくださり、想定以上の応募・反響があり、産後ケアが強く求められていることが明確に

目標125名に対し、717名の応募！
目標比530%



対象外のユーザーからも

自分も対象時期だったら、絶対受けたかった、必要な人に届いてほしいなど、
多くの声がポストされており、産後ケアが強く求められていることがわかった



広告等を実施せず、46.1万view！

◆産後デイケア1回目実施（10/23時点で23名実施完了）

実施者の
9割以上が
心身状態スコアUP

デイケア実施の**23名中21名**が
心身の総合評価スコアである
アクティブパワーが上昇

産後デイケアでもたらされる効果（利用者の声より）

- 効果① 母体のケア（心身）に繋がる
- 効果② 育児への不安解消
- 効果③ 職場復帰を見据えたモヤモヤの解消

「産後初めてこんなにゆっくり過ごすことが出来た。」

「肩こりや腰痛などの対処法や離乳食のことなど聞いてよかった」

「親に見てもらうことはあったが、助産師さんにみてもらえると

安心して休むことが出来た」

「ほかのママたちとも情報交換ができたり、
保育士さんのアドバイスも受けれて、今後預けるのが安心になった」

「復職や、保育園入園に向けて、やらないといけない

事務業が集中して出来て良かった。」

成果

ママニエールが取り組むテーマと、独自のテクノロジーでの課題解決の視点が多くのメディア、団体から興味関心を高くもってもらい、多くの露出につながった

BabyTech(R) Awards 2023
「妊活と妊娠部門」大賞受賞
(10/31)



<https://www.pola.co.jp/about/news/20231031-01/index.html>

※優れた子育てIT商品、サービス、
育児家電を表彰するコンテスト「BabyTech(R) Awards 2023」

日経ニュースプラス9の
フェムテック特集にて、紹介
(8/24)



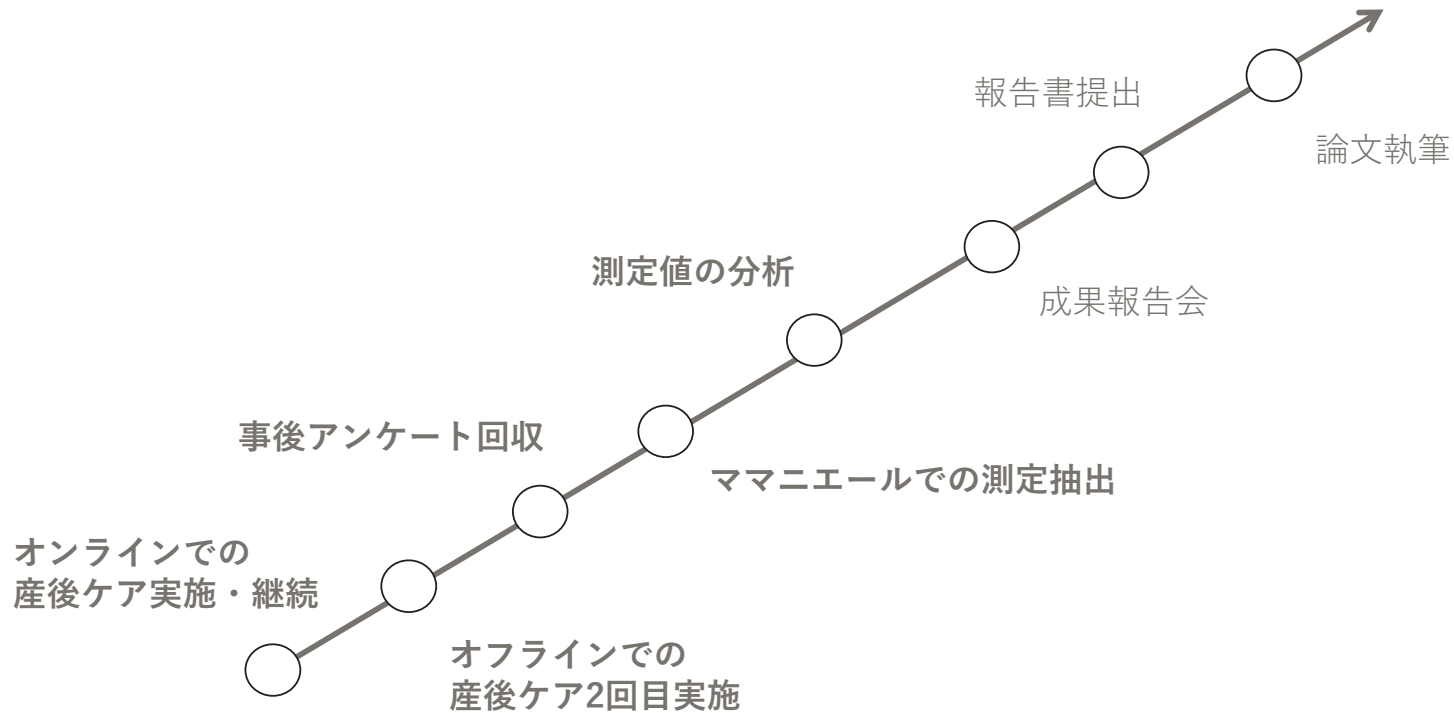
https://txbiz.tv-tokyo.co.jp/nkplus/feature/post_280725

国際商業9月号の
少子化対策特集にて、紹介
(9/7)



<https://kokusaishogyo-online.jp/2023/09/98902>

今後の予定



中間報告

株式会社nanoni



令和5年度

フェムテック等サポートサービス実証事業

フェムテックの活用による 企業の人的資本経営に及ぼす影響の検証

本実証事業の概要・目的

実証事業の背景と目的

背景

企業が女性特有の健康課題に向き合う必要性が増している一方で、女性の健康課題への取り組みが経営・人事上の課題に上がっていない企業が過半数を超えている（63.4% ※）。企業における優先度を上げるには、女性活躍推進の具体的な施策として導入可能な道筋を示す必要がある

目的

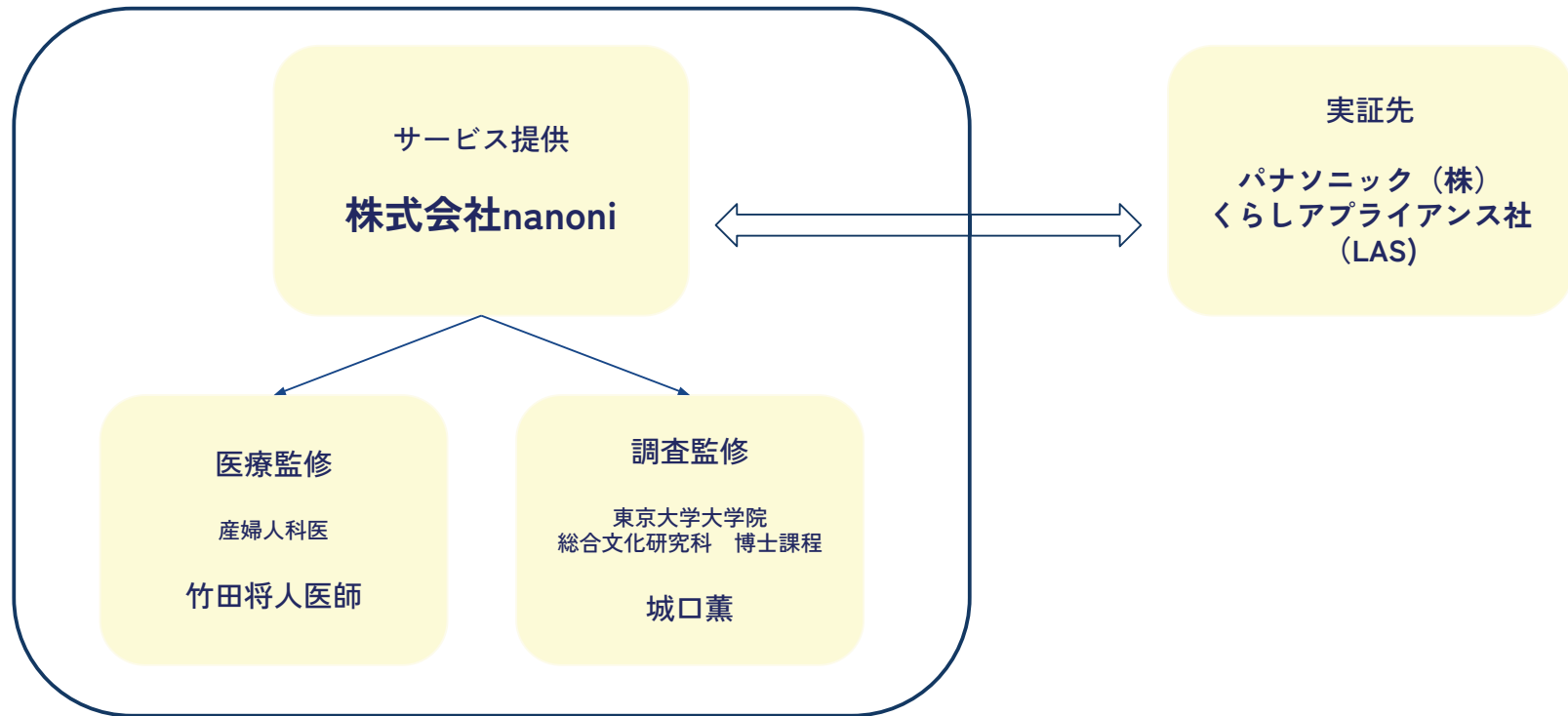
人的資本経営に及ぼす影響を分析することで、企業によるフェムテック活用の促進を目指す

carefull



パナソニック（株）
くらしアプライアンス社

実施体制



実施内容と目標

フェムテック福利厚生プラットフォーム「carefull」を提供し、有用性を検証する

実施事項		目標
1. 調査設計・実施	<ol style="list-style-type: none">1. 調査設計2. 調査票の作成3. 事前アンケートの実施	事前アンケート回答数 (n=50以上)
2. carefullの提供	<ol style="list-style-type: none">1. 導入支援2. carefullの提供3. 事後アンケートの実施	事後アンケート回答数 (n=30以上)
3. 人的資本経営への影響分析	<ol style="list-style-type: none">1. エンゲージメントサーベイ実施2. 各種分析3. レポート作成・発表	N/A

carefull の提供内容

月経・妊活・更年期など女性特有の健康課題を包括的にカバーしたソリューションを提供

セミナー

専門家相談室

匿名コミュニティ

従業員特典



達成状況と成果

実施事項 1. 調査設計・事前アンケートの実施（7月～8月）

調査項目 経済産業省指定項目＋LAS・nanoniオリジナル項目（50項目）

実施期間 8月22日～9月19日（4週間） 回答数 630名（男性394名 女性236名）

ハイライト

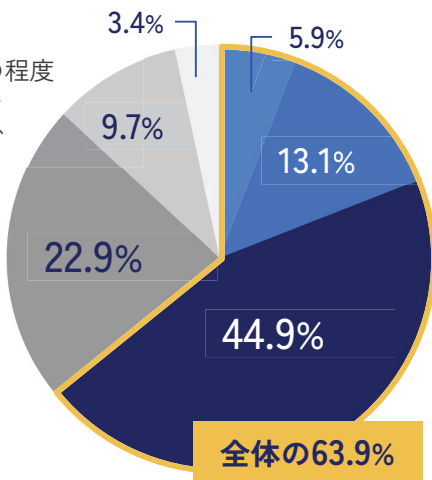
1. 63.9%の女性社員が健康面の課題を感じている
2. 仕事・キャリア形成に影響が出ていると感じている割合も78.7%※
3. 具体的な影響として「業務上、思うように能力発揮できないと感じる」が29.2%

※1～10段階の影響度で5以上の回答

1

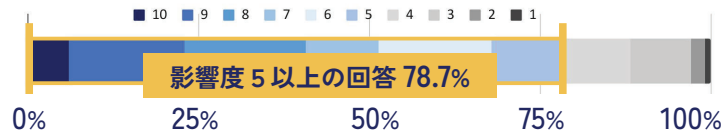
あなたは今の程度健康面の課題を感じていますか

- とても多い
- 多い
- まあまあ多い
- まあまあ少ない
- 少ない
- 特にない



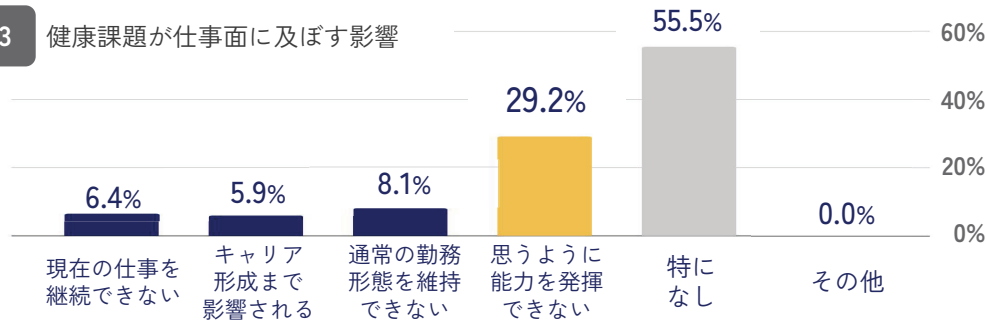
2

現在抱えている健康課題が仕事・キャリア形成に及ぼす影響度（10段階評価）



3

健康課題が仕事面に及ぼす影響



実施事項 2. carefullの提供：9月～2024年1月

LAS社のニーズに添ったセミナーを毎月開催：3回/6回終了
専門家へのオンライン相談室：1回/2回終了

	9月	10月	11月	12月	1月	
セミナー	①健康課題の基礎知識	②更年期	③月経・PMS	④がんの知識	⑤睡眠	⑥キャリア
専門家相談室		①更年期相談室		②月経・PMS相談室		
匿名コミュニティ/従業員特典	期間終了まで継続提供					

成果

1

事前アンケートの回答数 630名

目標（n=50以上）を大きく上回ることができた

2

実施したセミナーの平均満足度は89.5%

今後の展望

健康課題や社内コミュニケーションについてより踏み込んだ内容を求める声が多く見られたため、11月以降の施策に反映

現段階での課題と対応策

現状

管理職や男性職員の参加率が低い

課題

当事者以外の参加率を向上させたい



対応策

- 上長以上は参加推奨に変更
- 女性社員とのコミュニケーション方法についてもセミナーに含まれることを強調して男性社員へのアプローチを強化

今後の予定

残り検証期間の活動スケジュール

11月

12月

1月

2月

2. carefullの提供

セミナー

④がんの知識

⑤睡眠

⑥キャリア

専門家相談室

②月経・PMS
相談室

匿名コミュニティ/従業員特典

期間終了まで継続提供

3. 人的資本経営への影響分析

エンゲージメントサーベイ
実施・分析

事後アンケート
の実施・分析

お問い合わせ先：hello@xxnanoni.com

中間報告

**特定非営利活動法人
日本臨床研究支援ユニット**

ウェアラブルデバイスを用いた自律神経機能から捉えた PMSの評価と症状緩和の試み



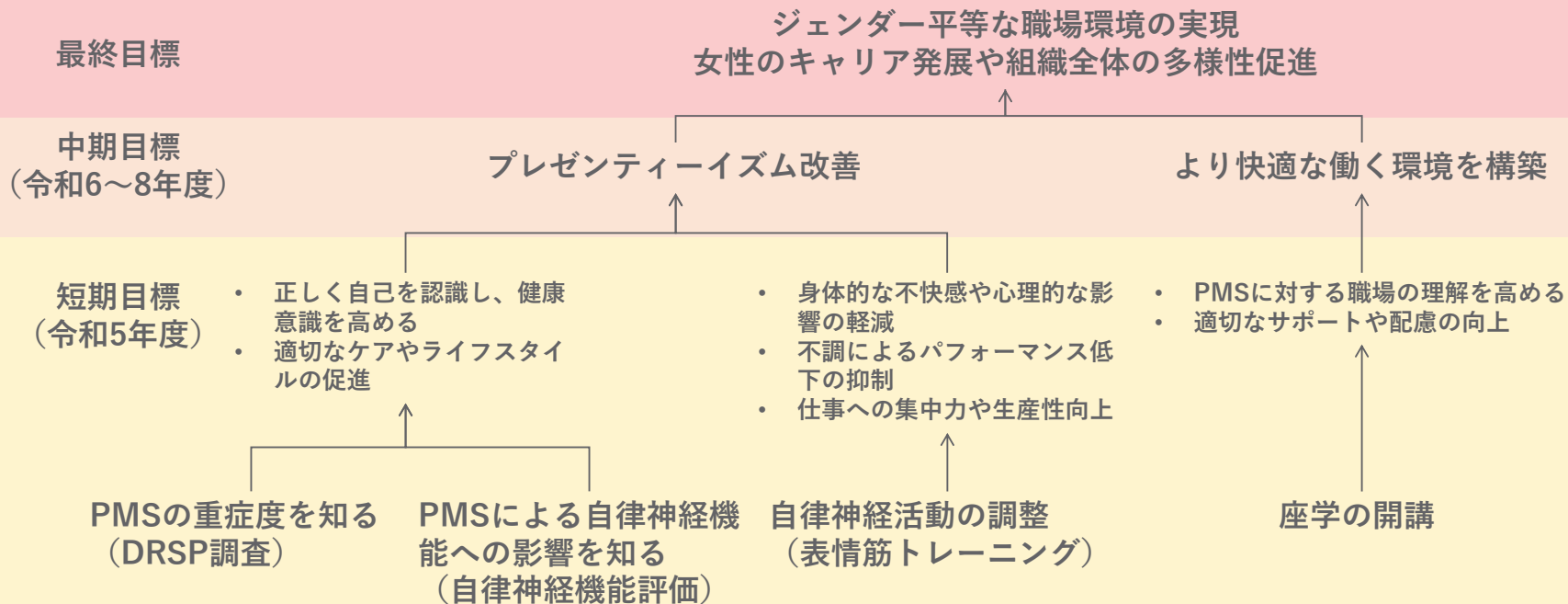
特定非営利活動法人 日本臨床研究支援ユニット

事業目的

自律神経機能の状態を正しく認識することはPMSの症状緩和に取り組みきっかけとなり、女性の健康と働きやすさを向上させプレゼンティーズム改善へとつながる。

1. 身体的な不快感や心理的な影響を軽減と、より快適な働く環境を構築する。精神的な痛みや不調によるパフォーマンスの低下を抑制し、仕事への集中力や生産性を高める。
2. 女性の健康意識を高め、自己を正しく認識するきっかけをつくり、適切なケアやライフスタイルの変更を促す。
3. PMSに対する社会的理解を深め、ジェンダー平等な職場環境づくりが期待できる。社会のニーズを理解し、適切なサポートや配慮を提供することで、女性のキャリア発展や組織全体の多様性が促進される。

実施項目・目標



実証概要

- 月経前症候群（PMS）は自律神経機能との関係が知られているが自覚症状がないこともある。
- 自律神経機能の状態を客観的に正しく認識することはPMSの症状緩和と健康意識向上が期待できる。



PMSの状態を自覚＝見える化

- ① 自律神経反射機能の評価：きりつ名人
- ② 超短時間心拍変動の解析：Apple Watch



自律神経活動の調節

口腔および口腔周囲の筋力アップ：クチトレ

実施体制

【代表団体】



J-CRSU

NPO法人
日本臨床研究支援ユニット
Non-Profit Organization Japan Clinical Research Support Unit

(事業全体の統括・事務局)

【協力団体】



株式会社 クロスウェル

CROSSWELL

(自律神経機能測定、心電図解析)



FFC
FACE FIELD CENTER

(セミナー開催、指導、動画配信)

いのちをつなぐ

SARAYA

(参加者募集)

「クチトレ」とは

口腔および口腔周囲の筋力アップトレーニング

- 口唇閉鎖力増強
- 舌の筋力増強
- 唾液量増加



「食べる」「話す」「呼吸」「睡眠」
「表情の豊かさ」「免疫力の維持」



準備状況

試験機器の準備

- きりつ名人：座位、起立、立位、座位の心拍変動を解析し、自律神経反射機能を評価（図1）
- Apple watch：超短時間心拍変動を解析するためのECG波形を測定（図2）
- クチトレプラス：口腔および口腔周囲の筋力アップトレーニング（クチトレ）の補助具（図3）

アンケートの準備

- 職業性ストレス簡易調査57項目：ストレスの要因や度合の調査項目
- DRSP：月経前症候群の診断や重症度尺度
- WHO-HPQ：健康と労働パフォーマンスに関する質問項目

※ 心電図（心拍変動）分析は最大エントロピー法（MEM法）
を使用して解析する予定

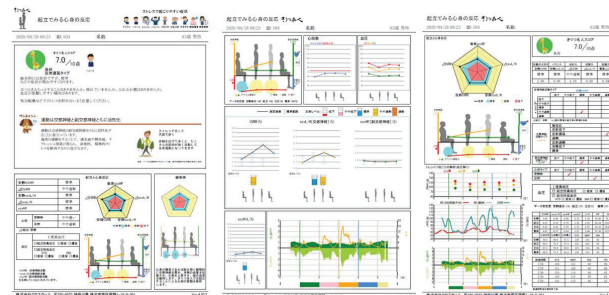


図1 きりつ名人出力結果【例】



図2 Apple Watch心拍変動解析



図3 クチトレプラス

課題と対応策

- 倫理委員会審査（アンケート、計測を伴うため）
- 業務時間内での初回説明会および測定会の調整に時間を要する
- 個人情報取得に関する参加者への説明と理解・承諾

- 関連部署および参加希望者に丁寧な説明を行い了承を得る
- 11月30日の説明会、12月1日からの開始に向け準備を進める

外部との協業の可能性について

- ウェアラブルデバイスを用いる心電図測定はApple watchだけが可能とは限らないので、他のウェアラブルデバイスでも心電図計測および計測データのアウトプット可能なデバイスであれば超短時間心電図解析による自律神経活動の測定が可能です。
- 今回、PMS改善に寄与する手法としてクチトレで介入しますが、アロマオイル（メーカー）、アロマセラピー（教室）、サプリメント（メーカー）、ヨガ（教室、インストラクター）など先行研究でPMS改善の報告があるデバイスまたはコンテンツとの協業は可能となる。

中間報告

株式会社YStory



令和5年度
「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」
中間報告

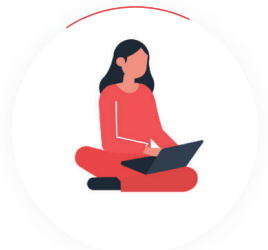
2023/11/22
株式会社YStory

最先端のAI Technology・Medical Scienceを活用して
パーソナライズのヘルスケアを35+女性に提供

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

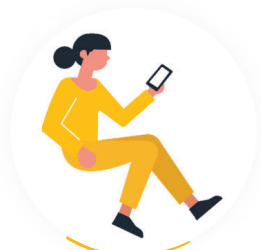


ヘルシーリテラシーの向上に向けて、最先端な技術やポジティブ・エイジングの解決策を提供。女性健康のプラットフォームを実現することで大人の女性も素晴らしい人生ストーリーができるように価値提供したい。



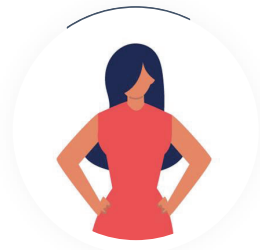
Understanding & Self-caring

- 女性のヘルシーリテラシーを高め、自分の体を理解・管理することに価値提供したい
- 更年期の各症状を管理することを日常ルーティンに変えたい



Science & Technology

- 最新のメディカルサイエンスを活かして、女性健康に価値提供したい
- 最先端のテクノロジー技術を活かして、女性健康に価値提供したい



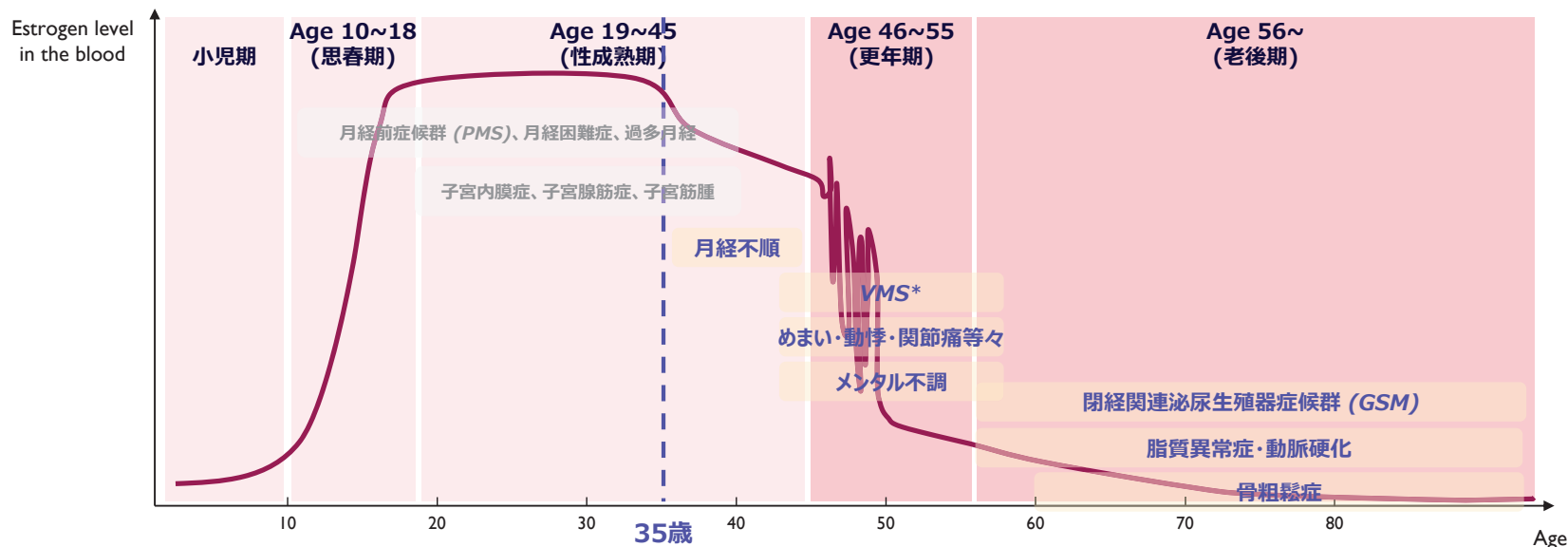
Positive Aging

- ポジティブ・エイジングの実現に向けて、効果のある解決策を探索し、世の中に提供することを目指したい

女性健康における更年期の重要性について

30後半より女性ホルモンが低下し、40~50代にてホルモンの上下変動によりホットフラッシュ・めまいなど様々な不定愁訴が現れ、更年期というステージに入ります。老後期にもその影響で疾患発症ある。

Hormone(Estrogen) changes with women life stage



Source : YStoryより分析。

※VMS (vasomotor symptoms) =血管運動神経症状“ホットフラッシュ”のほせ・ほてり・汗

本実証試験にて、AI・メディカルサイエンスを活かした更年期のセルフケアアプリを用いて、データ収集・効果検証を実施し、エビデンスのある更年期デジタルソリューションを開発・提供することを目指す。

事業概要・目的

背景と概要

- 更年期ステージにある女性人口(35～65歳女性)は2400万人¹であり、そのうち、更年期に離職する女性は毎年46万人²にも及び、その経済損失は年間4200億円²にのぼります。
- 更年期症状に苦しむ女性は、その診断及び適切な治療法を見つけるためのプロセス、および継続した通院に大きな時間的・心理的負担を要しています。
- また、更年期の不定愁訴の症状は多岐にわたることから自身の症状管理や変化の把握、ならびに情報収集は容易なものではなく、35歳以上の女性の健康実現のためのサポートが全般的に不足しているのが現状です。

実証試験 目的

- AI・メディカルサイエンスを活かした更年期のデジタルヘルスケアアプリ『HerLife』(特許出願中)を通じて更年期症状がある方のヘルスケアに特化したサービスを提供しています。
- 当アプリには症状の記録および、個別化されたヘルスケアのアドバイスを受ける機能が含まれております。またヘルスケアのアドバイスの詳細の例としては、医学的エビデンスに基づく症状管理アドバイスやセルフケア提案、医師とのデータ共有を通じた効果的な診療支援等がございます。
- 当サービスを通じ、我々はより多くの女性たちの身体的・心理的症状の改善と、一層ポジティブで健康的な生活の実現を目指しています。

Source : YStoryより分析。

※1 : 国立社会保障・人口問題研究所日本の将来推計人口(全国)より弊社試算

※2 : NHK 「更年期離職」キャリア絶たれ...莫大な経済損失も国は調査へ」

実施項目とスケジュール

本実証試験に向けたソリューション開発、参加者募集を完成し、
10/14~10/15の実証試験説明会を踏まえて、正式開始している。

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実施項目1 ソリューション開発	YStory & 京都大学医学部附属病院産科婦人科 女性健康医学研究室								
実施項目2 フィールド募集・ 適格者選定		特定非営利活動法人 健康づくり0次クラブ							
実施項目3 ソリューション提供				YStory & 京都大学医学部附属病院産科婦人科女性健康医学研究室 (一般財団法人 滋賀保健研究センターは一部活動参加)					
実施項目4 検証結果の分析									YStory & 京都大学医学部 附属病院産科婦人科 女性健康医学研究室

本日

実証試験の達成状況 As of 11/22

7月から京都大学との共同研究より、試験用デジタルソリューションを開発完了。
8月から試験募集の準備を開始し、9月～10月にて適格基準者を募集済、現在試験中となる。

実施項目 1 ソリューション開発



- ✓ 京都大学との共同研究で、医師側ソリューション、ユーザー側ソリューションがすべて開発済み
- ✓ 試験開始後も、トラブルなく順調に使用されている

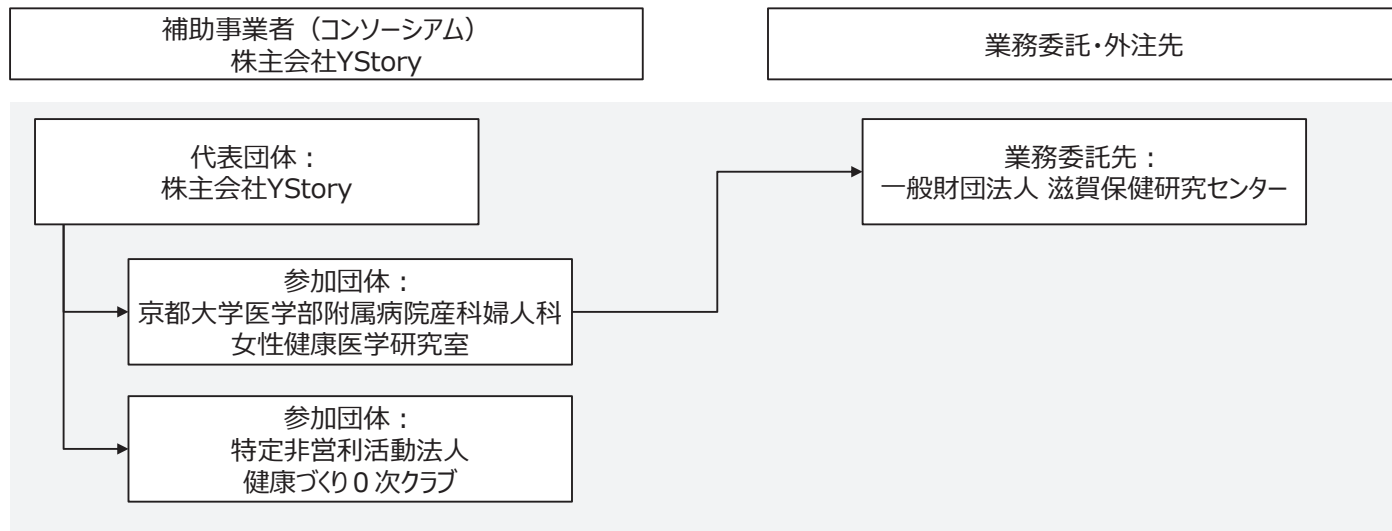
実施項目 2 フィールド募集・適格者選定



- ✓ 8月より試験参加者の募集を計画開始
- ✓ 9月～10月にて、特定非営利活動法人健康づくり0次クラブより994名以上の対象者を案内し、213名試験参加の登録者から、92名適格基準者を選定した

YStoryを代表団体として本取り組みを進行していて、医学的知見の提供などは京都大学医学部附属病院産科婦人科女性健康医学研究室より実施。以下のような参加団体より構成。

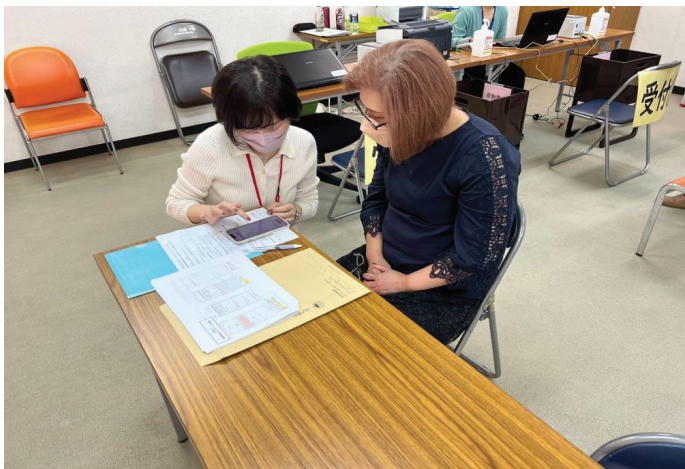
参加団体概要



実証試験開始日の様子

特定非営利活動法人健康づくり0次クラブのフィールドのうち、40~50代女性900+名に案内し、適格基準者92名を募集できて、現在試験参加されている。

実証試験の説明会



参加者に対して試験内容を説明してアプリをダウンロード



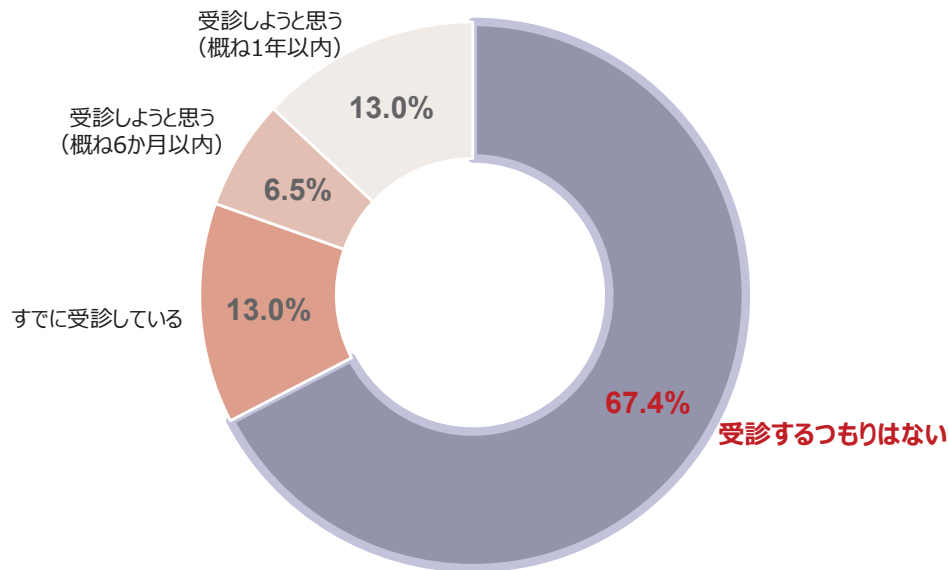
参加団体の集合写真

女性の更年期健康ケアにおける課題と対応策

初回アンケートにて67%女性が「医療機関を受診するつもりがない」を回答。今後は、デジタルソリューションを活かして、ヘルシーリテラシーを強化し、セルフケアが実践できるよう行動促進を強化検証。

現状の更年期健康ケアに関する課題と対応策

Q：更年期の心身の不調について医療機関を受診してみたいと思いますか？

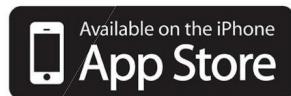


- 受診率の低い理由として、
 - ①ヘルシーリテラシーが低く、抱えている症状が更年期症状であることが認識されていない。
 - ②症状に悩んでも、受診のサインがわからない、クリニックに行くタイミングはわからない。
 - ③所在地域にて、更年期医療を提供できる産婦人科がない、かかりつけ医が不在。などが考えられ、今後試験中にて解決案を検討。
- 対応策として、セルフケアのデジタルソリューションより、
 - ①更年期や女性健康に関するヘルシーリテラシーを高めるプログラムを提供
 - ②診断データなどを用いて、遠隔でもセルフケアを実践できるよう行動促進を強化、重症化の予防対策を提供

お問い合わせ先

contact@ystoryfemtech.com

<https://www.ystoryfemtech.com>



中間報告

株式会社Famileaf



Famileaf

妊婦向け体調管理・生活支援アプリケーションの
利用による、妊婦・パートナーの健康意識の変化の検証
中間報告資料

Nov. 2023

事業の目的

妊婦さんに関する以下の課題の解決を目指す。

- 妊婦が信頼できる情報に容易にアクセスできず不安をかかえていること
- サポートが必要な職場内の妊婦に適切な支援が提供しづらいこと

実施項目

妊婦・パートナー向け体調管理・生活支援アプリ「**hug+u**（はぐゆー）」の提供

実施事項①

対象

実証先団体に在籍の妊婦とそのパートナー、パートナーが妊娠している社員とそのパートナー

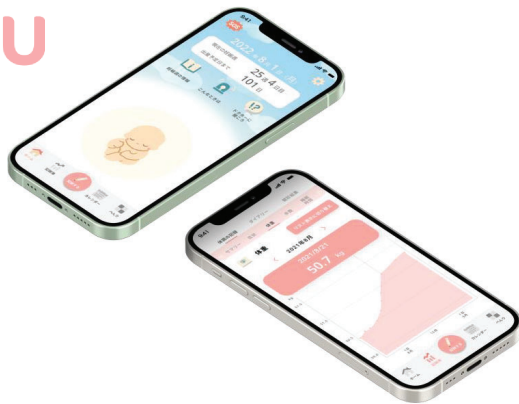
内容

妊娠期の体調管理や自身のケア等に関する情報、および体調管理ツールを継続的に提供する。
また、アプリの利用により、どの程度妊娠期のヘルスリテラシーが向上するか調査する。

目標

妊婦50名、パートナー30名の確保

はぐゆー
hug+u



妊娠中に気になる体調項目を多くそろえており、
症状の記録も可能です。

そのほか、週ごとの健康のアドバイスや、体調が
悪い場合に病院へ連絡する目安も掲載しており、
妊娠中の生活を広く支援します。

実施項目

実証先団体が提供している女性・妊婦向け支援サービスの妊婦に対する周知

実施事項②

対象 実証先団体に在籍の妊婦

内容 妊婦（特に妊娠公表前の妊娠初期の妊婦）に対し、貴社の女性・妊婦向け支援内容をメールで直接的にお知らせすることで、働きやすさの体感や貴社へのロイヤリティが向上するか調査する。

目標 妊婦50名の確保

今年度事業で、勤務先企業のサポート体制を妊婦に届けることが、働きやすさやロイヤリティに貢献することが分かれば、次年度以降でアプリ内で勤務先からのメッセージを受信できる機能の追加を検討します。

はぐゆー
hug+u

実施体制

代表団体



実証先（協力団体）



株式会社ワコール様



茨城県庁様

進捗と成果

妊婦・パートナー向け体調管理・生活支援アプリ「**hug+u**（はぐゆう）」の提供

実施事項①

進捗

コンテンツ追加やアプリの操作性・機能性改善のため、アプリ改修を行っている。
また、株式会社ワコール様・茨城県庁様にお勤めの妊婦さんにサービスをご利用いただいております。
妊婦生活が終了した方から順次事後アンケートにご回答いただく予定となっている。

成果

現在**14名**の妊婦さんにアプリをご活用いただいている。
定量的・定性的な分析は事後アンケート回収後に開始する。

実証先団体が提供している女性・妊婦向け支援サービスの妊婦に対する周知

実施事項②

進捗

株式会社ワコール様に在籍の妊婦さんに対して、メールをお送りしている。
(茨城県庁様は実施事項①のみのご参加)

成果

現在**11名**の妊婦さんが対象となっている。
定量的・定性的な分析は事後アンケート回収後に開始する。

今後の見通し

フィードバック

今後は事後アンケートのみではなく、事業対象者への直接のインタビュー等を通してアプリのコンセプトや機能面についてのフィードバックを受け、アプリの開発につなげていく。
特に、働く妊婦さんにとって収録されていると嬉しい情報や機能について伺う。

対象者数

現在の対象者数が最終的な目標に対して少ない状況であるが、妊婦は年間を通して増えるものであるため、今後の実証先での募集再掲等の活動により一定数確保できるものと期待している。

課題と対応策

課題

本事業の対象となりうる妊婦さんは日々増え続けているため、募集を続けることで対象者数も増えるものと想定しているが、現状では目標数を大きく下回っている。



対応策

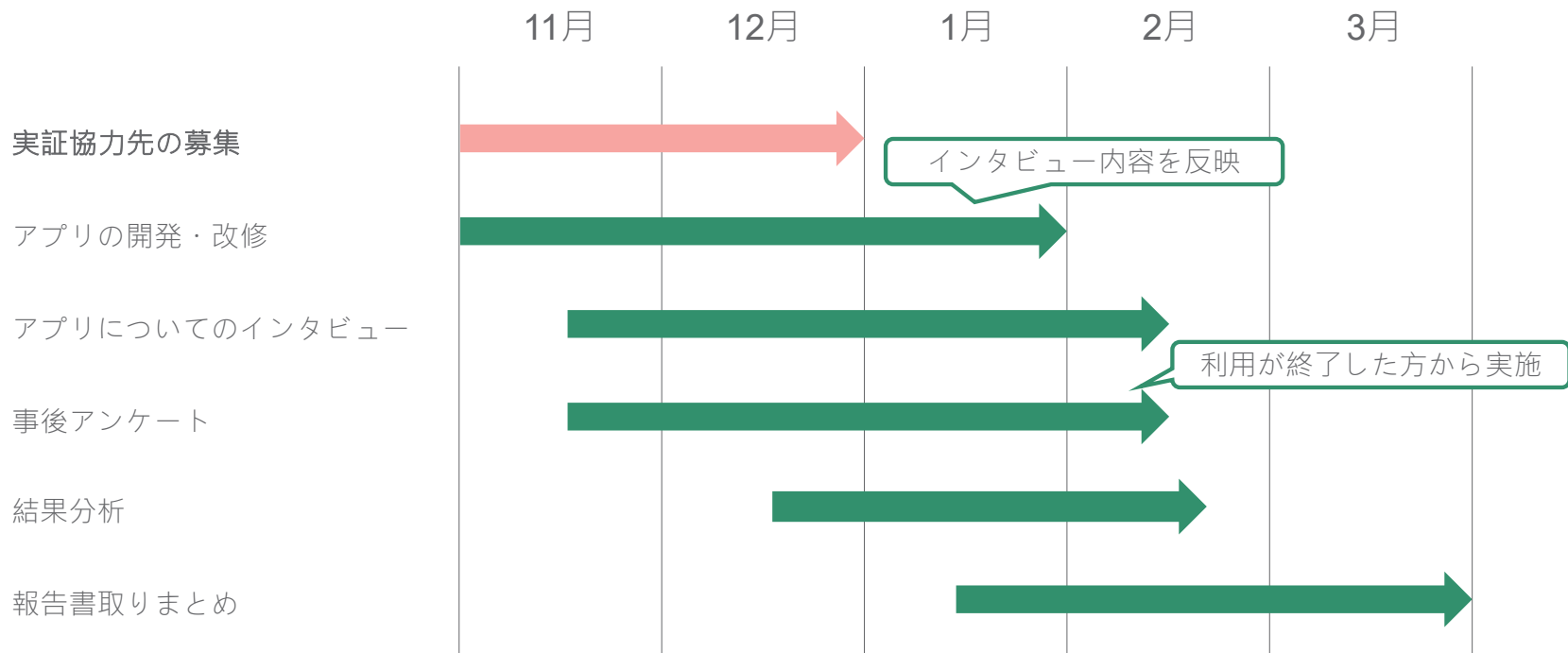
実証先団体にて妊婦さんに対面で本事業を告知いただくためのチラシを配布する、イントラネットでの募集案内の再掲を依頼するなど、より多く妊婦さんの目に本事業が触れるよう工夫している。

また、新たな実証協力先として大手企業1社にご協力を要請しており、実施いただける目途が立っている。11月末までに対象者募集まで進めたい。

フェムテック等サポートサービス実証事業の事業者様や関係企業様で、弊社事業にご協力いただける団体様がいらっしゃいましたら、お声掛けいただけますと幸いです。

来年度以降、弊社アプリに他社サービスと連携した機能を追加することも検討しています。今年度の実証事業内容に限らず、女性向け（特に妊娠期向け）サービスのコラボレーションなど、広く協議できればと存じます。

今後の予定



Thank you



Famileaf



ファミリーーフ



中間報告

豊田通商株式会社

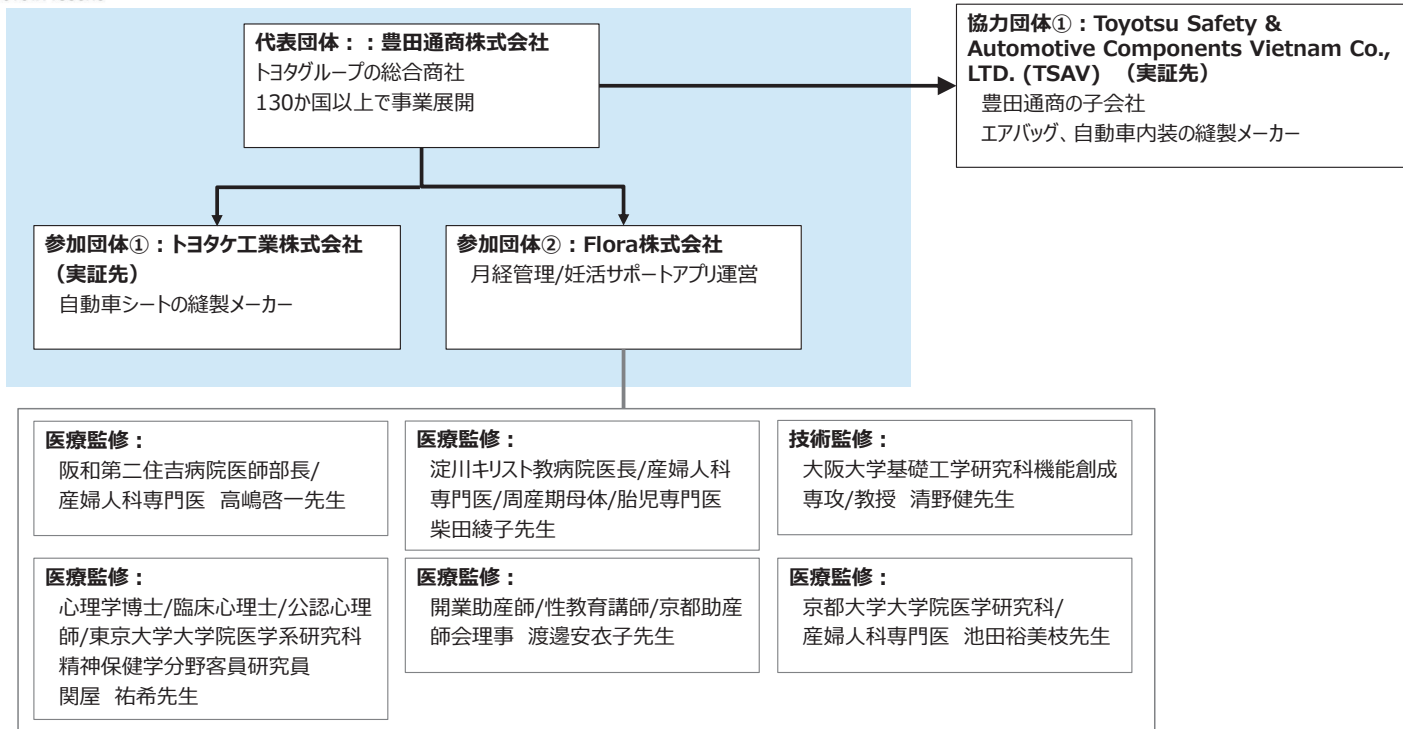
日本・ベトナムにおける
「製造IoT」×「女性の健康管理」による
生産性見える化で
女性のパフォーマンス改善を実現



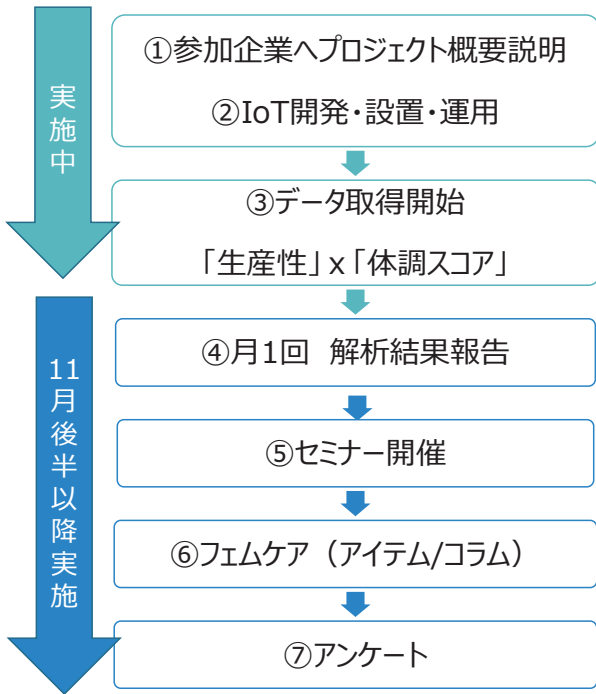
1.事業目的

<p>事業 テーマ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造現場IoT×女性の健康管理で生産性を見える化・女性のパフォーマンス改善 ✓ 『女性が我慢しない・魅力的な環境整備』をすることで、 生産性向上を図り、モノづくりの強化と持続的成長を果たす 	
<p>事業 目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造現場で働く女性の働きやすさ・働き甲斐の改善（我慢しない・伝わる職場づくり） ✓ 製造現場における『女性特有の健康課題による生産パフォーマンス』の見える化 	
<p>事業 背景</p>	<p>女性従業員の課題 (現場女性50人ヒアリング)</p> <ul style="list-style-type: none"> 月経痛の日でも、毎日同じ作業をしないといけない ライン作業なので、突然休むと迷惑がかかる 男性上司に、理由を話して休むのは気が引ける 	<p>企業の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定の週に生産性が落ちている社員がいる気がする 突然休まれるとシフトを組み替える工数が発生 男性側から声をかけて良いのかよく分からない 
<p>女性側も企業側も、女性特有の健康課題によって悩みを抱えている →しかし、客観的なデータとして見える化できていないので、 明確な対策を打つことができずにいる (企業もPainの根っこを捉えられていない)</p>		

2.実施体制



3.進め方のステップ



①成果物：女性従業員含む参加者全員で目的共有

②成果物：個人ID別の生産性がリアルタイムに把握できる

トヨタ/TSAV：開発協力、設置、日々のデータ取り、定期的なデータ提出

豊通：メーカー選定、購入、設置手配

③成果物：生産性と体調の相関性を見える化

トヨタ/TSAV：N数確保、女性職員様にて体調スコア入力

Flora：月経・更年期の健康スコア化、コラム配信

⑤成果物：検証評価報告書

トヨタ/TSAV：IoTデータを定期的に提出

Flora：健康による生産性変化を分析し企業/個人へのレポート

豊通：報告会開催

④成果物：女性の健康課題に関するリテラシー向上

トヨタ/TSAV：①経営者層向け②製造現場で働く女性の健康課題解決

Flora：①②セミナー内容設計、トヨタでのセミナー録画

豊通：TSAVにて翻訳

⑥成果物：女性職員様の体調改善

トヨタ/TSAV：各個人でパーソナライズされたケアを実施

Flora：パーソナライズされたFloraモール商品紹介/コラム配信

豊通：フェムケアアイテム手配・納品・代金負担方法確立、ベトナムへアイテム輸出

⑦成果物：検証評価報告書

Flora：評価集計と結果のまとめ

豊通：報告会開催・最終報告書作成

4.実証内容

実証先	(1)	トヨタ工業株式会社 (愛知県豊田市)	生産データ取得対象者 製造現場で働く女性：13名
	(2)	Toyotsu Safety & Automotive Components Vietnam Co., LTD. (TSAV) (ベトナム)	生産データ取得対象者 製造現場で働く女性：10名
実証内容	(1)	データ取得 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 「生産性データ」と「体調アンケートのスコア」を入手 ➢ 女性の健康課題がどのように生産性に影響しているか ➢ 各個人のパフォーマンスレポートを作成、評価、 →女性従業員/経営者へフィードバック 	2023年10月 ~2024年1月
	(2)	フェムケア実施 行動変容：フェムケア有無による生産性への影響を確認	2023年12月 ~2024年1月
セミナー	(1)	経営者、事務職 (男女) 向け	トヨタケ :10名 TSAV :46名
	(2)	製造現場で働く女性従業員 向け	トヨタケ :42名 TSAV :314名

4.実証内容

生産性と体調の相関性を見える化し、客観的なデータ（生産数）と紐づけ、効果検証することで、ケアに対する意識を向上させる。

データ取り



トヨタ工業株式会社



体調スコア

生産性データを取得



パフォーマンスレポート
（相関性が見える化）

フェムケア

1.自分だけのヘルスレポートやコラム・セルフケアを提供

2. AI bot にてセルフチェックを実施

3.フェムケアグッズ提供（Flora Mall）



セルフチェック



月経困難症チェック
生理中の症状を答えて月経困難症の可能性をチェッ...



妊娠力チェック
普段の生活習慣について答えて自分の妊娠力をチェ...



子宮頸がんチェック
いくつかの質問に答えて、子宮頸がんの可能性をチ...

Flora Mall



5.成果指標 (KPI)

<目的>

個人：自身の体と向き合い、ケアするきっかけに

企業：課題の見える化・生産性の改善を測る

健康課題を抱える女性を取り巻きリテラシー向上を目指す

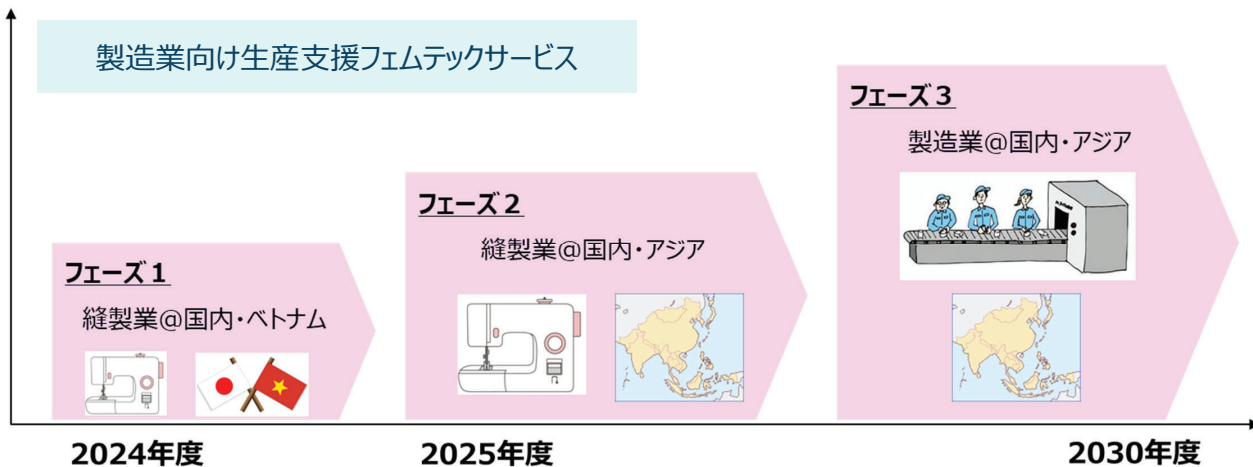
KPI	目標値
①絶対的プレゼンティズム (WHO Health and Work Performance QB9-11)	サービス利用前後で 20%以上改善した者の割合
②ヘルスリテラシー	サービスに触れた職員の 80%改善
③パフォーマンスレポート	パフォーマンスレポート (「生産性」×「体調スコア」) の提出
④労働生産性損失額	実証開始前後で 平均20%減額すること
⑤体調スコア	実証開始前後で 平均20%改善すること



6.実施スケジュール

			2023年						2024年				
			5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
① トヨタ工業 にてPoC	プレ調査実施 (2月~4月) 解析結果報告会	作業者別に生産性データx月経データに 相関があることの確認	▶										
	1.女性の 健康セミナー実施	資料作成・準備	▶										
		セミナー開催	▶										
	2.データ取得 「生産性」x「体調スコア」	システム開発 & トライ	▶										
		本稼働	▶										
データ解析 & 結果報告会 月1回開催		▶											
3.フェムケア実施		▶											
② TSAV (ベトナム) にてPoC	1.女性の 健康セミナー実施	資料作成・準備	▶										
		セミナー開催	▶										
	2.データ取得 「生産性」x「体調スコア」	メディカルケア調査@ベトナム	▶										
		システム設営 & トライ	▶										
		本稼働 データ解析 & 結果報告会 月1回開催	▶										
3.フェムケア実施		▶											
③効果検証	アンケート調査	A.フェムケアアイテム活用成果：3回 B.実証アンケート：実証後1回	▶ A ▶ A ▶ A ▶ B ▶										
④報告会		・中間報告会・成果報告会	▶ ▶										

7.今後の事業の発展性



今後の仲間探し

【国内】製造業で働く女性に向けたフェムケア商品の提供（縫製業以外でも検討）

【海外】アジア地域でのフェムテックサービス（海外展開可能）

中間報告

日本美容創生株式会社

更年期症状に悩める女性美容師のウェルビーイング実現および 実証の波及効果による持続的なエコシステムの構築



日本美容創生株式会社
Japan Beauty Industrial Revitalization Company



①事業概要・目的

本事業では女性の美容師がプログラムに参加することにより、女性自身が更年期症状と向き合うと共に、適切な対処方法を理解し対応していくことによって、働く女性のウェルビーイング実現を目指します。本事業は女性にとってのサードプレイスである美容院を起点として美容師自身が女性顧客へ成功体験を伝えることでロールモデルとなり、更年期を迎える女性が一人で悩みを抱えずに安心して適切な対処法を知り、実践できるようにします。美容室と医療が女性を包括的にサポートする「更年期エコシステム」として機能し、働く女性の望むキャリアを歩む支援を行います。

美容師への更年期
セラピストの資格認定



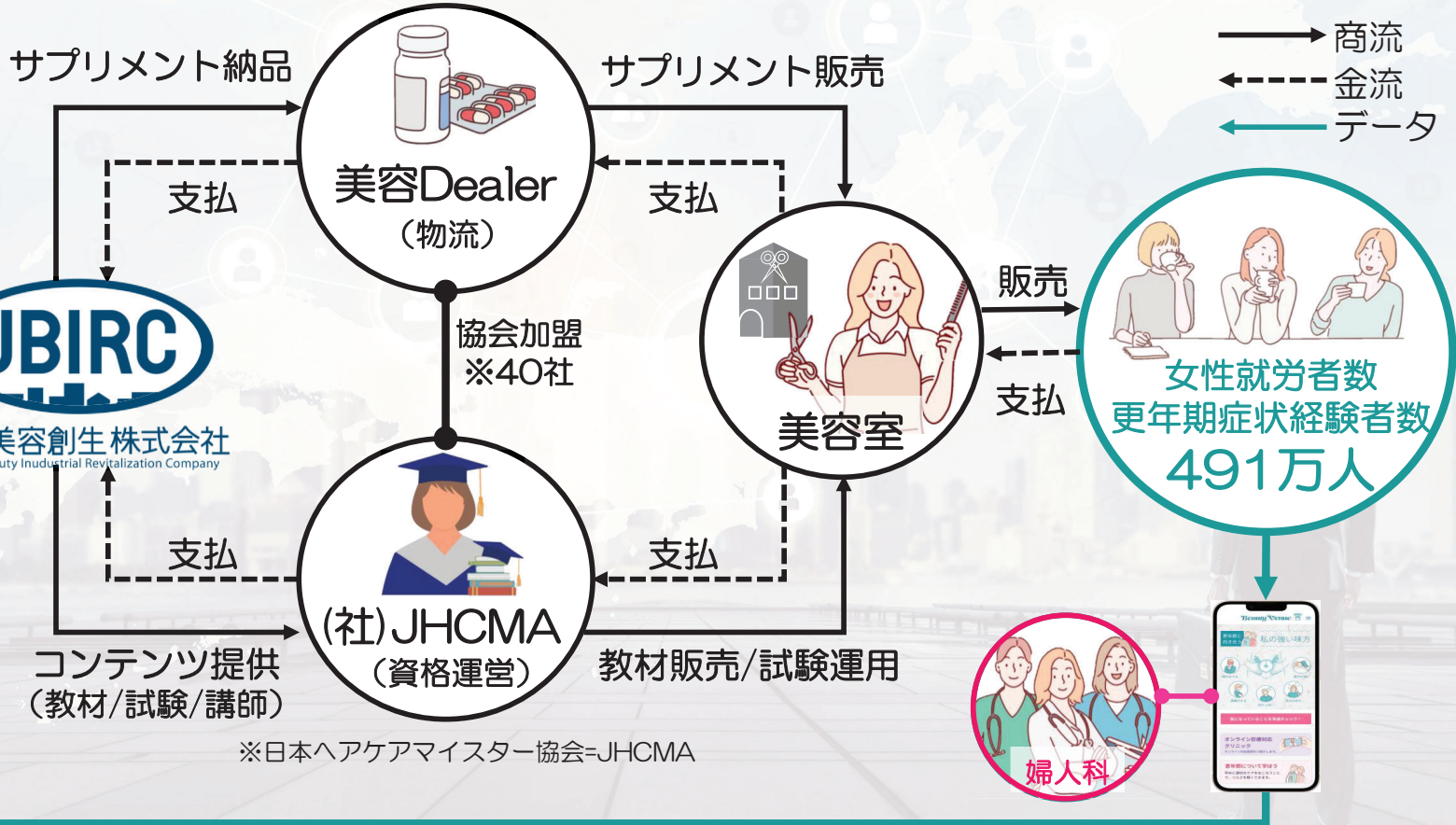
美容室への
更年期サプリメント
の卸売販売



女性ユーザーが使う
更年期データシステム



事業概要



実施項目・目標

本実証実験での目標

＜目指すべき姿＞

- ・正しい知識を持ち、自身の症状を把握・理解することができる状態をつくる
- ・症状にあわせた適切なケア方法を理解し、緩和に努めることができる
- ・職場において、各々が抱える不調を改善するためのサポートができる環境をつくる

＜定量的指標＞

成果 指標	セミナー 参加者数	パーソナルケア 提供者数	症状改善者数
	40名	40名	32名 ※サービス提供者の8割
	資格取得者数	キャリア形成 マインド向上者数	共通指標①の スコア増加数
	22名 ※症状改善者の7割	22名 ※症状改善者の7割	32名 ※サービス提供者の8割

補助事業者(コンソーシアム)

補助金活用者

代表団体
日本美容創生(株)

協力者
小山クリニック
(小山嵩夫医師)

協力者
明治大学名誉教授
小川智由

参加団体
(株)RUALA
※実証先

協力団体
渋谷区産業観光文化部
グローバル拠点都市推進室  渋谷区
Shibuya City

参加団体
総美有限会社
※実証先


協力団体
宇都宮イノベーション
コンソーシアム  宇都宮市
Utsunomiya City

③実施項目ごとの現状の進捗と成果

実施項目ごとの現状

<進捗>

- セミナー参加者46名 (渋谷区20名、宇都宮市26名)
- オリエンテーション開始 (渋谷区 10/16、宇都宮市10/15)
- 美容師のヘルスリテラシーを証明する資格制度に用いる教則本が完成
- 美容師への教育を提供する講師育成が完了
- 有資格者が提案できる更年期サプリメントが完成

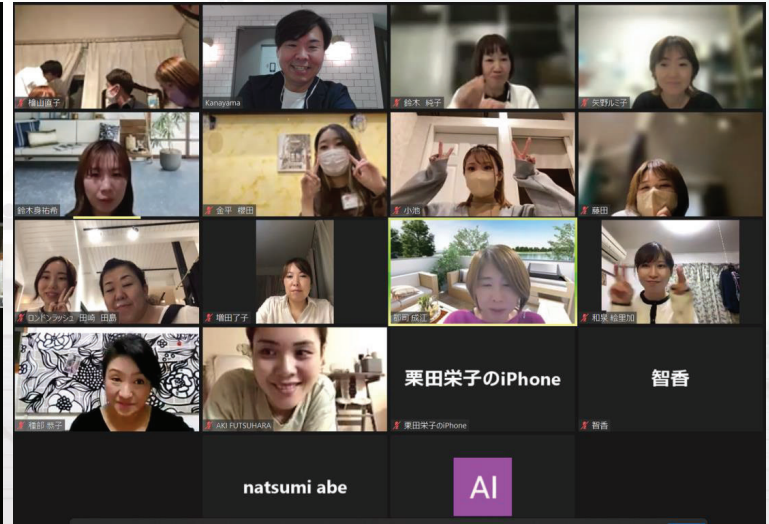



2023.10.15.
経済産業省フェムテック実証事業「美容室はまちの保健室in宇都宮」

シリーズI
女性のライフステージと健康

内閣府 第4次・5次男女共同参画基本計画策定専門調査会委員
公益社団法人日本産婦人科医会常務理事
女性クリニックWe! TOYAMA 代表 / 産婦人科医
富山県議会議員

種部恭子



教則本と講師陣

ヘアケアマイスター
ヘルスケアコース

メノポーズ
(更年期)
テキストブック



種部恭子医師
産婦人科医／富山県議会議員

国の第4次・5次男女共同参画基本計画策定委員を務め、女性の健康および女性に対する暴力の根絶の分野を担当した。公益社団法人富山県医師会常任理事、公益社団法人日本産婦人科医会常務理事等を兼任。



望月善子医師
獨協医科大学医学部特任教授

95年獨協医科大学医学部産婦人科入局、2011年同附属病院女性医師支援センター・産婦人科教授。16年1月より現職。もちづき女性クリニック院長。



河村しおり
日本臨床化粧療法士協会 代表理事/臨床化粧療法士®/メノポーズカウンセラー

2017年一般社団法人日本臨床化粧療法士協会を設立。台湾医療系国立大学非常勤講師や企業顧問、新聞コラム連載、外部講師、講演活動など行う。

実施項目ごとの現状の進捗と成果

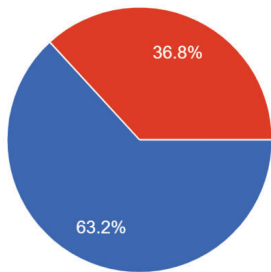
実施項目ごとの現状

<成果>

- アンケート結果より被験者の美容師に実証実験の趣旨を理解してもらえた
- 美容師が健康相談になれる事、美容室と婦人科が繋がる活動への高い期待を確認できた
- 被験者である女性美容師の自身に対するヘルスケアの意識が向上できた

美容室はまちの保健室について美容師が健康相談...室と婦人科が繋がることについてお聞かせ下さい

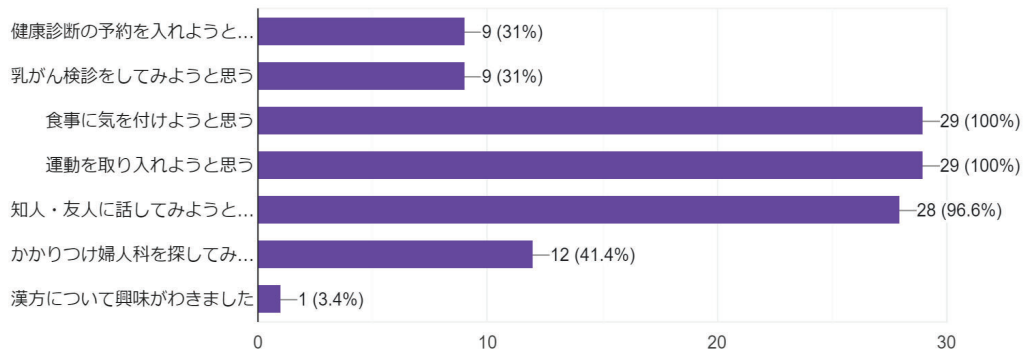
38件の回答



- とても期待している
- 期待している
- 分からない

産婦人科医師の講習を受講して今後取り入れたいことを教えてください。※複数回答

38件の回答



今後の成果の見通し・展望

今後の成果の見通し・展望

<見通し>

- 全プログラムに参加してもらうことで美容師のヘルスリテラシーがさらに向上する
- 教則本を活用した女性の身体と更年期の知識を学んでもらえる
- 被験者の美容師がプログラム最終日の試験に8割以上合格する
- 実証実験の参加前と参加後の更年期症状(SMI)が緩和される
- 試験に合格した美容師から更年期世代の顧客に向け情報発信と健康相談をうける

<展望>

- 被験者の美容師さん自身の症状や更年期レベルについて把握するのみならず、セルフケア方法などを知ることヘルスケアリテラシー向上および、症状緩和のためにプロフェッショナル（理学療法士や婦人科医）と繋がり、普段通う美容室にて担当する美容師が個別の悩み・健康状態・疾患傾向などの相談を受けられる仕組み。

④課題と対応策

今後の課題と対応策

<課題>

- 被験者である美容師のプログラム（全4回）の受講欠席について
- 各プログラム受講後のアンケート未入力について

<対応策>

- 後日受講ができるアーカイブ視聴の提供
- 参加時に入力してもらった連絡先メールアドレスにアンケート入力を依頼

⑤今後の予定

11月

12月

1月

2月

1~10日

11~20日

21~30日

1~10日

11~20日

21~31日

1~10日

11~20日

21~31日

1~10日

11~20日

21~29日

実証実験（全4回）

渋谷区 11/14、11/21

宇都宮市 11/15、11/29

参加者
フォロー連絡

現場検証
実施美容室
への説明会

現場検証
2/1~2/29

渋谷区
宇都宮市

実証実験（全4回）の
集計と分析

管理画面システムの開発・テスト運用

管理画面システムの運用

美容室ルアラ
共同経営者
スタイリスト
角 薫



<https://youtu.be/Qui5re8ayzc>



中間報告

Lasiina株式会社

**働く女性の尿モレ（軽失禁）
不安解消・ウェルビーイング向上を図る
サービスの開発と実証**

2023年11月09日

代表団体 Lasiina株式会社



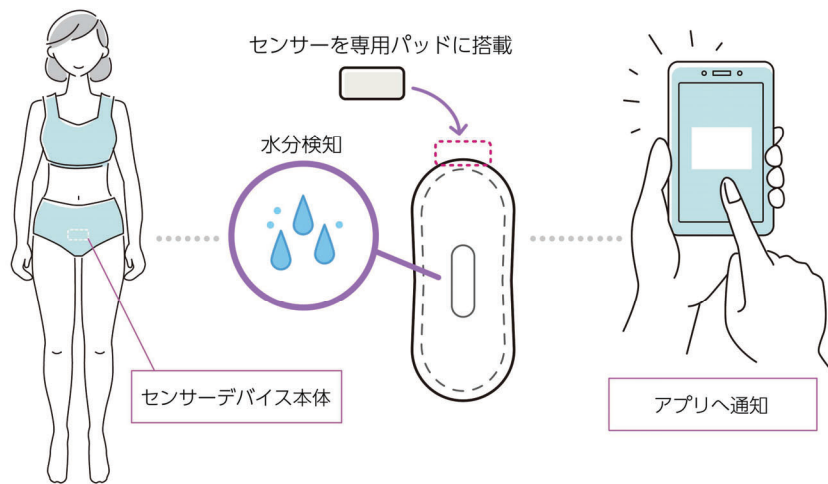
Lasiina株式会社
代表取締役 野正竜太郎



1. 漏れや不快感 尿が漏れることによる不快感や恥ずかしさ
2. トイレの不安 いつもトイレが気になる
3. 自己評価低下 老け込んだ気分、情けない気持ちになる

「Lasiina調べ」

センサー搭載の軽失禁パッドで尿モレの不安を軽減するサービス



働く女性の尿モレ（軽失禁）
不安解消・QOL向上を図る
サービスの開発と実証

- ①センサー対応吸水パッド新商品開発
- ②センサー・スマートフォンアプリ開発
- ③実証アンケート・モニターテスト

実施してきたこと

①センサー対応吸水パッド新商品開発

漏れが不安で厚手のパッドを利用していた女性も、センサーが監視しているから安心
薄いパッドに変えてすっきり快適。おしゃれが楽しめるようになる



170ccパッド
厚くモコモコして動きにくい

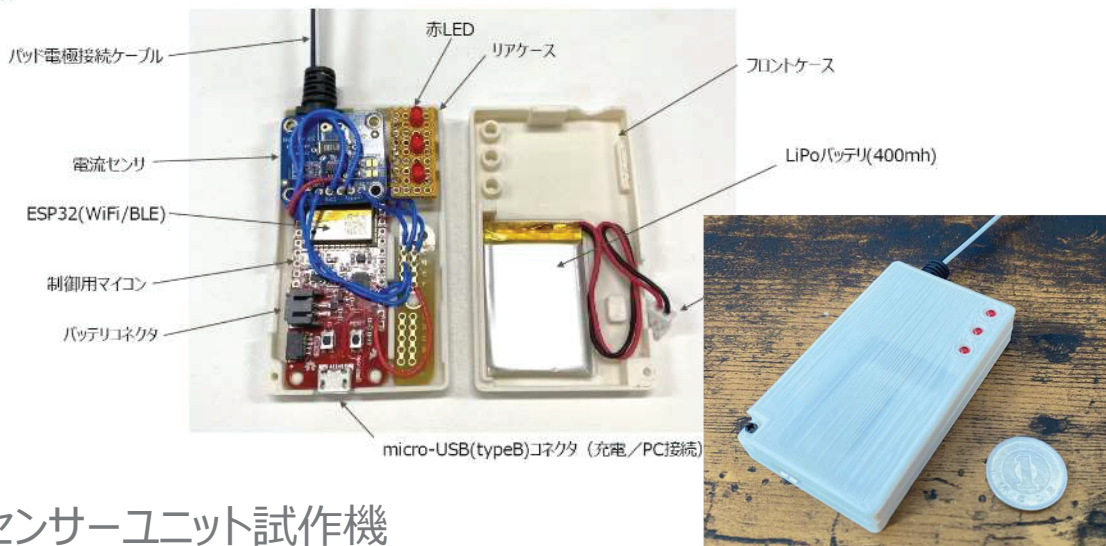


20ccパッド
薄くてすっきり。動きやすい

実施してきたこと

②センサー・スマートフォンアプリ開発

■ 構造図



センサーユニット試作機

最終製品は消しゴムサイズ。コードレス化予定。

実施してきたこと

③実証アンケート・モニターテスト

FUJITRA Café presents

富士通社員のままスタートアップ起業！ 実践者が語る世界初のサービスを創る取り組み

～出向起業で立ち上げた Lasiina社の取り組み紹介と実証実験への協力をお願いします～

企業に所属したままスタートアップを起業する「出向起業」制度は、富士通から出向起業された Lasiina社 代表 野田 聡志氏、日本製紙クレシア社にお越し頂いた、その取り組みを広く紹介いたします。

また、富士通発スタートアップの実証実験にご協力いただける方の募集も行います。

※1：経済産業省の立ち上げた大企業等人材による新規事業創出促進事業（制度：<https://www.meti.go.jp/policy/economy/izae/shukokugen/shukokugenqna.html>）※2：「Lasiina社」は、(株)ニッセイの「新規事業スタートアップ」日本製紙クレシア社主催の中で、経済産業省のスタートアップ補助金募集に採択された。

開催日時
10月18日(水)
12:10-12:50 オンライン開催

お問合せ先
新規事業創出プログラム
Fujitsu Innovations Circle 事務局
Mail: fuji-innov@dl.jp.fujitsu.com

登壇者
Lasiina社 野田 聡志 代表
HPQ社 野田 聡志 代表
日本製紙クレシア社 野田 聡志 代表
Lasiina社 野田 聡志 代表
HPQ社 野田 聡志 代表
日本製紙クレシア社 野田 聡志 代表

協力団体（富士通株式会社）社員に対して、モニター募集を目的としたイベントを開催した。

- 尿モレ経験がある女性の実態調査 : 計画値100名 → 現状63名
※女性31名、男性32名の回答（10月26日時点）
- センサーデバイスによるモニターテスト : 計画値30名 → 現状13名
※モニターについて、6名が協力してもよい。7名が詳しく話を聞いてから判断したいと回答

わかったことや課題

- ①尿モレは、想定していた以上にデリケートなテーマであることがわかった。
モニターテストの協力者の人数を確保することが困難であることがわかった。

尿モレについて、あなたはどのように感じましたか？

「大切なテーマ。でも大変デリケートで言い出しにくい」

「クシャミなどのときに起きる。おりものシートで結果的に対応できているが、お店で買う勇気がない。」

「知識を得るまでは恥ずかしくて対処を相談しづらいと思っていた。」

- ②アンケートにご回答頂いた方は、吸水量15cc～30cc程度の少量の吸水ケア商品を使用していることがわかった。
- ③においがして周囲にバレてしまうのではないかという、不安の声が寄せられた。

仕事をしていく上で、困ったこと、つらかったことなど教えてください

「シートをつけていないときに下着や服が濡れていないか、匂いなどきになってそわそわした。」

吸水パッドで困っていることはありますか？

上位の回答 → 「においが不安」「パッドを交換するタイミングが判らない」

今後実施すること

- ①デリケートな悩みにフォーカスした検討を引き続き実施していく。
(モニターテストの協力者ひとりひとりに対して、詳細の聴き取り調査を推進)
- ②少量吸水量の吸水パッドをモニターテストに向けて用意する。
(現在用意しているパッドは170ccタイプであるため、本実証実験に向けて25CCセンシングパッドの準備を検討することとした)
- ③においの不安に寄り添ったサービスの開発を推進していく。
(現在想定してる、吸水残量の表示に加えて、モレが発生してからの時間経過を通知する機能を検討することとした)

フェムテック等サポートサービス実証事業スケジュール

	2023年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月
吸水パッド 新商品開発		パッド開発支援	サンプル製造	サンプル① 提供・データ検証 (人への着用テスト)				サンプル② 検討 (コネクタ接触確認)			
センサー デバイス開発			試作モデル製造先選定	現行機での接続テスト	試作モデル設計・製造	10セット製作		改善改良 パッドとの接続テスト			
スマートフォン アプリ・解析基 盤開発				スマートフォン連携機能開発 データ管理・尿モレ通知機能開発				データ検証 機械学習モデル作成			
ヘルスケア データ基盤			商品開発					仕様確認	実験環境整備		
軽失禁向けセ ンサーデバイス によるモニター テス			補助事業	モニター 社内募集		テスト対象者 デバイス説明	グループ 社内インタビュー	効果検証 報告書作成			
尿モレ経験が ある女性の実 態調査		▲6/7 申請済	▲採択 決定			▲アンケート 実施・分析	▲中間 検査	モニターテスト 10セット×3クルー=30人			▲成果 報告

今後の展望

尿モレの不安を解消し、外出を促進するサービスの開発を推進。
フレイル予防と健康寿命を伸ばすことに貢献する。

→地方自治体、地域の健康機関、福祉団体、
ショッピングモール、鉄道会社、バス会社、旅行関連企業等
との連携を検討



Lasiina株式会社

野正 竜太郎

nomasa@lasiina.com

中間報告

国立大学法人金沢大学

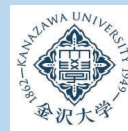
「思考するトイレ空間」としての フェムテック情報ステーションの構築

大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けた
ヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト

「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築

ー大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けた

ヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト



事業の目的

ダイバーシティ の推進

- ◆ 働きやすい職場環境づくり
→女性の上位職登用の促進。
- ◆ 女性理系研究者の活躍の場づくり。

〈研究機関としての特性〉

フェムテック 研究の促進

- ◆ ジェンダート・イノベーションズ（性差研究）への取組促進
- ◆ 融合領域的研究の推進

個人の パフォーマンス 向上

- ◆ 金沢大学の構成員約1万4000人（うち女性約5000人）の健康管理。
- ◆ フェムテックを通じたヘルスリテラシー向上の取り組み。
- ◆ 働きやすい職場環境づくり→女性の上位職登用の促進。



「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築

—大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けた

ヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト



実施項目

1

トイレ内 フェムテック情報ステーション

デリケートで話題にしづらい女性特有の健康課題について、トイレから情報発信していくことで、悩みを共有し、課題解決に結びつけていく。フェムテック関連サービスや商品の提供も行い、リサーチの場にもしていく。

2

企業と学生をつなぐ 「雑談のチカラ」

金沢大学の教職員・学生と地域・社会との共創の契機として、自由な語り（雑談）の場を創出する全学的交流事業「雑談のチカラ」。フェムテックをテーマに「雑談」を展開し、個人のアイデア創出、ネットワーク構築につなげる。

3

学生とつくる フェムテック動画配信

学生や教職員への情報提供を目的として、学生有志とフェムテックについて知る・学ぶ動画を制作し、トイレ内モニター等で配信し、男性を含めたより多くの人にフェムテックに関心を持ってもらうようにする。

4

フェムテック・ライブラリー

フェムテックに関心を持った人たちが、より深く学べる機会を得られるよう、フェムテック関連書籍の展示や、パネルで紹介していく。書籍は金沢大学の蔵書として、今後も研究に活用していく。



「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築

—大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けた

ヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト



実施目標

- 1 ヘルスリテラシーの向上と仕事モチベーション増
- 2 男性も含めた全教職員・学生のフェムテック関心度増加
- 3 継続的なヘルス・リテラシー教育プログラムの創出
- 4 企業とのコラボレーション企画への展開
- 5 フェムテック研究プロジェクトのスタートアップ
- 6 金沢大学におけるダイバーシティ推進の取組についてメディア発信



「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築

—大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けた

ヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト



代表団体及び実証先：国立大学法人 金沢大学

実施体制

協力企業

花王株式会社 (雑談のチカラ)

味の素株式会社 (雑談のチカラ)

株式会社VACAN (トイレ内サインージ設置運営)

株式会社グロースヴェネフィット (ナプキン提供モニターの設置運営)

日本カルミック株式会社 (開閉式サニタリーボックスの利用提供)

Lupinus合同会社 (雑談のチカラ)

Fermata株式会社 (フェムテック展示会協力)

2023年11月9日時点



「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築

—大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けた

ヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト



「思考するトイレ空間」を中心とするプロジェクト全体を「ふむふむフェムテック」プロジェクトとネーミング

「ふむふむフェムテック」プロジェクト

1

トイレ内
フェムテック情報ステーション

思考する
トイレ

2

企業と学生をつなぐ
「雑談のチカラ」

3

学生とつくる
フェムテック動画配信

4

フェムテック・ライブラリー



1

トイレ内フェムテック情報ステーション「思考するトイレ」

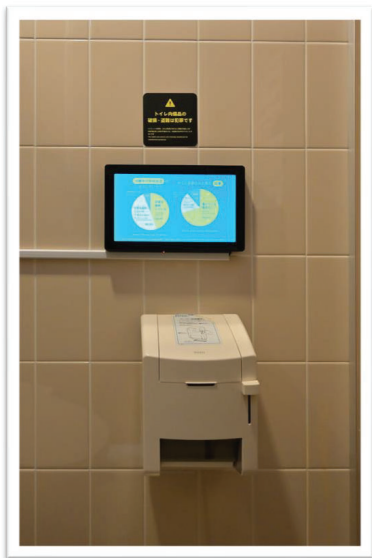
7つのテーマ[不妊、月経、性感染症、更年期、包括的性教育、緊急避妊薬、AYA世代のがん]のインフォグラフィックを10のトイレ内に掲示。

※男性トイレと女性トイレはテーマ共通



トイレ内フェムテック情報ステーション「思考するトイレ」

トイレ内のサイネージにオリジナル動画を配信。



トイレ内サイネージ



ナプキン支給型 トイレ内サイネージ



企業と学生をつなぐ「雑談のチカラ」



2023年10月17日（火）

iU 学生起業家・京田祐里奈さんとのトーク・カフェ
「フェムテックで起業する！」

ゲスト：京田祐里奈さん

（Lupinus合同会社代表・【iU】情報経営イノベーション専門職大学4年）

参加者：11名



2023年10月23日（月）

花王&味の素のフェムテックの取組

「なぜ、いま、フェムテック？～痩せたい ⇒ 健康で自分らしいわたしへ～」

ゲスト：花王株式会社（アジアフェムテックフェムケア・プロジェクトメンバー）

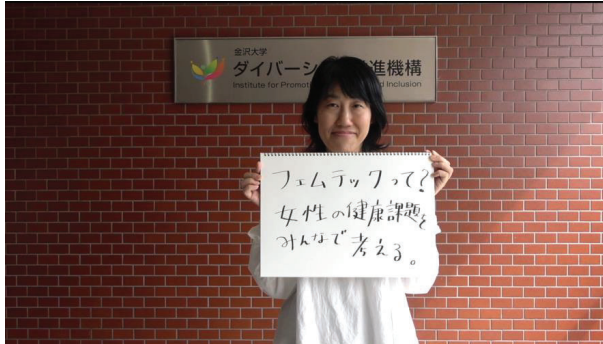
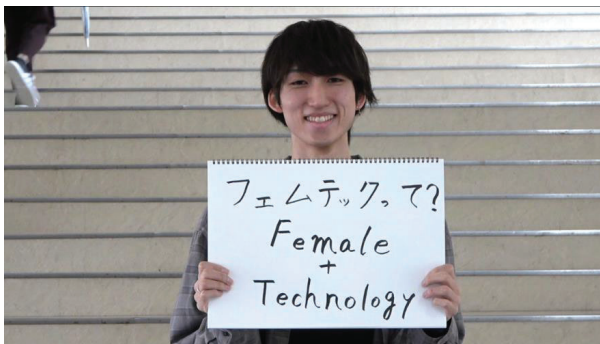
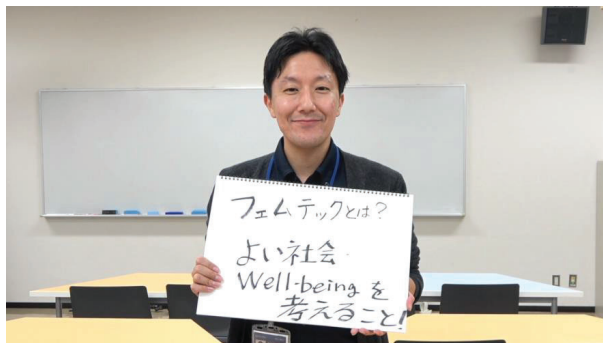
味の素株式会社他

参加者：20名



学生とつくる フェムテック動画配信

教職員・学生・ゲストと協同しトイレ内のサイネージに配信する動画を制作。



オープニング企画として、フェムテックアイテム展示会とミニライブラリーを実施。



2023年10月16日・17日
フェムテックアイテム展示会



2023年10月16日・17日
フェムテック・ミニライブラリー

「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築

—大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けた

ヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト



今後の成果
の見通し・
展望

1 ヘルスリテラシーの向上と仕事モチベーション増

関心度が高まっている。
アンケート調査予定。

2 男性も含めた全教職員・学生のフェムテック関心度増加

3 継続的なヘルス・リテラシー教育プログラムの創出

学内教員による
セミナーの実施。

4 企業とのコラボレーション企画への展開

5 フェムテック研究プロジェクトのスタートアップ

プレスリリースの配信
新聞2社、ウェブ1社取材
協力企業からのリリース

6 金沢大学におけるダイバーシティ推進の取組についてメディア発信



「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築

—大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けた

ヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト



課題と 対応策

1 ヘルスリテラシーの向上と仕事モチベーション増

2 男性も含めた全教職員・学生のフェムテック関心度増加

3 継続的なヘルス・リテラシー教育プログラムの創出

4 企業とのコラボレーション企画への展開 ★

今後、企業との連携を強め、
将来的な事業連携や研究へと
つなげていく。

5 フェムテック研究プロジェクトのスタートアップ ★

6 金沢大学におけるダイバーシティ推進の取組についてメディア発信



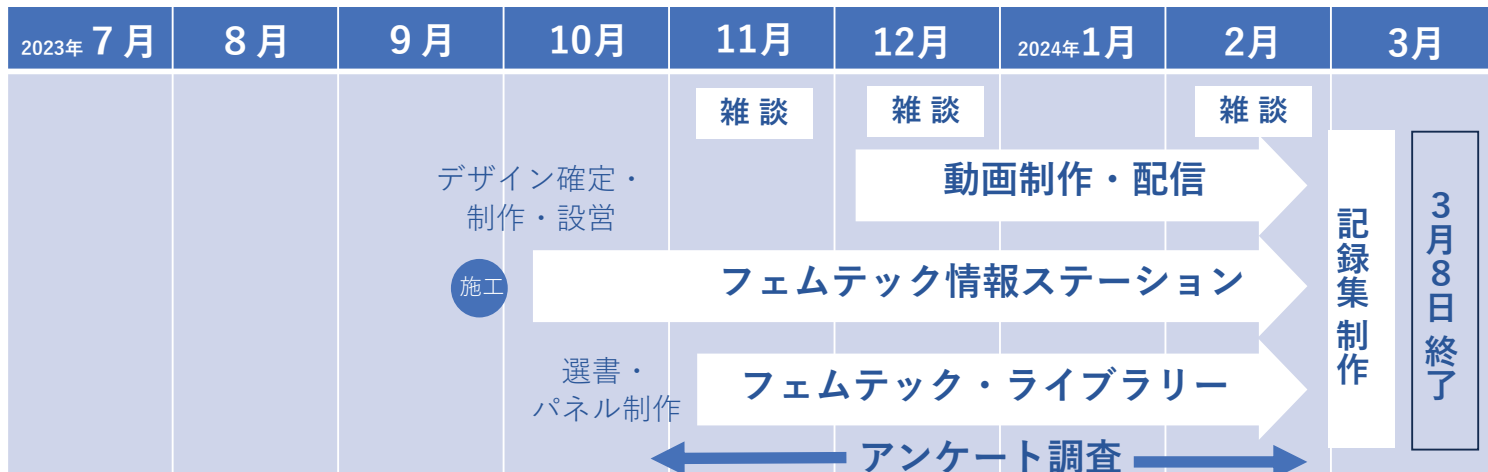
「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築

—大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けた

ヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト



全体スケジュール



協力企業との連携

フェムテック・プログラムを通じ、健康問題に対する理解・教育を推進したい！
ご協力いただける企業を募集しています。



今後の予定

- 「思考するトイレ」スタンプラリー
- フェムテック・ライブラリー[中央図書館]
- フェムテック・セミナー
- 「雑談のチカラ」
- 学生とつくるフェムテック動画
- ユースクリニック・プロジェクト など。

一般
公開

10の「思考するトイレ」をめぐるツアー

2023年10月-2024年2月 毎月第2・第4木曜日 (11/23・12/28を除く)

15:00～ (約1時間)

申し込み：<https://forms.gle/dAy87ZjJeRiaLHJy9>



中間報告

株式会社アイセック

～ 地域職域連携による就労妊婦及び夫への のオンライン両立支援事業～

中間報告書

2023.11.22



株式会社アイセック

i S E Q





会社名	株式会社アイセック
代表	代表取締役CEO 木村大地
設立	2019年12月
事業内容	健康医療データ分析事業、健康経営支援事業、 オンライン健康相談事業など
資本金	3,210万円
その他	<ul style="list-style-type: none">・新潟大学発公認ベンチャー第1号・経済産業省 「行政と連携実績のあるスタートアップ100選」に認定 教育・子育て部門では東北北信越地域で唯一認定される

VISION

安心して親になる社会を目指します



(妊産婦) 情報提供&相談の融合

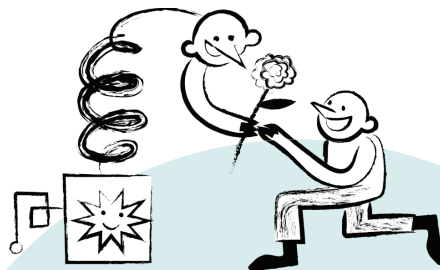
子育ては不安がいっぱい。

AIチャットボットを活用し

個人ニーズに寄り添った情報提供を行い、

出産や子育ての「不安」を「安心」に

変えます。



(自治体) 切れ目ない支援のサポート

伴走型支援を強化したい。

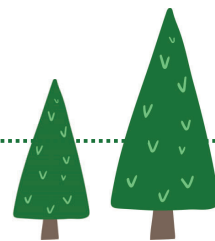
自治体が行う母子保健事業の

補完サービスとして

効果的効率的にオンラインで

保健師助産師等の専門家が寄り添います。

目次



01

事業概要・目的

02

進捗と成果

03

課題と対応策

04

今後の予定

事業概要・目的（事業内容）

はたらくパパママが、LINE登録し、AIチャットボットや
オンライン健康相談を活用しながら不安や悩みを解消！

新潟市保健
(出産後～2歳までのお子さんをおもちの方)

健康産業系「令和5年度 フェムテック等
サポーターサービス取組実施報告書」掲載

はたらくパパママをサポートする
LINE相談サービス

登録
無料

妊娠・出産と仕事の両立に
不安や悩みを抱えていませんか？

新潟市の妊産婦のうち、9割の方は働いていますが、
産前・産後は、心身に大きな負担がかかりやすくなる時期です。
妊娠・出産にあたり不安や疑問をお持ちの方、
妊娠・出産をしても仕事を確保したいが両立できるか不安な方、
会社に相談できず、一人で考え続けている方、
そのお気持ちもLINEで教えてもらいませんか？

妊娠・出産と
仕事の両立を
応援します！

利用開始：令和5年12月14日（木）～

★ お勤め先に代行相談

「職場復帰しても両立できるか不安」、
「仕事をセーブしたいが会社に言えない」等
助産師や産業カウンセラー等が、
お勤め先への相談方法や内容等と一緒に考えます。
お勤め先への相談を代行することも可能です。

★ あなたのこころの 健康チェック

質問に回答するだけで、
こころの健康チェックができます。
結果に応じて、助産師や保健師等と
オンライン相談ができます。

★ お子さんの成長記録

質問に回答いただくことで、
お子さんの「できた！」を記録し、
成長を見守ります。

★ AIチャット相談

欲しい情報やちょっとした疑問等、
AIチャットでお悩み解決の
お手伝いをします。

LINE 友だち登録
お問い合わせ

LINE 友だち登録
お QR コードからお友達登録
をお願いします。
(アプリのダウンロードは不要です。)

お問い合わせ
株式会社アイセック サポートデスク
TEL 25-378-8858 E support@iseq.co.jp
※お問い合わせ可能時間：土日祝日も9:00～18:00

LINE 登録
表面の QR コードから
登録してください。

あなたとお子さんの情報を登録
あなたとお子さんの情報を
登録していただきます。

スクリーニング
勤務形態や心の状態等を
スクリーニングし、お勤め先に
相談可能か問います。



各種サービスを無料でご利用いただけます。

※一部条件あり

AIチャット 相談

「これはどうしたらいいの?」
「相談先は?」等、ちょっとした
疑問を質問してください。
会話形式でお答えします。

※AIはただの学習データであり、うまく
お答えできないこともあります。
また、たくさん質問をしていただくこと
で、質問傾向を学習し、回答の精度
を高めます。



お勤め先に 代行相談

妊娠・出産に関すること
をお勤め先に相談できない
方は、オンラインで助
産師や保健師、産業カウ
ンセラーと一緒に考えま
す。さらに、ご希望がござ
いましたら、お勤め先へ
代行相談いたします。



お子さんの 成長記録

お子さんは運動や言葉、表現
方法等において、日々成長
し、変化します。成長の様
子を記録し、一緒に成長を見守
ります。



あなたの※ こころの健康チェック

「いつもと違うかも」と感じたら、
24時間 365日いつでも
チェックが可能です。子エック
ス級、助産師や保健師との相
談予約～相談まで、オンライ
ンで完結します。

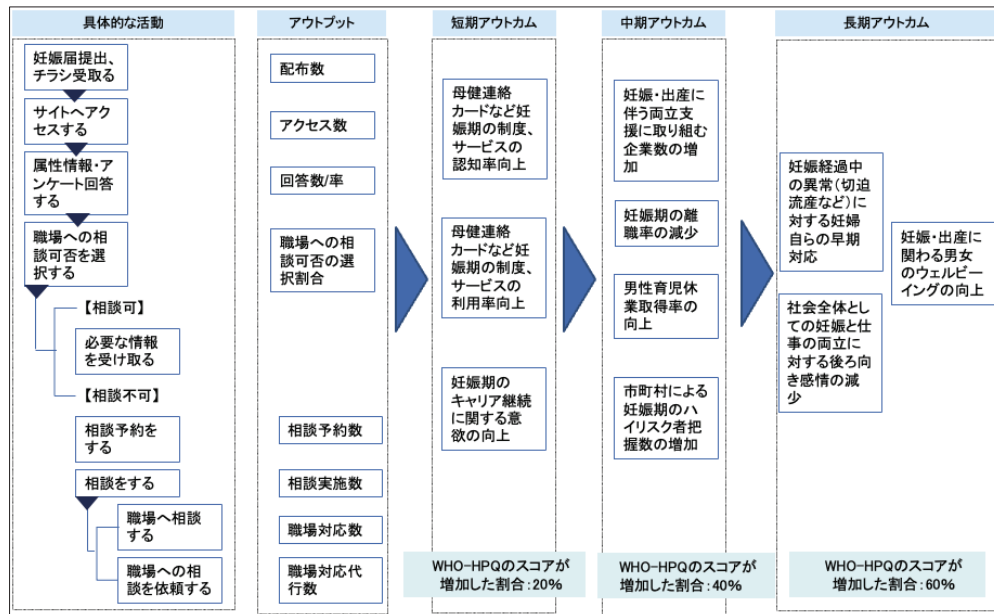
※1助産師や保健師等との相談、
精神科医との相談を実施する場合は、
別途料金が発生いたします。



事業概要・目的（実施項目・目標）

ビジネスモデルと目標値は以下のように設定しています。

ロジックモデル

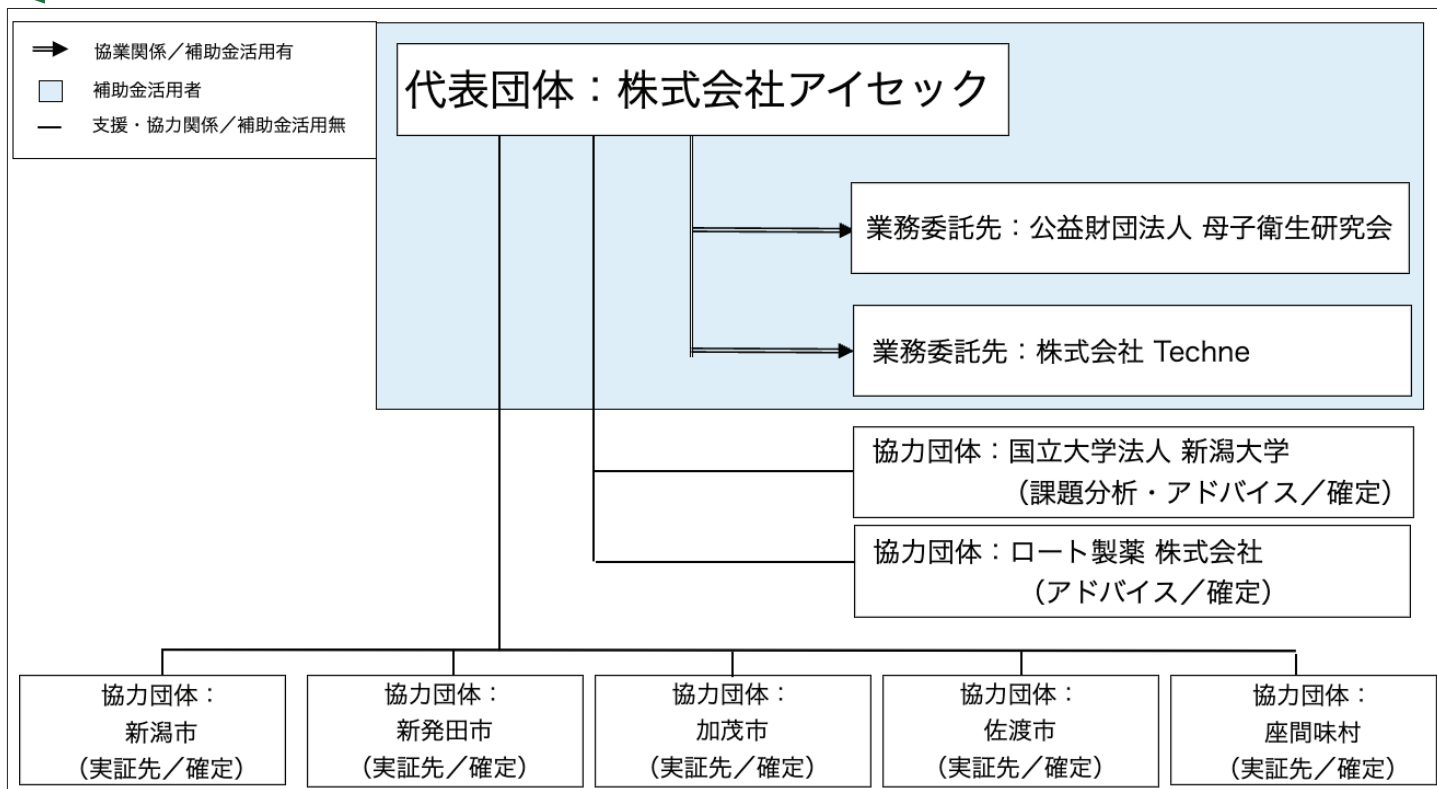


実施計画

実施事項(大項目)	実施事項(小項目)	計画値
1. 自治体経由の周知	1.1 妊娠届提出時に実証事業チラシの配布	・協力自治体数：5市町村 ・対象者数合計：6,115人 ※令和2年出生数統計より
	1.2 専用サイトログイン	・妊婦のアクセス数：1,529人 ・実証期間対象者(6,115÷12)×6=3,057人 ・就業妊婦数 77.6%(3,057×0.776) = 2,373人 ・参加割合 70%(2,373×0.7) = 1,661人
	2.1 問診	・問診のアクセス数：1,578人 ・問診回答脱落者 5%(1,661×0.95=1,578)
	2.2 情報提供者数	・AIチャットボット利用者：1,341人 ・アクセス者 85%(1,578人×0.85=1,341)
2. 妊婦と配偶者による実証参加	2.3 相談利用者数	・オンライン相談利用者：237人 ・アクセス者 15%(1,578人×0.15=237)

事業概要・目的（実施体制）

産官学連携で、地域と職域をつなぐ体制づくりを目的としています。



進捗と成果

02

自治体との合意形成は完了し、
12月から各自治体での声かけ・サービスの利用を開始します。



新潟市(8行政区すべて)

- 5市町村の実証運用調整が完了



新発田市

- 新潟市は8行政区長会議で説明し承諾



佐渡市

- 共通ニーズ・独自ニーズの整理完了



加茂市

- 実証開始前に要望をシステムに反映



沖縄県座間味村

- 事業開始準備が整い12月から周知開始



課題と対応策

自治体説明等の影響による開始時期遅延を受けて、
対象者増加に向けた取組を実施しています。（配布機会の増加、広告媒体の利用）

	新潟市	新発田市	佐渡市	加茂市	沖籠県座間味村	合計
年間出生数 (令和2年出生数統計より)	5,173	578	247	110	7	6,115
対象人数	5,000	133	471	108		
チラシ配布枚数	5,000	160	471	120		
広告媒体の活用	○	○	○	○		
チラシ配布時の本サービスの説明の有無	○(可能な範囲)	-	○	○		
対象範囲拡大(未就労も対象)	○	-	○	○		
配 布 タ イ ミ ン グ	窓口に置く	△	○	-	-	
	妊娠届時	○	○	○	○	
	妊婦面談	○	-	○	○	
	安産教室	△	-	-	-	
	プレママプレパパ教室	△	-	○	○	
	出生届時	-	-	○	○	
	新生児訪問	-	-	○	-	
	乳幼児健診	△	-	-	○	
	股関節健診	○	-	-	-	
	両親学級	-	-	○	-	
	妊婦健診	-	-	-	-	
	種乳食教室	△	-	○	○	
	予防接種券配布	○	-	-	-	
	予防接種	-	-	-	○	
	その他	△	-	-	○(掲示等)	

○：配布可
△：各区の判断による

自治体で
検討中

今後の予定

11/22以降のスケジュール

	開始日	終了日	ステータス		7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月										
			事業進捗	遅延有無	10	17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26	4
事務局と実施内容の調整・計画確定	7月中旬	7月31日	完了	—	■			■																															
各業務委託契約先との協議及び契約等協力団体（実証先）の確定	7月下旬	7月31日	完了	—	■			■																															
各実証先と実証に関する協議及び契約等（ レクチャー ）	8月1日	8月上旬	実施中	遅延あり	■			■			■			■			■																						
チラシの作成	8月1日	8月中旬	実施中	遅延あり	■			■			■			■			■																						
本事業者の利用者に配布するアンケートの作成	8月1日	8月中旬	未実施	—	■			■																															
実証タイミングの決定、決定次第チラシ配布	8月中旬	8月31日	未実施	—	■			■																															
本事業に関するシステム開発	7月中旬	2月29日	実施中	遅延あり	■			■			■			■			■			■			■			■			■										
専用問診の内容決定	8月1日	8月上旬	完了	—	■			■			■																												
実証（本事業者の利用者にアンケート実施）	9月1日	2月29日	未実施	—	■			■			■			■			■			■			■			■			■										
システムから利用状況確認（情報提供者数）	9月1日	2月29日	未実施	—	■			■			■			■			■			■			■			■			■										
システムから利用状況確認（相談利用者数）	9月1日	2月29日	未実施	—	■			■			■			■			■			■			■			■			■										
利用状況の定期的な報告及び自治体へ早急な情報共有が必要と判断された相談があった場合の報告	9月1日	2月29日	未実施	—	■			■			■			■			■			■			■			■			■										
事務局主催の中間報告会準備・参加後、自治体へ情報共有	12月1日	12月中旬	未実施	—													■			■			■			■													
アンケート結果のまとめ	12月1日	2月29日	未実施	—																■			■			■			■										
アンケート結果を踏まえた報告書の作成・提出（報告書提出日:3月8日）	1月中旬	3月8日	未実施	—																■			■			■			■										
事務局主催の成果報告会準備・参加後、自治体へ情報共有	2月1日	2月29日	未実施	—																■			■			■			■										
実証参加妊婦の報告先である企業へ報告	9月1日	2月29日	未実施	—	■			■			■			■			■			■			■			■			■										
対象企業へ中間報告会内容を情報共有	12月1日	12月中旬	未実施	—													■			■			■			■			■										
対象企業へ成果報告会内容を情報共有	2月中旬	3月8日	未実施	—																■			■			■			■										
商工会経由の企業へのアンケート設計	9月初旬	10月13日	実施中	予定通り							■			■			■			■			■			■			■										
商工会経由の企業へのアンケート実施	10月16日	10月31日	未実施	—							■			■			■			■			■			■			■										
商工会経由の企業へのアンケート結果分析・まとめ	11月1日	2月中旬	未実施	—										■			■			■			■			■			■										
定例会（毎月第1水曜10:00～10:30）	9月6日	—	実施中	予定通り							●			●			●			●			●			●			●										

凡例
 ・黒・青で記されたもの：提案書提出時の内容
 ・赤で記されたもの：提出した提案書の内容から

中間報告

株式会社きゅあも

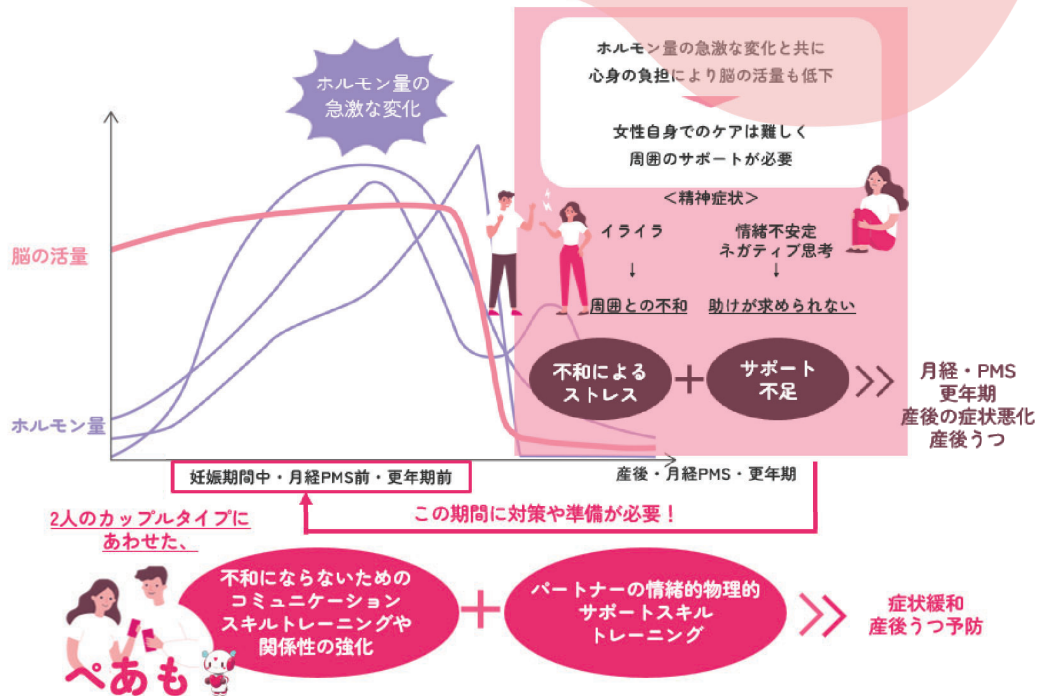
株式会社きゅあも

夫婦・パートナー間の関係強化およびコミュニケーション/
情緒的・物理的サポートスキルトレーニングサービス「ぺあも」を用いた、
女性のウェルビーイング・パフォーマンス向上の実証事業



事業の目的

ホルモンバランスが大きく変化する
月経・PMS、産後、更年期前に女性が、
身近に介入ができるパートナーと一緒に
関係強化およびコミュニケーション
情緒的・物理的サポートスキルトレーニング
サービス「ペあも」を使用することで、
女性のウェルビーイング・パフォーマンス
向上の効果があるか検証を行う。

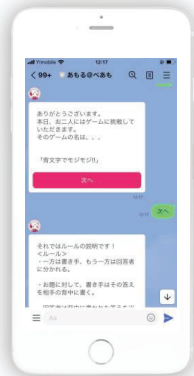




ペアもサービス紹介

ペアもは、女性がパートナーと一緒に自分たちの夫婦・カップルタイプや状況に合わせた、専門医の科学的根拠に基づいた関係強化及びコミュニケーション／情緒的・物理的サポートスキル／産後、月経・PMS、更年期のリテラシーをLINE上でキャラクターと会話をしながら双方向なトレーニングができるサービスです。また、定期的に専門スタッフがLINE通話での面談を行いスキル習得や継続をサポートします。

キャラクターとゲームを
しながらスキル習得



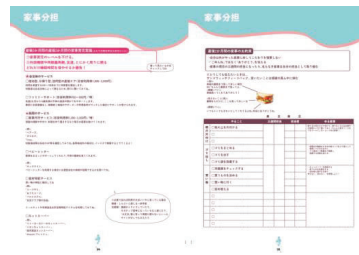
LINE通話による面談



性格分析や喧嘩分析の判定結果
この結果に合わせて2人に合った
プログラムが開始される

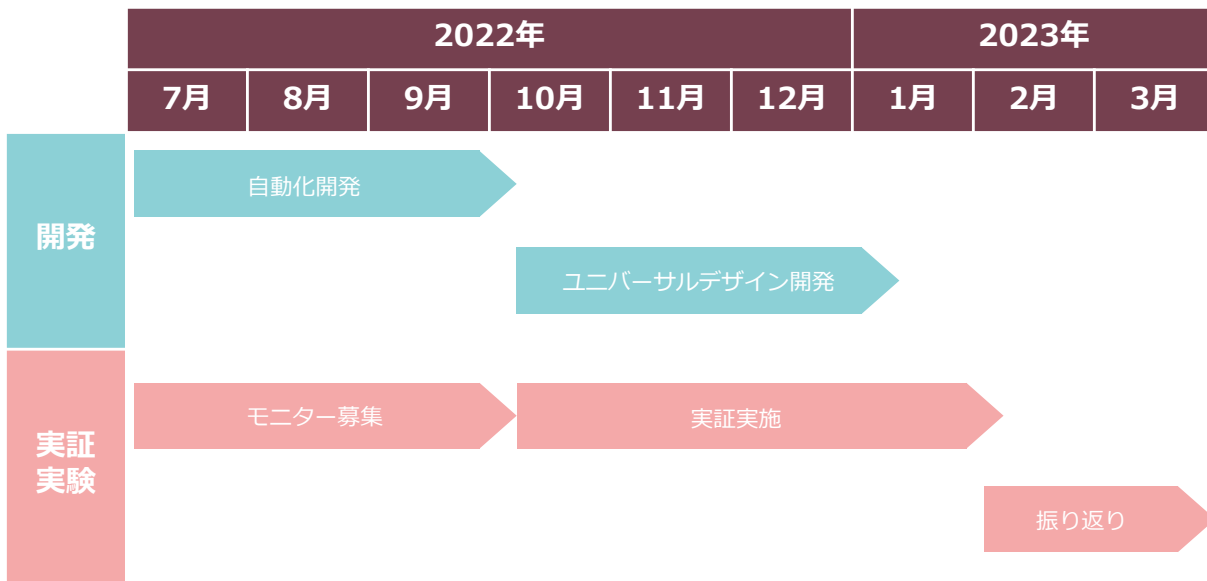


教材冊子。プログラムがすべて完了すると
2人の取り扱い説明書が完成する



スケジュール

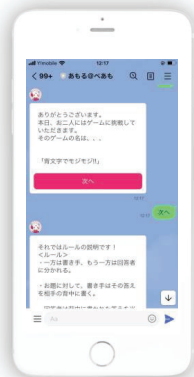
効率化を図るため、9月末までプログラム自動化の開発を行い、10月よりモニター検証を開始。



実施項目一開発一

- ① プログラムの自動化開発。今まで、プログラムを手動で送信しユーザーとやり取りをしていたが、自動化することで、24時間トレーニングすることが可能に。
- ② プログラムで使用し、プログラム後も振り返りとして使用できる冊子の作成。

①LINEでプログラムが
24時間受講可能に



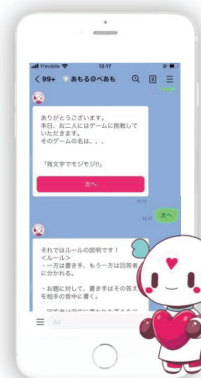
②プログラムがすべて完了すると
2人の取り扱い説明書が完成する



実施項目—実証実験概要—

今後のビジネスモデルとしては、妊婦・パートナーを対象とした場合は産婦人科や自治体、個人働く女性とそのパートナーを対象とした場合は企業や個人への販売を考えています。

今回の実証実験では、産婦人科向けと企業向けの2つの切り口で効果検証を行いました。



ぺあも

妊婦とそのパートナー

産婦人科／自治体／個人

働く女性とそのパートナー

企業／個人

実施項目—実証実験（産婦人科）—

｜ 期間

2～3か月間

｜ モニター

妊婦とそのパートナー

条件

妊娠期間中にプログラムが終了する

プログラム中にパートナーと一緒に空間にいる

｜ 内容

1パンフレットの配布

2産婦人科での説明会の開催

3LINE友達追加～利用

4冊子の郵送

5事前アンケートの実施

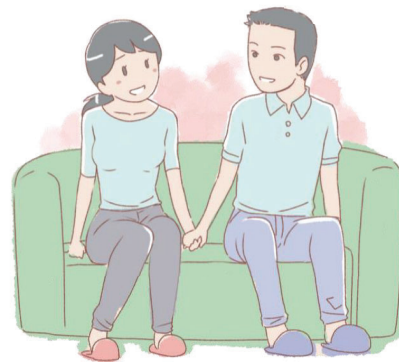
6事後アンケートの実施

7事後インタビューの実施

｜ 評価

アンケート（事前・事後）

インタビュー



実施項目—実証実験（企業）—

｜ 期間

2～3か月間

｜ モニター

社員とそのパートナー

条件

プログラム中にパートナーと一緒に空間にいる

｜ 内容

1パンフレットの配布

2人事担当者によるモニター募集

3LINE友達追加～利用

4冊子の郵送

5事前アンケートの実施

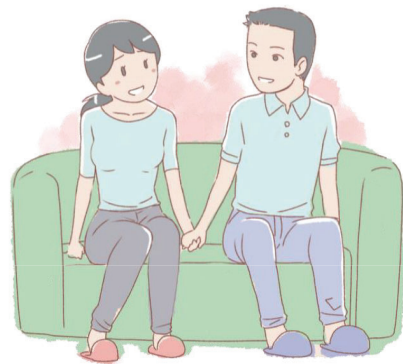
6事後アンケートの実施

7事後インタビューの実施

｜ 評価

アンケート（事前・事後）

インタビュー



事業目標

産後ケアの場合

月経・PMS、更年期の場合

初期アウトカム 令和5年度末		初期アウトカム 令和5年度末	
定性	定量	定性	定量
パートナーとの関係の改善及び強化	サービス利用前後の ・利用者との会話時間の増加 ・利用者との関係満足度の向上	パートナーとの関係の改善及び強化	サービス利用前後の ・利用者との会話時間の増加 ・利用者との関係満足度の向上
妊娠期間中のメンタル不調の寛解及び増悪の予防	サービス利用前後の ・軽度うつ等の寛解率の増加 ・軽度うつ等の増悪率の減少	メンタル不調の寛解及び増悪の予防	サービス利用前後の ・軽度うつ等の寛解率の増加 ・軽度うつ等の増悪率の減少
妊娠期間中のパートナーからの情緒的サポート力の向上	サービス利用女性のパートナーの ・情緒的表現頻度の増加 ・傾聴意識の向上率 ・傾聴方法の理解率	パートナーからの情緒的サポート力の向上	サービス利用女性のパートナーの ・情緒的表現頻度の増加 ・傾聴意識の向上率 ・傾聴方法の理解率
妊娠期間中のパートナー物理的サポート力の向上	サービス利用女性のパートナーの ・産後に対するリテラシー向上率 ・サポート意識の向上率 ・サポート時間の増加 ・トラブル時の対応方法理解率 ・アサーション意識の向上率 ・アサーション方法の理解率	パートナー物理的サポート力の向上	サービス利用女性のパートナーの ・月経・PMSに対するリテラシーの向上率 ・サポート意識の向上率 ・サポート時間の増加 ・トラブル時の対応方法理解率 ・アサーション意識の向上率 ・アサーション方法の理解率
妊娠期間中の妊婦のコミュニケーションスキルの向上	サービス利用女性本人の ・アサーション意識の向上率 ・アサーション方法の理解率	コミュニケーションスキルの向上	サービス利用女性本人の ・アサーション意識の向上率 ・アサーション方法の理解率
働く妊婦とパートナーの仕事のパフォーマンス向上	サービス利用前後でのWHO-HPQ 共通指標スコア上昇した妊婦の割合50%	パフォーマンス向上	サービス利用前後でのWHO-HPQ 共通指標スコアが上昇した女性の割合50%

実施体制

株式会社きゅあも

株式会社ジャパンイノベーション

Doctor



奥平忠寛

奥平産婦人科医院院長
産婦人科医

伊藤英樹

伊藤クリニック院長
精神科医

守澤匡平・美也子

臨床心理士
公認心理士



専門スタッフ (面談を担当)



実証先

産婦人科
クリニック5院

企業5社

その他
個人の希望者等

現状の進捗と成果（11/9時点）

産婦人科事前アンケート回答数

参加人数

82名（41組）

48名（24組）

妊婦のメンタル不調 7名/24名 **29.2%**
(通常約20%)

企業モニター事前アンケート回答数

参加人数

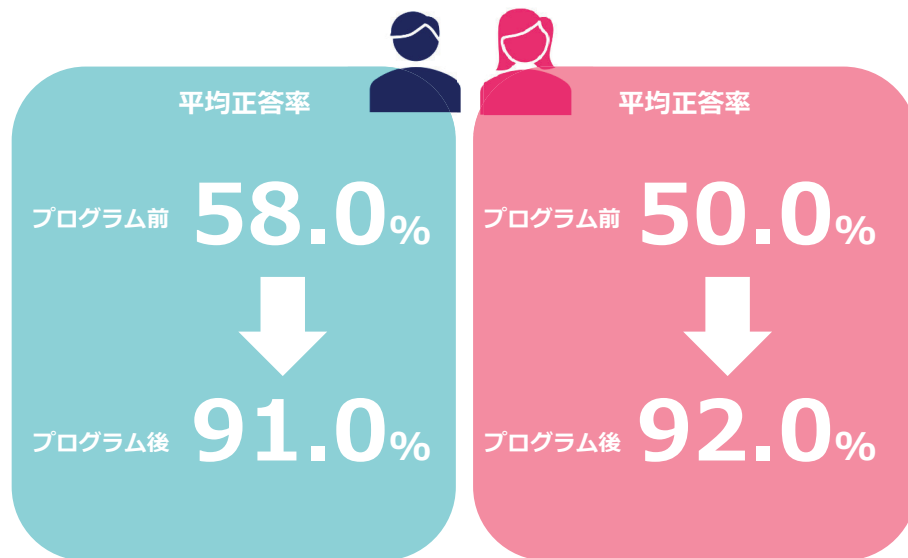
34名（17組）

14名（7組）

女性のメンタル不調 0名/7名 **0.0%**

現状の進捗と成果（11/9時点）

プログラムを受け、女性、パートナー共に情緒的サポートスキルが向上



対象：10組の女性とそのパートナー（20名）

方法：WEBテスト（択一式）

測定：事前アンケート内で設問10問に回答

傾聴プログラム終了後事後アンケート内で回答

現状の進捗と成果（11/9時点）

面談時のヒアリングにて定性的に効果を実感



主語をつけて話すようにしたら夫に要望を伝えやすくなった
習慣的にお互いの話を共有しあう時間を設けるようになった



妻が何を話しているのか理解できるようになった
妻が助けを求めているのが分かるようになった

パートナー側が仕事のパフォーマンスが向上したとの声も上がっている



プログラムで学んだスキルを使用して部下に接していたら、
上司に呼ばれて褒められ、モチベーションが上がった

今後の成果の見通しと展望

【リテラシー】

- 情緒的サポートスキルはプログラム前後で向上した人が**100%**
- 女性のコミュニケーションスキルはプログラム前後で向上した人が**100%**

【面談によるヒアリング】

- 出来事を共有しあう時間を習慣化することで**会話時間が増加**している
- パートナーの傾聴意識があがり、**情緒的サポート力が向上**している
- 女性のコミュニケーションスキルがあがり、パートナーが女性の要望を理解しやすくなることにより、**物理的なサポート意識やサポート時間が増加**している
- **パートナー側のパフォーマンスも向上**している

現段階での課題

| 開発

課題

使用できるパートナーが彼氏や夫、男性に限られている

対応策

ユニバーサルデザインになるように、監修者を入れ改修中

| 実証実験

課題

参加組数の鈍化／参加ハードルが高い

対応策

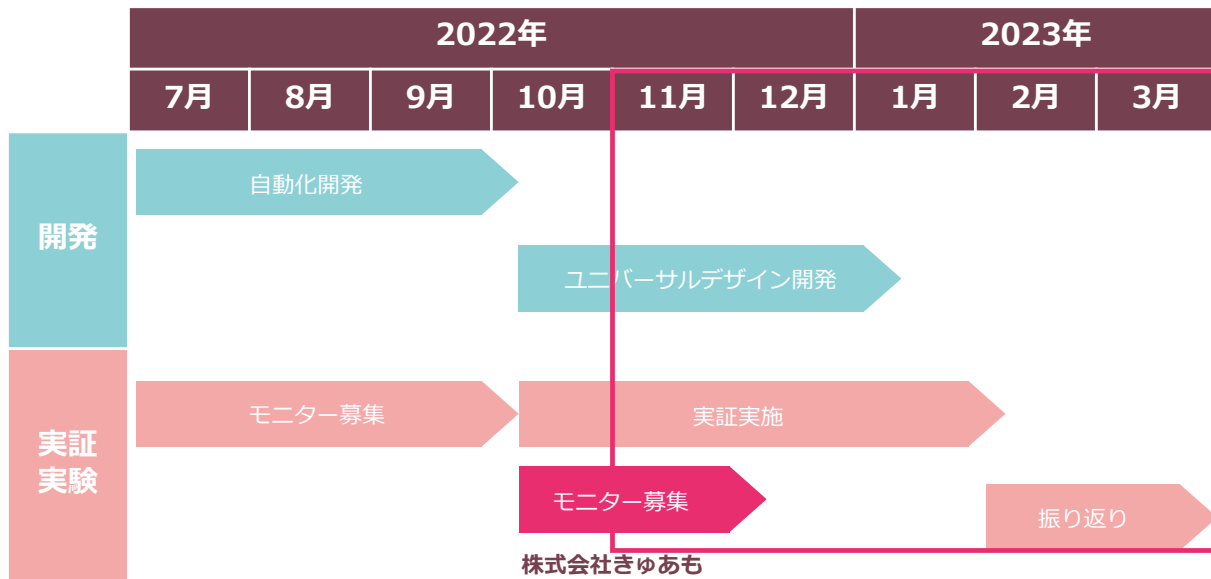
参加企業やクリニック、個人の募集を増やす。スタックユーザーへの声掛け

今後の予定

開発ユニバーサルデザインに向けたコンテンツの改修

実証実験：モニター確保を最優先にし、実証実施を進めていく

(参加企業への営業／クリニックへの声掛け／個人への声掛け／スタックユーザーへの運営側と企業クリニック側での双方の声掛け)



今後の展望

- ① 産後うつや産後の症状緩和だけでなく、少子化対策としての効果検証を行います。そのため使用群未使用群との比較対照実験を行い、中長期的に「離婚率」や「1人目から2人目の出生率」等のデータを取得していく予定です。
- ② 不妊治療プログラムを追加し、不妊治療をしている夫婦やカップルの良好なパートナーシップの構築をサポートします。
- ③ 福利厚生サービスと連携し、社員様が福利厚生でご使用いただきやすくいたします。
- ④ 専門医のセミナー等と組み合わせ、フェムテックプランやメンタル不調パフォーマンス向上プランを作成し、企業様の健康経営に貢献いたします。

ご興味のある、自治体様、産婦人科様、企業様いらっしゃいましたら、ぜひお声がけいただけましたら幸いです。

▼お問い合わせ先



会社概要



<設立>

2023年6月2日

<本社所在地>

沖縄県島尻郡伊平屋村字我喜屋217-27
伊平屋村産業連携拠点センター

<代表者>

代表取締役 河村 哲

<資本金/資本準備金合計>

1,000万円

▼ホームページ



▼お問い合わせ先



本事業に関するお問合せ

フェムテック等サポートサービス実証事業事務局
朝日広告社（PMO担当 NTTデータ経営研究所）
meti_femtech@m.asakonet.co.jp